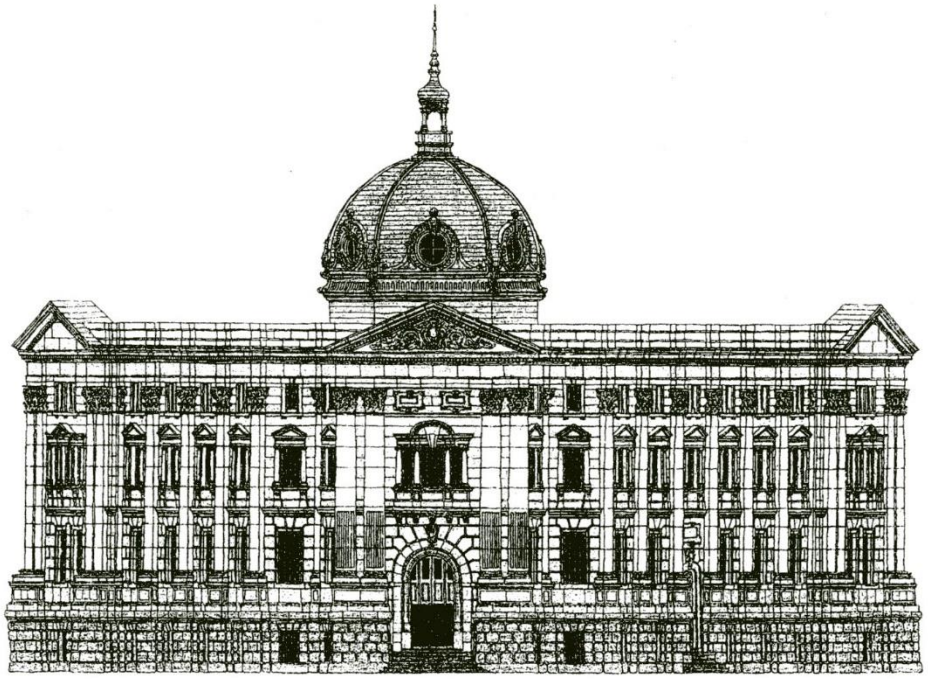
神奈川県立歴史博物館年報

平成30年度



神奈川県立歴史博物館

はじめに

当館は、平成 30 年 4 月 28 日、空調設備等改修工事等に伴う約 2 年間の休館を経て再開館しました。

展示活動においては、当館の基本テーマである「かながわの文化と歴史」を軸に当館所蔵の資料を中心とする常設展を行うとともに、特定分野に絞った特別展を 3 回、特別陳列を 1 回開催しました。

再開後初めての特別展「つなぐ、神奈川県博」では、開館してから 50 年の歩みの中で培ってきた様々なつながりを選りすぐりの館蔵品を通して紹介しました。続いての特別展「真明解・明治美術」では、明治 150 年事業として五姓田義松、眞葛焼など多彩な作品、関連資料を通じて、明治美術の底力を紹介しました。最後の特別展「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」では、鎌倉坂ノ下、御霊神社の面掛け行列などをとりあげ、中世の宗教儀礼とのつながりや、信仰がどのように継承されてきたのかを紹介しました。特別陳列「屏風をひらけば」では、開館以来初の試みとして屏風形式に的を絞っての展覧会を開催しました。

博物館事業の充実を図るために、展示テーマごとに複数の専門分野にまたがって行う総合研究や、学芸員それぞれの専門分野ごとに研究テーマを設定した各種調査及び研究を、科学研究費助成金等の外部資金も積極的に取り入れながら進めています。その研究成果は、再開後の常設展や特別展等に反映させたほか、研究報告書「神奈川県立博物館研究報告―人文科学―」として発行・発表しました。

さらに、博物館資料の保存及び展示活用を図るために、「桜井家文書」等の修繕を実施するとともに、博物館資料の充実のため、「木造釈迦如来坐像」等の購入や寄贈、寄託、借用による資料収集も推進しています。

この他にも、特別展等に併せた講演会等の各種講座や参加体験型行事を開催するとともに、ミュージアムライブラリーでは、図書や刊行物の整備やレファレンス等を通じて情報提供を行い、県民の皆様の生涯学習支援に努めています。また、学校からの展示見学学習等を積極的に受け入れるとともに、学芸員が児童・生徒に対して講義を行う「出前講座」も開催したところです。

89 名の当館ボランティアの方々には、特別展等での展示解説や各種行事補助活動に御協力いただき、来館者からも好評を得ています。

今後もより一層、皆様の期待に応えられるよう館の職員一同、心がけてまいります。

神奈川県立歴史博物館

目次

はじめに
目次
１　沿革・理念
⑴　沿革‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 3
⑵　神奈川県立歴史博物館の理念‥‥‥‥‥ 4
２　管理運営
⑴　組織‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 5
ア　組織及び分掌
イ　職員名簿
⑵　歳入・歳出‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 6
ア　歳入
イ　歳出
⑶　入館者状況‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 6
ア　入館者数
イ　有料入館者内訳
ウ　無料入館者内訳
エ　特別展の入館者状況
⑷　広報・広聴‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 8
ア　広報実績
イ　「県博フレンズ」会議の開催
⑸　施設概要‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 9
ア　概要
イ　館内施設
ウ　外部協力
エ　平面図
３　調査・研究
⑴　館独自の研究事業費によるもの‥‥ 13
ア　総合研究
イ　個別研究
ウ　グループ研究
エ　調査研究成果報告会
⑵　日本学術振興会科学研究費助成事業
によるもの‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 18
⑶　その他外部研究資金によるもの‥‥‥ 20
⑷　個人研究活動‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 22
ア　研究報告書
イ　個人研究活動
４　資料収集・修理・保管・利用
⑴　考古資料‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 33
⑵　歴史資料‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 34
⑶　美術資料‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 36
⑷　民俗資料‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 40
⑸　写真資料‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 41
⑹　資料の燻蒸等‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 42
⑺　その他の資料‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 42
ア　図書
イ　写真
ウ　情報システム
５　展示・教育普及・学習支援
⑴　常設展‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 45
⑵　特別展‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 45
⑶　その他の展示‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 57
⑷　神奈川県博開館 50 周年プロジェクト‥ 66
⑸　教育普及・学習支援事業‥‥‥‥‥‥ 66
ア　講座
イ　特別展等関連行事
ウ　学芸員による展示解説
エ　ミュージアムトーク「今月の逸品」
オ　その他の行事
カ　子ども・青少年向け教育普及事業
キ　学校連携事業の状況
⑹　ミュージアムライブラリー‥‥‥‥‥ 83
⑺　普及印刷物‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 84
ア　図録
イ　広報印刷物
ウ　神奈川県立歴史博物館だより
⑻　ボランティアの活動‥‥‥‥‥‥‥‥ 84
ア　活動状況及び実績
イ　博物館入門講座
ウ　専門研修
エ　その他の研修
⑼　博物館実習生の受け入れ‥‥‥‥‥‥ 86
ア　見学実習
イ　実務実習
６　資料
⑴　条例・規則‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 88
ア　神奈川県立の博物館条例
イ　神奈川県立の博物館組織規則
ウ　神奈川県立の博物館の利用等に関
する規則
⑵　利用案内‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 92

1　沿革・理念

(1)　沿革

昭和 38 年 6 月	教育庁に博物館準備事務室を設置
昭和 41 年 11 月	神奈川県立博物館条例の制定により、神奈川県立博物館を設置
	神奈川県立博物館組織規則の制定により、庶務部、学芸部の 2 部を置く
昭和 42 年 3 月	神奈川県立博物館開館
4 月	附属機関の設置に関する条例の一部改正により神奈川県博物館協議会を設置(委員 20 名)
6 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、庶務部に庶務課、経理課の 2 課を置く
昭和 43 年 4 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部に学芸課、人文課、自然課の 3 課を置く
昭和 44 年 3 月	旧館である旧横浜正金銀行本店が国の重要文化財に指定される
昭和 44 年 7 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、庶務部を管理部に、庶務課を管理課に名称変更
昭和 47 年 8 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部の各課の名称を廃し、企画調整課、学芸第一課、学芸第二課及び学芸第三課の 4 課を置く
昭和 49 年 8 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、管理部に施設保全課を置く
昭和 52 年 5 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部の各課を廃止
昭和 53 年 9 月	文部省学術研究機関の指定を受ける
昭和 55 年 2 月	入館者数 100 万人達成
昭和 62 年 4 月	第 2 次新神奈川計画の重点政策「文化施設 21 世紀構想」の一環として、博物館再編整備事業策定
昭和 63 年 12 月	神奈川県立博物館整備構想懇談会が「神奈川県立博物館整備構想に関する提言－自然系博物館・人文系博物館の基本的な考え方－」を提出
平成 2 年 3 月	人文系博物館の整備計画・展示計画策定
平成 3 年 3 月	博物館総合情報システム整備計画、資料収集計画を策定
平成 4 年 3 月	展示基本設計
平成 5 年 3 月	改修工事基本・実施設計、展示工事実施設計
4 月	県立博物館休館(～7 年 3 月)
10 月	改修工事及び展示工事開始
平成 6 年 11 月	改修工事終了
平成 7 年 1 月	神奈川県立博物館条例改正に伴い「神奈川県立博物館」は「神奈川県立歴史博物館」と名称変更、神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、企画情報部に企画普及課及び情報資料課の 1 部 2 課を置き、管理部の施設保全課を廃止
3 月	展示工事終了、博物館情報システムの一部稼働開始
	神奈川県立歴史博物館開館(18 日)
6 月	国の史跡に指定される
平成 9 年 7 月	博物館ボランティアが活動を開始
平成 11 年 2 月	金銅装笈・椿彫木朱漆笈・清拙正澄墨跡・石室善玖墨跡・源頼朝袖判下文・源頼家袖判下文が県の重要文化財に指定される
	神奈川の職人の道具(17 職種 1,982 点)が県の有形民俗文化財に指定される
平成 11 年 4 月	重要文化財の公開承認施設として文化庁から承認される
平成 13 年 1 月	三浦市間口洞窟遺跡出土品(450 点)が県の重要文化財に指定される
平成 13 年 3 月	附属機関の設置に関する条例の一部改正により、神奈川県博物館協議会を廃止
平成 18 年 4 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、管理部管理課と経理課を統合し管理課に改め、企画情報部企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる
平成 19 年 11 月	旧館である旧横浜正金銀行本店が、経済産業省により近代化産業遺産(横浜港周辺の関連建築物群)に認定される
平成 21 年 8 月	入館者数 200 万人達成
平成 28 年 6 月	空調設備等改修工事のため休館（～平成 30 年 4 月）
9 月	事務室を(宇徳ビル 6 階に)移転
10 月	空調設備等改修工事開始
平成 29 年 12 月	空調設備等改修工事終了
平成 30 年 4 月	空調設備等改修工事終了に伴い、博物館業務を再開

⑵　神奈川県立歴史博物館の理念

神奈川県立歴史博物館の前身は昭和 42 年開館の神奈川県立博物館である。昭和 62 年から自然系と人文系が分離分館する再編整備の検討が行なわれ、平成 7 年のリニューアル開館に至るまで、3 回にわたって博物館活動の理念やテーマが検討・提案された。

ア　昭和 63 年 12 月、神奈川県立博物館整備構想懇談会から提出された「神奈川県立博物館整備構想に関する提言－自然系博物館・人文系博物館の基本的な考え方－」（以下「提言」という。）

イ　平成 2 年 3 月に策定された「神奈川県立人文系博物館（仮称）整備計画」（以下「整備計画」という。）

ウ　平成 7 年 3 月の再編整備時に作られた「神奈川県立歴史博物館概要説明」（以下「概要」という。）

⑺　「提言」における活動理念・テーマ

a　人文系博物館の「意義」（「提言」を要約、抜粋）

(a)　文化の視点からの未来の探求
(b)　考古、歴史、美術、民俗等を統合化した新しい文化史の創造
(c)　歴史的、文化的特色による神奈川のアイデンティティーの探求
(d)　振幅の大きな神奈川の歴史にみる人々の生き方の探求
(e)　神奈川の文化と内外の文化との交流や相互関係の探求
(f)　文化史的意義のある資料の集積と後世への継承

b　「基本テーマ」等の設定

(a)　基本テーマ：「文化の交流と変容」

上記の意義を踏まえ、また、神奈川の文化と歴史を専門的かつ学際的な観点から総合的にとらえる唯一の博物館として活動していくため、基本テーマが設定された。

(b)　サブテーマ：「神奈川の文化と歴史を考える」「日本・世界の神奈川を考える」

空間的、時間的な広がりのある視点や、先人から受け継がれた地域の固有性をとらえる視点に立って 2 つのサブテーマが設定された。

(c)　展開の視点

これらの基本テーマ、サブテーマを、展示をはじめとした様々な博物館活動に反映させるため、次のような展開の視点が設けられた。

［継 承］　各時代の文化と時代を超えて継承される文化を歴史の流れの中でとらえる
［交 流］　他の国や他の地域との文化交流を空間的、時間的広がりの中でとらえる
［変 容］　文化の変容をダイナミックにとらえる
［風 土］　文化の特色を地域風土を通してとらえる

⑴　「整備計画」における活動理念・テーマ

上記「提言」を受け、平成 2 年に「整備計画」が策定され、再編整備の具体的な内容がまとめられたが、「提言」における博物館の意義、性格、基本テーマなどは、歴史博物館のあるべき姿を示す目標・指針として継承されることとなった。

⑼　「概要」における活動理念・テーマ

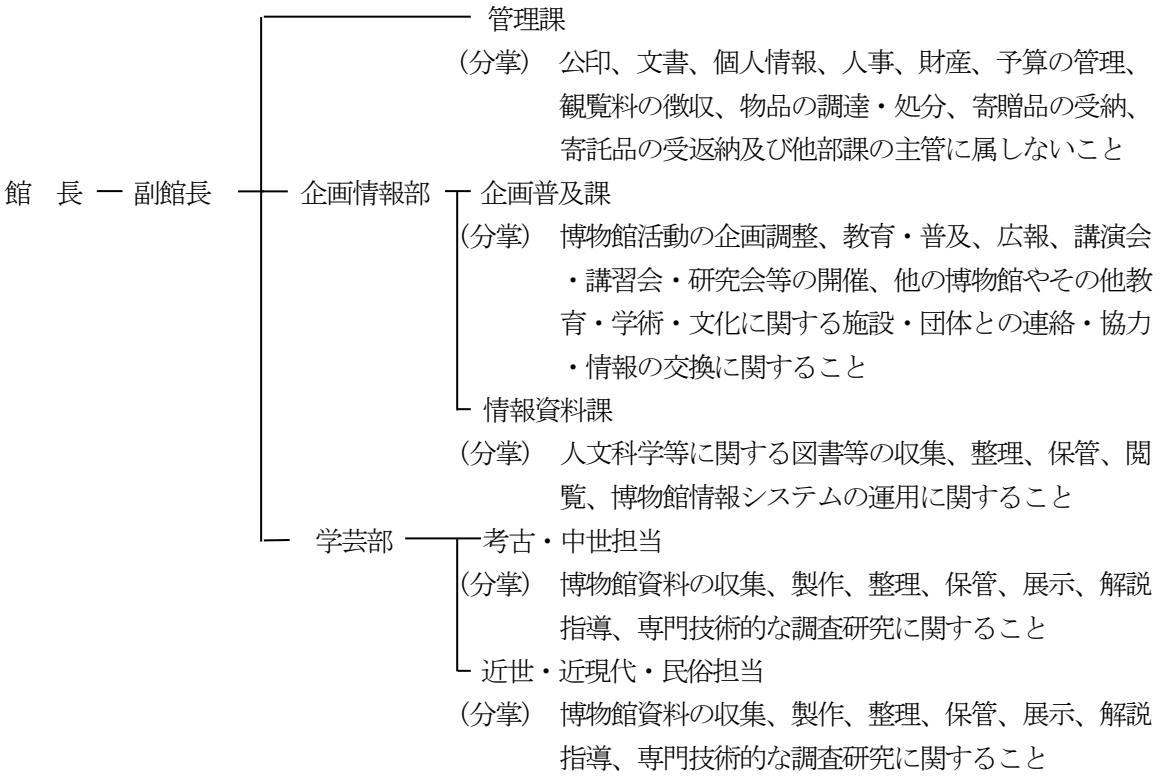
平成 7 年のリニューアル開館に際して作成された「概要」では、当館を「かながわの文化と歴史」を総合的に扱う博物館と位置付けて博物館活動の基本テーマとし、展示テーマを「文化の交流と変容」とすることが示された。

2　管理運営

(1)　組織

（平成 30 年 4 月 1 日現在）

ア　組織及び分掌



イ　職員名簿

館長(技術)		薄井 和男		非常勤司書	鈴木 隆雄
副館長		目黒 節子		非常勤写真職	岸山 浩之
管理課長		岡崎 郁夫		非常勤資料整理員	檜皮 千穂
管理課	副主幹	佐藤 好枝		非常勤資料整理員	加茂 たがね
	副主幹	阿部 雅明		非常勤事務補助員	三瓶 裕子
	主査	上松 純子		非常勤事務補助員	神津 由紀子
	主事	肥田野 希		非常勤事務補助員	泉山 花江
	非常勤事務補助員	瀬戸 昇	学芸部長		望月 一樹
	非常勤事務補助員	柴田 健治		専門員	新井 実
	非常勤事務補助員	新井 葉子		非常勤事務補助員	小堀 信夫
	非常勤自動車運転員	大塚 清志		非常勤資料整理員	吉澤 智恵子
企画情報部長		天野 勇		非常勤資料整理員	中村 茉貴
企画普及課長(兼務)		天野 勇	(考古・中世担当)		
企画普及課	主査	大島 理加		学芸員	小井川 理
	主事	田村 佳大		学芸員	千葉 毅
	主任学芸員(兼務)	丹治 雄一		学芸員	神野 祐太
	学芸員(兼務)	神野 祐太		学芸員	橋本 遼太
	非常勤教育普及員	中澤 洋		学芸員	渡邊 浩貴
	非常勤事務補助員	登 大輔	(近世・近現代・民俗担当)		
	非常勤事務補助員	野島 愛子		主任学芸員	嶋村 元宏
	臨時学芸員	小松 百華		主任学芸員	桑山 童奈
	非常勤学芸員	濵本 明海		主任学芸員	丹治 雄一
	非常勤学芸員	豊田 倫子		主任学芸員	角田 拓朗
	非常勤学芸員	市野 悦子		学芸員	新井 裕美
情報資料課長		宇賀田 信		学芸員	武田 周一郎
情報資料課	副主幹	伊藤 友久		専門員(学芸員)	古宮 雅明
	主任専門員	森 由紀		非常勤学芸員	根本 佐智子
	専門員	黒田 博明		非常勤学芸員	三浦 麻緒

⑵　歳入・歳出

ア　歳入

（単位：千円）

科　　目	金　額	内　　訳
教育使用料	11,515	観覧料収入、目的外使用許可使用料
教育事業収入	3,459	図録販売収入
立替収入	240	ミュージアム・ショップ、喫茶等の光熱水費
雑入	1,024	複写代、芸術文化助成
教育受講料収入	385	県立社会教育施設公開講座受講料
合　　計	16,623	

イ　歳出(人件費含まず)

（単位：千円）

事　業　名	金　額	内　　訳
維持運営費	94,376	維持管理・事業運営
博物館事業費	24,156	展示事業、調査研究、資料整備、学習支援等
情報システム整備費	49,827	システム運用、データ入力等
県立社会教育施設公開講座事業費	477	講座の開催
教育施設維持修繕費	1,163	施設・設備の修繕
教育施設各所修繕費	2,463	消防設備の修繕
合　　計	172,462	

⑶　入館者状況

ア　入館者数

（単位：人）

月	展示室入館者			フリーゾーン利用者	合　　計
	有料入館者	無料入館者	小　　計		
4	0	14,102	14,102	0	14,102
5	6,870	2,313	9,183	5,090	14,273
6	4,221	2,166	6,387	3,380	9,767
7	2,014	655	2,669	2,622	5,291
8	4,822	1,538	6,360	2,243	8,603
9	6,402	5,602	12,004	3,122	15,126
10	2,319	826	3,145	4,110	7,255
11	3,655	9,585	13,240	2,645	15,885
12	2,416	1,559	3,975	2,353	6,328
1	1,683	1,650	3,333	2,631	5,964
2	2,033	3,460	5,493	2,912	8,405
3	2,514	4,232	6,746	3,670	10,416
合計	38,949	47,688	86,637	34,778	121,415

イ　有料入館者内訳

（単位：人）

月	個人				団体(団体扱い含む)				合計
	20歳以上	20歳未満	高校生	65歳以上	20歳以上	20歳未満	高校生	65歳以上	
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	2,038	168	246	1,646	1,507	141	0	1,124	6,870
6	1,211	134	80	1,067	1,022	66	0	641	4,221
7	995	158	25	472	314	36	0	14	2,014
8	1,588	150	216	1,029	1,158	62	0	619	4,822
9	1,680	179	43	1,909	1,207	152	0	1,232	6,402
10	942	89	54	892	205	28	0	109	2,319
11	926	132	52	1,306	485	70	0	684	3,655
12	883	111	49	814	373	20	0	166	2,416
1	780	81	18	668	135	1	0	0	1,683
2	1,028	91	65	646	187	16	0	0	2,033
3	1,127	87	36	1,026	214	24	0	0	2,514
合計	13,198	1,380	884	11,475	6,807	616	0	4,589	38,949

ウ　無料入館者内訳

（単位：人）

月	条例別表備考欄指定の無料入館者				減免による無料入館者							合計
	未就学幼児	小学生	中学生	特別支援学校	高校生	生徒引率者	優待券	招待券	障がい者	ぐるっとパス入場券	その他	
4	0	0	0	0	0	0	0	14,102	0	0	0	14,102
5	5	125	1,060	0	89	20	7	456	225	290	36	2,313
6	5	32	507	0	23	7	10	1,038	170	294	80	2,166
7	12	109	77	0	3	21	0	102	94	156	81	655
8	17	217	185	0	14	1	8	552	164	212	168	1,538
9	8	91	288	13	0	19	9	4,604	201	242	127	5,602
10	8	328	67	0	5	36	0	90	92	150	50	826
11	1	1,620	886	0	14	122	4	6,575	149	160	54	9,585
12	10	143	413	0	108	15	1	608	89	132	40	1,559
1	12	286	775	0	1	32	6	220	94	176	48	1,650
2	14	275	1,131	0	1	31	6	1,492	84	135	291	3,460
3	13	150	170	0	0	1	24	3,384	132	235	123	4,232
合計	105	3,376	5,559	13	258	305	75	33,223	1,494	2,182	1,098	47,688

エ　特別展の入館者状況(前掲表内数)

(単位：人)

特　別　展　名	有料鑑賞者	無料鑑賞者	合　計
神奈川県博開館51周年記念　つなぐ、神奈川県博 Collection to Connection	4,782	11,042	15,824
明治150年記念　真明解・明治美術 増殖する新メディア	5,597	5,051	10,648
鎌倉ゆかりの芸能と儀礼	2,549	7,241	9,790
合　　計	12,928	23,334	36,262

(4)　広報・広聴

ア　広報実績

平成30年度の広報実績は下記のとおり(館のＰＲ、特別展・テーマ展、催しもの等)。

(単位：件)

媒体別	紙媒体				電波媒体		インターネット	計
	新聞	雑誌	単行書	その他	テレビ	ラジオ		
件数	171	62	3	19	12	4	87	358

イ　「県博フレンズ」会議の開催

開かれた博物館づくりをめざし、当館が実施する事業について県民の意見を組織的・継続的に聴くため、公募により委嘱した８名を構成員とする「県博フレンズ」会議を開催し、館職員との双方向の話合いを行った。なお、本事業は当館の事業を実施する際の指針である「中長期計画」に位置付けられた事業として開催したものである。

(ｱ)　開催状況(年４回)

会議	開　催　日	会　議　テ　ー　マ　等
第１回	5月20日(日)	○館の概要紹介 ○館内見学 ○事業実施計画
第２回	9月22日(土)	○特別展「つなぐ、神奈川県博」 ○特別展「真明解･明治美術」 ○特別展に関する催し物等 ○意見交換
第３回	11月25日(日)	○特別展「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」 ○特別展に関する催し物等 ○意見交換
第４回	3月17日(日)	○かながわの遺跡展「潮風と砂の考古学」 ○特別陳列「屏風をひらけば」 ○展示に関する催し物等 ○一年間の振り返り

(ｲ)　実施結果

会議で出された意見・感想の一部は、当館事業に反映した。

⑸　施設概要

ア　概要

(ｱ)　施設の規模

敷地面積　　4,160.82 ㎡

構造　　石・煉瓦造り(一部鉄筋コンクリート造り)地上3階・地下1階

延床面積　　10,565.47 ㎡

部門別面積　　展示部門＝約3,896 ㎡、学習支援部門＝約386 ㎡、収蔵部門＝約619 ㎡
研究部門＝約1,306 ㎡、サービス部門＝約438 ㎡、管理部門＝約1,251 ㎡
その他共用部分＝約2,670 ㎡

(ｲ)　建物の特徴

旧館部分　　旧横浜正金銀行本店本館(明治37年(1904)竣工、設計：妻木頼黄)
ネオ・バロック様式

新館部分　　神奈川県立博物館として新築(昭和42年(1967))

指定状況　　国指定重要文化財(建物旧館部分・昭和44年(1969)3月12日指定)
国指定史跡(平成7年(1995)6月27日指定)

(ｳ)　施設の状況

1　　階：【展示室、学習支援関係諸室】
特別展示室、コレクション展示室、
ミュージアムライブラリー、ミュージアムショップ、喫茶室、情報処理室　等

2　　階：【展示室、管理課・企画情報部関係諸室】
総合テーマ展示室(近世・近代・現代、民俗)
館長室、管理課、企画情報部、応接室、図書整理室、書庫　等

3　　階：【展示室、学芸部関係諸室】
総合テーマ展示室(古代・中世)
学芸部、資料整理室、展示準備工作室、作業室、収蔵庫　等

地下1階：【講堂、バックヤード諸設備】
講堂、収蔵庫、荷捌室、防災センター、写場、写真整理室、資料整理室、
その他機械室、倉庫　等

イ　館内施設

1階のフリーゾーンには来館者のために次の施設がある。

(ｱ)　ミュージアムショップ

博物館の刊行物(展示解説書、特別展図録)をはじめ、神奈川の文化や歴史に関する書籍、所蔵資料の絵はがき、博物館見学の記念になるような品々を販売する。運営は民間の企業が行っている。

(ｲ)　ともしび喫茶室

来館者に休憩してもらえるように喫茶室がある。軽食、喫茶ができ、店内には県内の福祉施設で作られた品々も販売されている。運営は「社会福祉法人 県央福祉会」が行い、知的障がい者の就業の場ともなっている。

ウ　外部協力

神奈川県立歴史博物館には、県内の博物館の質的向上や文化財に対する普及啓発を行う次の外部団体の事務局が設置されている。

(ｱ)　神奈川県文化財協会

昭和29年(1954)から活動している任意団体である。現在は会員に対しての講演会、見学会など文化財に関する知識の啓発活動を中心に活動している。協会員数205人(平成30年4月1日現在)。

事務局長	副館長	目黒 節子
事務局次長	学芸部長	望月 一樹
事務局員	企画普及課長	天野 勇
〃	学芸員	新井 裕美
〃	学芸員	神野 祐太
〃	副主幹	阿部 雅明
〃	主事	肥田野 希
〃	専門員	新井 実

(ｲ)　神奈川県博物館協会

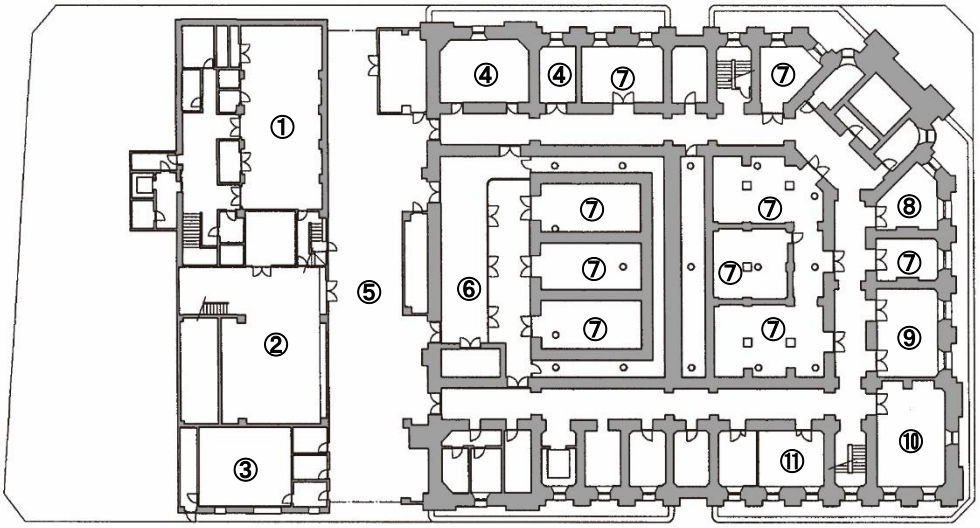
昭和30年(1955)から活動している県内博物館施設の任意団体で、博物館のＰＲ、職員の研修、会報の発行など各種活動を行っている。加盟館園数99館(平成30年4月1日現在)。

会長	館長	薄井 和男
事務局長	副館長	目黒 節子
事務局次長	学芸部長	望月 一樹
人文科学部会幹事 総合防災計画推進委員	学芸員	千葉 毅
事務局員	副主幹	佐藤 好枝
〃	専門員	小堀 信夫

エ　平面図

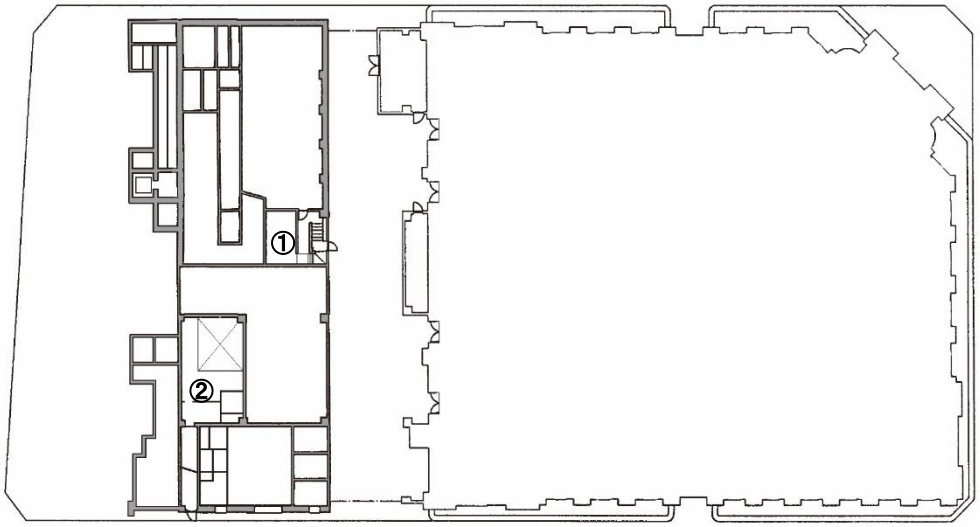
地階

①講堂
②空調機械室
③防災センター・
　保安員室
④電気室・
　バッテリー室
⑤サービスヤード
⑥荷捌室
⑦収蔵庫
⑧資料クリーニング室
⑨展示準備室
⑩写場
⑪写真整理室



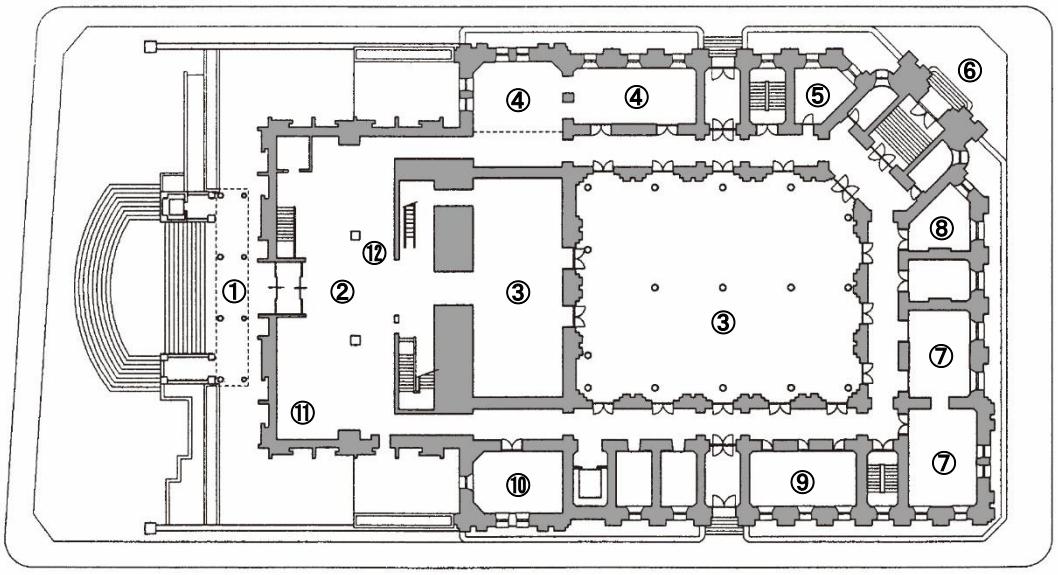
中１階

①映写室
②中央監視室



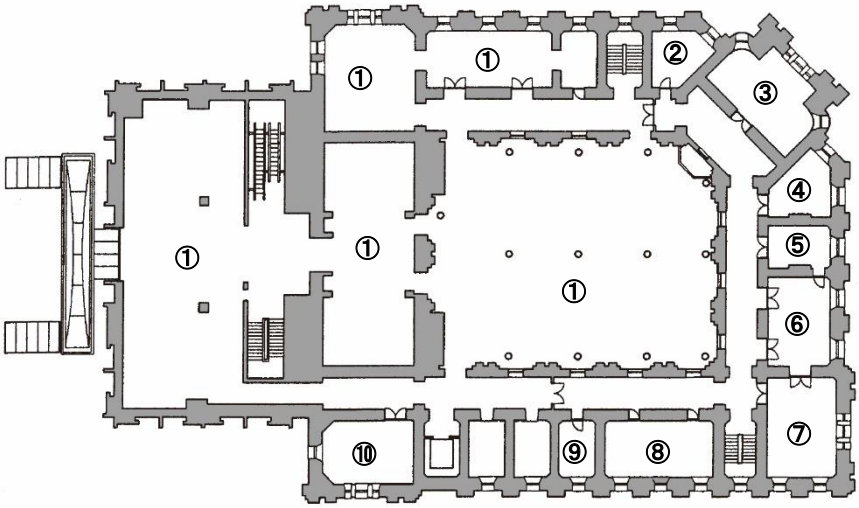
１階

①正面玄関
②エントランスホール
③特別展示室
④コレクション展示室
⑤ボランティアルーム
⑥馬車道玄関
⑦ミュージアム
　　ライブラリー
⑧情報処理室
⑨会議室
⑩喫茶室
⑪ミュージアム
　　ショップ
⑫総合受付



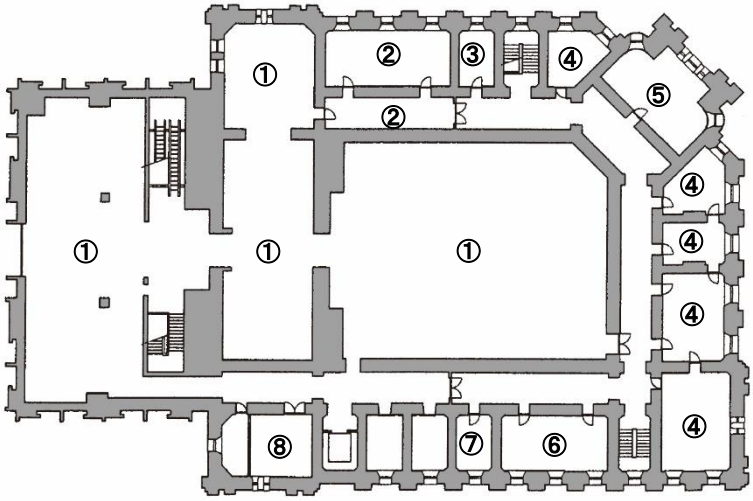
２階

①総合テーマ展示室
②図書整理室
③書庫
④電話交換室
⑤館長室
⑥応接室
⑦管理課室
⑧企画情報部室
⑨第２応接室
⑩空調機械室



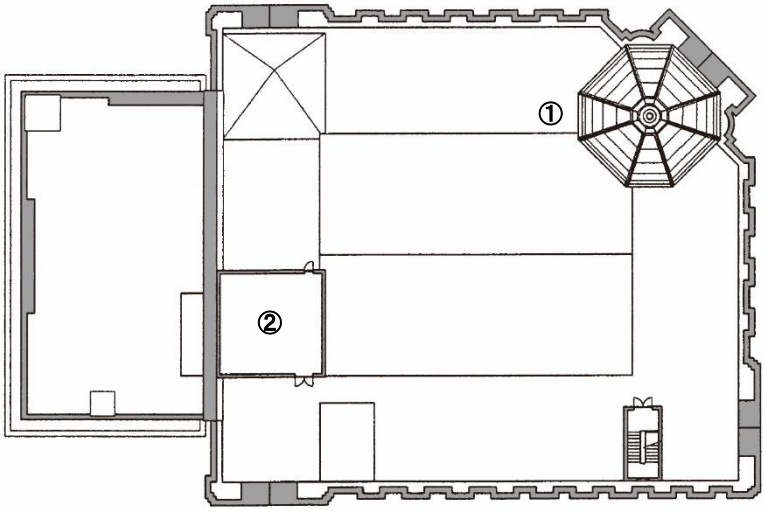
３階

①総合テーマ展示室
②収蔵庫
③畳敷作業室
④資料整理室
⑤保存修復処置室／印刷室
⑥学芸部室
⑦共同作業室
⑧空調機械室



屋上

①ドーム
②空調機械室



3　調査・研究

(1)　館独自の研究事業費によるもの

ア　総合研究

研 究 課 題：神奈川県域における大正・昭和期の文化財保護・地域史研究と在野研究者の関係性をめぐる研究
研究代表者：学芸員　千葉 毅
研究分担者：学芸員　武田 周一郎、学芸員　神野 祐太、元三浦市教育委員会　須田 英一氏
研 究 期 間：平成30～令和2年度
概　　要：神奈川県域における当該期の文化財保護に携わった人物らのうち、赤星直忠、石野瑛について情報収集を行った。両者が調査等に関わった遺跡等の資料は、複数の機関に分散しており、その全貌も把握されていないことから、30年度は関連資料の所在調査を中心に進めた。

イ　個別研究

研 究 課 題：「横浜浮世絵」と瓦版にみる横浜
研究代表者：主任学芸員　桑山 童奈
研究協力者：公益社団法人川崎・砂子の里資料館　小池満紀子氏
研 究 期 間：平成30年度
概　　要：当館と公益社団法人川崎・砂子の里資料館、双方の所蔵の横浜浮世絵の摺について比較検討を行い、あわせて瓦版についても考察を行った。

ウ　グループ研究

次のテーマでグループごとに研究を進めている。
考　　古：神奈川県内遺跡・遺物調査
中　　世：宋風文化の研究
近　　代：横浜の木版印刷に関する基礎的研究
現　　代：戦後横浜における映画館活動に関する基礎的研究
民　　俗：民俗社会における諸行事の変化

エ　調査研究成果報告会

（第1回）
開催日時：平成30年5月30日（水）　9：30～16：20
内　　容：総合研究および個別研究の成果等について報告した。（平成29年度分）

(ア)　総合研究

発表者：主任学芸員　角田 拓朗
テーマ：岩橋教章・章山に関する総合的研究
概　要：近代の地図製作を担った岩橋親子に関する総合的研究。当館に収蔵される資料群を中心に、公文書、関連資料類を収集・分析し、両者の活動を具体的に明らかにした。あわせて美術史、地図史上の位置付けを探り、日本印刷文化史という大きな枠組みも想定し、そのなかで彼らの活動を再確認する試みも行った。岩橋教章は幕末期から継続して地図製作に取り組み、オーストリアでの学習を大きな転換点として、近代地図製作を一新させたことを具体的な史料類から明らかとした。また、その息子章山はこれまで言及されることがなかったが、章山の思想とその活動について資料を用いて可能な限り具体化することで、教章イメージを彼が再構築している事実を指摘した。以上の調査概要は、平成29年12月に研究成果報告書としてまとめてある。

(ｲ) 個別研究

a 発表者：学芸員　千葉 毅
テーマ：「金沢文庫の考古資料―縄文時代の遺物―」
概　要：神奈川県立金沢文庫に保管されている考古資料のうち、特に縄文時代の遺物について基礎的な整理を行い、その来歴を検討した。遺物には「称名寺」「青ヶ台」といった墨書きの注記が認められるものが多く、「称名寺」注記のものは、その筆跡や特徴から赤星直忠による1947年の横浜市称名寺貝塚E地点の発掘調査時に出土したものの一部であることが推察された。「青ヶ台」については、佐野大和による1941年の発掘調査時の出土品で1943年に報告されたものの一部であることを明らかにした。いずれも、これまで所在が把握されていなかったものである。しかし、金沢文庫に保管される経緯は明らかにできておらず、今後の課題となった。

b 発表者：学芸員　小井川 理
テーマ：一遍聖絵詞書料絹の装飾性について
概　要：国宝一遍聖絵の詞書料絹の装飾性について、中国・宋代の花箋の現存作例や日本国内における舶載紙受容の様相をふまえ、宋代の料紙装飾の影響を受けたものである可能性を指摘した。

c 発表者：学芸員　神野 祐太
テーマ：津久井町の仏像
概　要：発表者は平成28年（2016）度から平成29年（2017）度の2か年でおこなわれた『津久井町史』文化遺産編編纂のための文化財調査に参加し（発表者は平成28年3月より）、津久井町（現、相模原市緑区の一部）の寺社等に所蔵される彫刻作品を調査する機会を得た。それらの調査報告を『津久井町史』文化遺産編の「彫刻（仏像・神像）」として薄井和男氏と分担執筆した。本発表では、津久井町の彫刻について概要を述べ、時代順に特徴的な作例について紹介する。

d 発表者：学芸員　橋本 遼太
テーマ：宝生寺仏涅槃図について
概　要：平成29年度に実施した宝生寺所蔵仏涅槃図の解体修理の過程で軸木から確認された墨書の内容について、概要を速報として報告した。報告内容は、のちに『神奈川県立博物館研究報告 ―人文科学―』45号に「横浜市宝生寺所蔵仏涅槃図の表現と伝来について―鎌倉地域における円覚寺本仏涅槃図の影響力―」の論題でまとめた。

e 発表者：主任学芸員　桑山 童奈
テーマ：大小暦における絵画表現
概　要：科学研究費の分担者となっている大小暦の研究の報告。機知に富んだカレンダーである大小暦の、月の大小の表し方について、特に絵画表現に注目して、考察した。

f 発表者：専門員　古宮 雅明
テーマ：「相州鎌倉之絵図」について
概　要：「相州鎌倉之絵図」は今年度購入資料で類例が少ない写本系鎌倉絵図。記載情報を類本と比較し、慶應本系の写本であること、成立時期は17世紀中葉であることなどを考察した。

g 発表者：非常勤学芸員　根本 佐智子
テーマ：関八州大絵図について
概　要：後記「(4)ア研究報告書(ｱ)d」を参照

h　発表者：主任学芸員　嶋村 元宏
テーマ：当館所蔵　阿部家資料について
概　要：当館では、かながわの歴史のみならず、日本史上画期となったペリー来航時に、老中首座にあった阿部正弘の家に伝わった資料群を阿部家資料として所蔵している。これまで、1997 年にコレクション展示「嘉永の華――阿部家資料」において、全資料を紹介したが、資料研究を深めたうえでの展示ではなかった。そこで、阿部家資料の位置づけを明確にすべく、1　阿部家伝来品の所蔵・保管先の確認、2　当館所蔵阿部家資料の紹介、3　他機関が所蔵・保管する阿部家伝来品との関連性を視野に入れつつ、個々の資料の来歴を検討し、特に成立年代について考察、4 阿部家伝来史料を活用して浜野省吾が編んだ『懐旧紀事―阿部正弘事蹟』（明治 32（1889 年刊）と阿部家伝来史料との関係を明らかにした。その結果、当時作成された史料に加え、明治時代になって『懐旧紀事―阿部正弘事蹟』編纂過程で収集された写本類が含まれていることが判明した。

i　発表者：主任学芸員　丹治 雄一
テーマ：空調設備等改修工事時に発見された横浜正金銀行本店時代の金属天井について
概　要：平成 28 年度から 29 年度にかけて行った当館の空調設備等改修工事の際に、2 階の管理課室と応接室で存在が確認された金属天井について考察を行った。考察の結果、この金属天井が横浜正金銀行本店本館の関東大震災復旧工事時に設置されたもので、震災後も会議室（現管理課室）と重役室（現応接室）という主要室であったため金属天井が設置されたと考えられること、金属の天井を製作したメーカーは震災復旧工事で営業室に金属天井を納入した東京市の田村商会である可能性があることを指摘した。

j　発表者：学芸員　武田 周一郎
テーマ：戦後横浜における映画館活動に関する基礎的研究―横浜東宝会館を事例に―
概　要：横浜東宝会館は 1956（昭和 31）年から 2001（平成 13）年まで馬車道で営業していた映画館である。シネコンの先駆けとして親しまれた同館は、昭和戦前期、そして伊勢佐木町を中心として展開してきた横浜の映画館に関する研究を相対化しうる存在として位置づけられる。本報告では横浜駅周辺の開発や馬車道の再開発などの動向を背景にして、横浜東宝会館が馬車道商店街と連携して周年事業を実施していたことを明らかにした。

k　発表者：学芸員　新井 裕美
テーマ：小正月行事における子どもの役割について
概　要：県内では、現在でも子どもたちが主体となって小正月における祭祀やそれにかかる諸行事を行う地域がある 。当発表では、調査地の事例の現況を報告した。また、小正月行事のなかでも特に子ども集団内の年長者が果たす役割について考察した。

l　発表者：非常勤学芸員　三浦 麻緒
テーマ：篠原歌舞伎の衣装について
概　要：1965（昭和 40）年、相模原市緑区（旧津久井郡藤野町牧野篠原）の篠原歌舞伎保存会より 100 点を超える衣裳や小道具の寄贈を受けた。篠原歌舞伎の衣裳は明治 30 年代に浅草の芝居小屋から東京歌舞伎の役者の衣裳 230 点を中古で買い取ったと伝えられている。当該地域では、明治～昭和初期にかけて盛んに地芝居が行われた。本報告では使用された衣裳について内訳や画像などを紹介し、詳細について『神奈川県立博物館研究報告』45 号の資料紹介「篠原歌舞伎の地芝居衣裳について―付・当館所蔵衣裳一覧表―」にまとめた。

（第２回）

開催日時：平成 31 年 3 月 5 日（火）　9：20～16：25

内　　容：総合研究および個別研究の成果等について報告した。（平成 30 年度分）

(ｱ)　総合研究

発表者：学芸員　千葉 毅

テーマ：称名寺貝塚発掘調査と赤星直忠

概　要：神奈川県立金沢文庫に保管されている考古資料のうち、赤星直忠による 1947 年の称名寺貝塚Ｅ地点（当時は「薬王寺貝塚」と呼称）出土と推察された縄文時代遺物について、横須賀市自然・人文博物館が所蔵する同調査時の出土品および県文化遺産課が収蔵している赤星直忠による調査メモ（通称「赤星ノート」）との比較検討を行った。「赤星ノート」中の「薬王寺貝塚」調査出土遺物スケッチの中に、金沢文庫保管資料、横須賀市博保管資料が含まれていることを確認し、推察の蓋然性を高めることができた。しかし、横須賀市博保管資料の中に、金沢文庫に関連するラベルが貼付されている資料も見出され、二者の来歴等については課題を残すこととなった。

(ｲ)　個別研究

a　発表者：学芸部長　望月 一樹

テーマ：ペリー来航時における川崎沿岸地域の様相

概　要：これまで当該時期における川崎沿岸地域については、資料がないことから研究が進んでいなかった。数年前に江戸後期から明治初期に至る池上新田村の御用留が一括で発見されたことから、本資料を解読する中でペリー来航時の嘉永７年当時の様相が次第に明らかになりつつある。そこで嘉永７年における地域の動きについて検討した。

b　発表者：学芸員　小井川 理

テーマ：後藤運久『西遊所録』について

概　要：鎌倉彫作家後藤運久（1868-1947）が明治 25 年頃に奈良京都の古社寺等をめぐった折の模写写生『西遊所録』から、運久の古典学習、同時代の芸術家との関係性などを考察した。

c　発表者：学芸員 神野 祐太

テーマ：古代における東国の塑像について

概　要：平成 31 年度にメトロポリタン東洋美術研究センターの助成を受けて実施した東国の出土塑像について概要を報告し、あわせて重要作例を取り上げる。東国の出土塑像例は 26 件あり、そのうち 16 件を実査することができた。千代廃寺をはじめとする東国の古代寺院跡出土塑像の製作年代や尊像構成について考察した。

d　発表者：学芸員 橋本 遼太

テーマ：高城寺旧蔵の十六羅漢図にみる牧谿と鎌倉

概　要：佐賀県高城寺に伝来した当館所蔵の十六羅漢図について、大枠では金大受筆本に拠りながらも猿猴捉月や朝陽対月の図像を含むことを確認し、こうした羅漢図としては特異な図像が鎌倉地域で重要視された画僧牧谿に関わるものである可能性を指摘した。

e　発表者：学芸員　渡邊 浩貴

テーマ：なぜ鶴岡八幡宮の弁財天は横坐なのか―『胡琴教録』読書ノート

概　要：鶴岡八幡宮所蔵の木造弁才天坐像は、他の多くの弁才天の坐法が安坐であるのに対して横坐であるため、極めて特異な事例として先行研究で評価されてきた。そこで本報告は、なぜ同宮所蔵の弁才天が横坐であるのかについて、鶴岡所属の楽人で同像の寄進者である中原光氏を対象に、彼の楽統形成と彼の一族の家伝楽書『胡琴教録』などを読み解くことでその背景を探った。その結果、弁才天の形姿の選択において、後進の楽家である中原氏による、

当時京都音楽文化で大きな影響力を持った妙音院流への対抗意識と、京都とは異なる中世鎌倉の楽家としての楽統意識があったことを指摘した。

f　発表者：主任学芸員　桑山 童奈
テーマ：横浜浮世絵と瓦版
概　要：公益社団法人川崎・砂子の里資料館学芸員小池満紀子氏の協力を得て、当館と川崎・砂子の里資料館が所蔵する横浜浮世絵について、①横浜浮世絵のカタログ・レゾネともいえる『集大成横浜浮世絵』（神奈川県立博物館編、有隣堂、1979 年刊）を基に「揃物」の視点に立った情報の再整理、②摺りの違いなどの検討を行った。また、横浜開港を題材とした瓦版の研究については情報収集を行うに留まった。

g　発表者：専門員　古宮 雅明
テーマ：「津村腰越村と片瀬村漁猟場出入裁許絵図」について
概　要：本絵図は大型資料であるため展開できず、内容の精査が出来ていなかった。今年、精密な写真撮影を行ったことを期に、記載内容を精査し、結果を報告した。

h　発表者：主任学芸員　嶋村 元宏
テーマ：オランダ別段風説書はいかに読まれたか―朱書きテキストを事例として―
概　要：当館が所蔵する阿部家資料には、嘉永 3 年（司天台訳）、嘉永 4 年（崎陽訳）、嘉永 5 年（司天台訳）のオランダ別段風説書が含まれている。このうち、嘉永 4 年の別段風説書には、朱による書き込みがみられる。これまで、検討されることのなかった、朱書きを検討することにより、この書き込みが意味するものについて考察した。その結果、阿部家には、嘉永元年から嘉永６年までの長崎訳と司天台訳の２種類が遺っていたこと、主に司天台訳テキストを参照しつつ、長崎訳テキストへ註記を施していたこと、長崎訳テキストと司天台訳テキストとを比較し、司天台訳テキストの訳を良としていること、朱書きの主は地理学に関心を持ち、地理書を参照しながらて別段風説書を読んでいたことを明らかにした。

i　発表者：主任学芸員　丹治 雄一
テーマ：静岡県河津町教委所蔵鈴木家文書について
概　要：静岡県賀茂郡下河津村（現河津町）で石材業を営んでいた「鈴木伊兵衛」に関わる資料群「鈴木家文書」の概要について報告した。同文書には、鈴木伊兵衛が下河津村沢田で採掘される「沢田青石」（凝灰岩＝軟石）と伊豆半島で採掘される「伊豆石」「相州堅石」（安山岩＝堅石）双方の採掘および販売に関する資料が収められており、すでに知られている横浜船渠株式会社第一号船渠（1899 年竣工）への石材納入だけでなく、それに先立って建設された同社第二号船渠（1896 年竣工）への石材納入が確認できた点が大きな成果であった。

j　発表者：主任学芸員　角田 拓朗
テーマ：大倉孫兵衛錦絵画帖とノリタケの距離
概　要：平成 29 年度に寄託をうけた《大倉孫兵衛錦絵画帖》は、幕末明治の版元として活躍した大倉孫兵衛が、自ら制作した錦絵をまとめた画帖であり、特に明治 10 年代に制作された輸出用錦絵が良好な保存状態で含まれている点に特徴がある。大倉はまた明治 10 年代以後、輸出陶磁器の生産販売に着手し、その事業は同 30 年代に現在のノリタケにつながる事業へと成長する。その両者を結ぶ接点として、また明治 10 年代から 20 年代にかけての輸出陶磁器のデザイン性を検証するひとつの材料として、本画帖が役立つことを本発表では指摘した。

k　発表者：学芸員　武田 周一郎
テーマ：台湾における岩橋章山の動向
概　要：岩橋章山は、19 世紀末から 20 世紀初頭に日本と台湾の間で活動した地図印刷技術者である。1899（明治 32）年に台湾総督府殖産局で、翌年から 1914（大正 3）年にかけて台湾日日新報社で地図の印刷事業に携わった岩橋章山は、同年に台北で岩橋写真製版所を開業した。本報告では印刷技術者が寡少ななかで先駆的存在であった岩橋章山が、急成長した印刷業界で埋没し、その後は著述活動に重心を移したことを指摘した。

l　発表者：学芸員　新井 裕美
テーマ：近世～近代期の諸日記に記載された正月行事
概　要：近世～近代期に記載された正月行事に関する記述を収集し、当時の様子を考察した。現在は該当記述の収集途中であるが、地域共同体で行う行事と各々の家庭で行う正月行事について、地域差や時代差（変遷）の変化の有無という視点のもとに分析を行った。

m　発表者：非常勤学芸員　三浦 麻緒
テーマ：神奈川県における地芝居
概　要：神奈川県内の地芝居について、実施されていた地域、農村舞台、演者、復興した県内五団体の活動状況などの概要を説明した。当館で所蔵する大草神楽の資料群（2018 年度寄贈）や相模人形芝居の資料などとの関連性を考察した。

n　発表者：臨時学芸員　小松 百華
テーマ：海北友徳の覚書について
概　要：海北家伝来海北派絵画関係資料より海北友徳が記した「覚書」について内容の紹介と考察を行った。本資料の記述から、桃山末期から続く海北家と稲葉家との交流が江戸後期まで続いていたことが明らかになった。

o　発表者：非常勤資料整理員　中村 茉貴
テーマ：長谷秀雄に関する基礎調査―彫刻家・教育者・文化財保護活動の観点から
概　要：長谷秀雄のご遺族が所蔵する作品・資料（絵葉書、写真、新聞記事など）の調査および現存彫刻の所在や展覧会出品歴の確認を行い、長谷の活躍ぶりが次第に明らかになってきた。今回の発表では、長谷が画塾の創立や美術館建設運動の発起人として、また文化財資料の複製を制作するなど、彫刻家の枠に留まらない活動を展開していたことにも言及した。

(2)　日本学術振興会科学研究費助成事業によるもの

神奈川県立博物館であった昭和 53 年度から、文部省学術研究機関の指定を受け、科学研究費助成金が交付されるようになった。神奈川県立歴史博物館に機構変更後も継続して指定されている。平成 30 年度の採択は 8 件である。

ア　研究種目名：基礎研究(B)
課題番号：16H03378
研究課題：大小摺物（絵暦）の美術史及び文化史に関する総合的研究
研究代表者：独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館　客員研究員　岩崎 均史　氏
研究分担者：主任学芸員　桑山 童奈
研究期間：平成 28～30 年度
研究実績概要：江戸時代、旧暦の大の月、小の月の配列を、機知をもってあらわした大小暦について、当館で借用中の大小暦コレクションを調査対象として、読み解いた。

イ　研究種目名：基盤研究（C）
課題番号：17K02339

研 究 課 題：原三溪関係資料の基礎的研究－コレクション形成の具体相の解明－
研究代表者：学芸員　小井川 理
研究分担者：学芸員　武田 周一郎、学芸員　神野 祐太、学芸員　橋本 遼太、学芸員　渡邊 浩貴、日本女子大学教授　古川 元也　氏
研 究 期 間：平成30～令和２年度
研究実績概要：調査対象資料の基礎データ収集、関連資料等の調査研究を行った。

ウ　研究種目名：基盤研究（C）
課 題 番 号：18K00951
研 究 課 題：幕末期地方藩士による江戸在勤日記の基礎的研究
研究代表者：非常勤学芸員　根本 佐智子
研究協力者：専門員　古宮 雅明
研 究 期 間：平成30～令和２年度
研究実績概要：本研究は神奈川県立歴史博物館所蔵『松平造酒助江戸在勤日記』を翻刻し、日記の記述を研究するとともに、国元である鶴岡市にある関連資料と比較検討し、理解を深めるものである。本年度は日記の翻刻を進め、鶴岡市郷土資料館所蔵「松平武右衛門文書」の調査及び写真撮影を行った。

エ　研究種目名：基盤研究（C）
課 題 番 号：18K00952
研 究 課 題：開国期・危機的状況下における知識人の情報活動と意思決定過程に関する研究
研究代表者：主任学芸員　嶋村 元宏
研 究 期 間：平成30～令和２年度
研究実績概要：本年度は、北海道の命名者であり、多様な人的交流を誇っていた松浦武四郎の特別展等が開催され、関係資料が一堂に会することとなったこともあり松浦武四郎に関する資料、ならびに本研究課題で中心的人物として位置づけている大槻磐渓関係資料（一関市立博物館所蔵）の調査を主に行った。

オ　研究種目名：基盤研究（C）
課 題 番 号：18K01111
研 究 課 題：岩石・石材を素材とした歴史系および自然系博物館による地域学習プログラムの協働開発
研究代表者：主任学芸員　丹治 雄一
研究分担者：神奈川県立生命の星・地球博物館主任学芸員　山下 浩之、同主任学芸員　田口 公則
研 究 期 間：平成30～令和２年度
研究実績概要：本研究は、岩石・石材を素材にして、神奈川県内の各地域における大地の形成（自然史的条件）とそこで展開された人間の営み（歴史的事象）を地域の歴史として一体的に捉え、理解し学ぶことができる地域学習プログラムを、歴史系博物館である神奈川県立歴史博物館と自然史系博物館である神奈川県立生命の星・地球博物館の学芸員を中心とした文理融合の研究組織による協働研究で作成し、その実践を行うことで、地域の歴史に対する理解の促進に資することを目的としている。
研究初年度の平成30年度は神奈川県の横浜・川崎地域、県央地域、県西地域の3地域の学習プログラム作成に着手した。最も作業が進捗したのは、箱根火山のマグマを起源とする箱根山周辺産の安山岩類とその石材利用をおもなテーマとする県西地域で、当初想定した研究プロセスのうち、①基礎調査、②プログラム作成、③実践メニュー試行の3段階まで進めることができ、箱根湯本で実施した現地見学型の実践メニューでは、これから順次進めていく他地域のプログラム作成とその実践にもつながる成果と課題を得ることができた。
また、海底火山の活動で堆積した火山灰や岩石を起源とする丹沢山地産出凝灰岩とその石材利用をテーマとした県央地域の学習プログラム作成は、上記研究プロセスのうち①

基礎調査の実施にとどまる一方で、当初計画において研究期間の2年目に実施予定としていた横浜・川崎地域について、研究プロセス①基礎調査に着手することができた。具体的には、横浜に現存する旧横浜船渠株式会社第一号船渠（重要文化財）の使用石材に関する新たな資料を把握し、その分析を進めるなどの調査を行った。新資料を見い出したことは、次年度に実施するプログラム作成とその実践につながる大きな成果であると考えている。

カ　研究種目名：基盤研究（C）
課題番号：18K12251
研究課題：鎌倉～南北朝時代における絵所の並立と絵師の交流をめぐる調査研究
研究代表者：学芸員　橋本 遼太
研究期間：平成30～令和3年度
研究実績概要：近似する図像の、時代や制作集団による違いを考察する目的で、宝戒寺本仏涅槃図、橘寺本仏涅槃図、宝生寺本仏涅槃図の実査をおこない、「横浜市宝生寺所蔵仏涅槃図の表現と伝来について―鎌倉地域における円覚寺本仏涅槃図の影響力―」（『神奈川県立博物館研究報告 -人文科学-』45号、2019年3月）を執筆した。

キ　研究種目名：基盤研究（C）
課題番号：18K12252
研究課題：相模川中流域の仏像彫刻に関する調査研究
研究代表者：学芸員　神野 祐太
研究期間：平成30～令和2年度
研究実績概要：相模川流域は国分寺・国分尼寺・国府が所在した古代相模国の中心地であり、中世には鎌倉と甲斐国や武蔵国を結ぶ交通の要衝であった。この地域に所在する仏像彫刻を調査研究することで、相模川流域の文化圏の重要性を示したい。本年度は、海老名市龍峰寺所蔵の千手観音菩薩立像を実査し、これまで製作年代について鎌倉時代と言及されることの多かった同像が、奈良時代末期もしくは平安時代前期の造像であると推定した。

ク　研究種目名：研究活動スタート支援
課題番号：17H07410
研究課題：地図印刷技術者・岩橋章山の思想と台湾での動向に関する基礎的研究
研究代表者：学芸員　武田 周一郎
研究期間：平成29～30年度
研究実績概要：本研究は、地図印刷技術者である岩橋章山の技術・動向・思想を分析し、日本と台湾における地図印刷技術の普及に果たした役割を明らかにすることを目的とする。本年度は岩橋章山が印刷業界誌等に掲載した著作を網羅的に収集、翻刻した。また、岩橋章山の台湾での動向を明らかにするため、台北市内を中心として現地調査を行なうとともに、研究成果をまとめた報告書を刊行した。

(3)　その他外部研究資金によるもの

ア　助成内容：日本海事科学振興財団「海の学び調査・研究サポート」
研究課題：開国をテーマとする「海の学び」学習支援プログラムの開発に関する基礎的研究
研究代表者：主任学芸員　嶋村 元宏
研究分担者：横浜薬科大学教授　梶 輝行 氏、大阪人権博物館学芸員　吉村 智博 氏、
開成高等学校教諭　松本 英治 氏、行田市郷土博物館学芸員　澤村 怜薫 氏
研究期間：平成29～30年度
研究実績概要：学校における「海の学び」については、主に理科分野が中心であったことから、神奈川の歴史ならではの「開国」をテーマに、資料を活用した「海の学び」学習支援プログラムを開発することで、博学連携の強化を図ることを目的とした。そこで博物館を知る教員と学芸員を研究分担者とする研究会を組織し、資料調査や他の博物館の事例研究を行

い、2 年計画のうち 2 年目の本年度は、主として小学校教員向けプログラムと児童向けプログラムについて検討した。
これにより、これまで「海の学び」のみならず、博物館（資料）の活用に関心を向けてこなかった教員が、積極的に博物館ならびに資料を利用する機会を増進することにつなげようとした。
その結果、教員および他館で博学連携にかかわる学芸員とともに研究会を組織し、調査研究テーマについて多角的に議論することにより、多様な学習支援プログラムをそろえることができた。また、他の博物館の博学連携状況を実見する機会を持つことができた。さらに、当館所蔵資料に加え、他機関所蔵資料を調査研究することで、学習支援プログラムの幅を広げることができた。特に、神奈川県のみならず、他地域へも適用可能なオプションをプログラムへ取り入れることができた。
事業成果物：研究成果報告書、授業案、手引き（いずれも助成団体 HP で公開中 https://uminomanabi.com/supported_program3_2017/）

イ　助 成 内 容：国土地理協会学術研究助成
研 究 課 題：圃場整備地域の景観復原技法確立と地域実践―滋賀県甲賀市水口町の前近代水資源開発と社会集団の関わりから―
研究代表者：学芸員　渡邊 浩貴
研 究 期 間：平成 30～令和元年度
研究実績概要：本研究は、金沢北条氏の称名寺領柏木御厨故地（現滋賀県水口町）をフィールドに、従来景観復原が困難とされてきた圃場整備実施地域における遡及的な景観復原技法の確立を目指すものである。その上で、かかる技法を用いて復原された各時代における水利灌漑の有り様を踏まえ、水利の上に立脚する社会集団（本研究では在地領主山中氏など甲賀郡中惣構成メンバー、柏木御厨の荘園、近世村など）との相関関係を明らかにするものである。本年度では以下の調査を実施した。①実踏調査による現況・圃場整備前後の水利体系を復原し、圃場整備事業が、歴史学で従来考えられてきた、既存の水利秩序の破壊ではなく、むしろベースとしつつ補完する形でポンプアップがされていることが明らかとなった。②区有文書の調査による近世諸段階での灌漑の変遷に関わる古文書の調査・撮影・目録化を行った。

ウ　助 成 内 容：メトロポリタン東洋美術研究センター東洋美術研究振興基金研究助成
研 究 課 題：古代東国における塑造の仏像に関する基礎的研究
研究代表者：学芸員　神野 祐太
研 究 期 間：平成 30 年度
研究実績概要：東国に所在する出土塑像断片について調査研究をおこなった。東国の塑像についてはほとんど先行研究がなかったことから作例を探しながら、実査及び写真撮影をおこなった。現時点で約 25 か所で塑像断片が確認されることがわかった。今後も継続して調査をおこない、ほとんど史資料が残っていない古代東国の彫刻史についてより具体的な様相を追求していきたい。

エ　助 成 内 容：ポーラ美術振興財団調査研究助成
研 究 課 題：山川秀峰の基礎的調査研究　近代日本画における人物表現を中心として研究
研究代表者：渋谷区立松濤美術館学芸員　吉井 大門氏
研究分担者：主任学芸員　角田 拓朗、東海大学准教授　篠原 聰 氏、鎌倉市立鏑木清方記念美術館学芸員　今西 彩子 氏
研 究 期 間：平成 30 年度
研究実績概要：日本画家山川秀峰の出品作を中心とした年譜の整理、及び文献の収集。

オ　助 成 内 容：公益財団法人摘水軒記念文化振興財団日本近世絵画研究助成制度
研 究 課 題：近世初期絵画作品と文学の関係性についての研究―海北友松と和漢聯句を中心に―

研究代表者：臨時学芸員　小松 百華
研 究 期 間：平成30年7月～平成31年3月
研究実績概要：本研究は海北友松最晩年にかけて揮毫された押絵貼屏風形式の作品について、その制作背景を明らかにするものである。本年度は押絵の賛者を手掛かりに、友松と文芸との関係について調査を行った。この調査により、友松画賛者のほとんどが連句文芸にすぐれ、聯句・連歌会に出席していたことが判明した。今後は和漢聯句の内容と友松画の比較検討を行っていきたい。

(4) 個人研究活動

ア　研究報告書

(ｱ)　『神奈川県立博物館研究報告―人文科学―』第45号　平成31年3月12日発行

a　種　別：論文
表　題：鎌倉時代中期における鎌倉の密教
筆　者：元専門学芸員　永井 晋
要　旨：承久元年に起きた公暁の源実朝暗殺によって、鎌倉の密教は再編をせまられることになった。四代将軍九条頼経の鎌倉下向により、九条家から、三室戸僧正道慶や大進僧都観基といった学侶が鎌倉に下向した。彼らは、将軍御所の仏教儀礼や将軍家の祈祷を執りおこなった。九条家ゆかりの学侶が鎌倉で勢力を伸ばす中で、鶴岡社務は鎌倉を護持する権門社寺を代表する存在として地位を維持した。一方、忠快の弟子良信は勝長寿院別当を延暦寺の法流が継承する役職とすることに成功したが、験者として活動する機会は減少した。永福寺別当以下の御願寺別当は、京都から下向した験者の勤める役職となっていった。
鎌倉の密教の主流が将軍御所に移ると、御所に出仕する験者は鎌倉の政局と無関係ではいられなくなった。九条家とのつながりで鎌倉に入った高僧は九条頼経が失脚した宮騒動で帰洛し、鶴岡社務定親は三浦泰村が自害した宝治合戦で縁坐を問われて帰洛した。宗尊親王の時代には親王の側近が御所で活動していた。鶴岡社務隆弁は正元の園城寺戒壇問題で上洛し、鎌倉の宗教社会が持つ実力を朝廷や延暦寺に誇示した。京都の権門寺院は、鎌倉で成長した人々の実力を認め、要職に就けなければならない状況になっていた。
ｷｰﾜｰﾄﾞ：鎌倉、密教、九条家、園城寺戒壇問題

b　種　別：論文
表　題：横浜市宝生寺所蔵仏涅槃図の表現と伝来について―鎌倉地域における円覚寺本仏涅槃図の影響力―
筆　者：学芸員　橋本 遼太
要　旨：横浜市南区堀ノ内の青龍山法金剛院宝生寺は、寺伝では承安元年（1171）に覚清が創建したとされ、康暦2年（1380）に覚尊が入寺し中興して以降、平子氏および石川氏の氏寺として興隆し、江戸時代には関東古義真言宗の談義所として五十以上の末寺を擁し栄えた古刹である。
本稿では、宝生寺所蔵の仏涅槃図（四副一鋪、絹本著色、南北朝時代）の図様が、円覚寺本仏涅槃図やその影響下にあると思われる宝戒寺本仏涅槃図に近似することを指摘した。また、解体修理の過程で軸木から新たに発見された墨書の概要を報告し、その伝来の一端を明らかにした。
ｷｰﾜｰﾄﾞ：仏涅槃図、修理墨書銘文、伝来

c　種　別：研究ノート
表　題：神奈川県立歴史博物館所蔵　「阿部家資料」について―備後福山藩阿部家旧蔵資史料との関係を中心に―
筆　者：主任学芸員　嶋村 元宏
要　旨：これまで、神奈川県立歴史博物館所蔵「阿部家資料」については、その位置づけが明確にされていなかったことから、①当館所蔵「阿部家資料」以外の阿部家伝来品の所蔵・保管先について確認し、②当館所蔵「阿部家資料」の全資料を紹介する。そして、③他機関が

所蔵・保管する阿部家伝来品との関係性を視野に入れつつ、個々の資料の来歴を中心に検討し、特に成立年代について考察を加えた。さらに、④阿部正弘の伝記として、また、史料としての価値も高く評価されている、浜野省吾により編まれた『懐旧紀事―阿部伊勢守事蹟』（明治32年刊）と阿部家伝来品との関係を明らかにする。以上の作業を通して、当館所蔵「阿部家資料」の位置づけについて私論を述べるとともに、この作業によって派生した博物館資料論に関わる課題について指摘した。

ｷｰﾜｰﾄﾞ：阿部正弘、編纂、資料群、史料批判、博物館資料論

d　種　別：資料紹介
表　題：神奈川県立歴史博物館所蔵「関八州大絵図」について
筆　者：非常勤学芸員　根本 佐智子
要　旨：本稿は神奈川県立歴史博物館所蔵「関八州大絵図」について紹介し、類似絵図との比較を行い、その景観年代の考察を試みるものである。
「関八州大絵図」は多くの情報が記された河川絵図であり、江戸時代初期の承応3年～寛文3年の様子を描いた貴重な絵図あること、類似絵図と比較することにより、作成者または作成依頼者は、水戸藩に縁をもつ人物で、水戸街道をあえて主要街道として書き加えていることなどを明らかにした。

ｷｰﾜｰﾄﾞ：大型肉筆絵図、河川絵図、椿海、利根川東遷事業、承応～寛文期

e　種　別：資料紹介
表　題：松平造酒助江戸在勤日記―元治元年十一月朔日より元治二年正月十一日―
筆　者：非常勤学芸員　根本 佐智子・専門員　古宮 雅明
要　旨：当館所蔵「松平造酒助江戸在勤日記」の翻刻。筆者松平造酒助は庄内藩士、家禄は千四百石。組頭や家中武器取扱掛をつとめた人物である。造酒助は元治元年八月より慶応元年八月まで江戸に在勤している。
本稿は元治元年11月朔日より元治2年正月11日まで、全50綴のうち、「十四」、「十五」、「十六」、「十七」、「十八」、「十九」、「二十」、「二十一」を掲載した。正月に絵具を入手した造酒助は江戸の年末年始の諸事を丁寧に描いている。その部分はカラー図版で掲載した。

ｷｰﾜｰﾄﾞ：松平造酒助、庄内藩、元治年間、江戸市中取締、新徴組

f　種　別：資料紹介
表　題：篠原（しのばら）歌舞伎の地芝居衣裳について―付・当館所蔵衣裳一覧表―
筆　者：非常勤学芸員　三浦 麻緒
要　旨：江戸時代の文化文政期から昭和初期まで、全国各地では地芝居が盛んに行われていた。神奈川県内でも多くの場所で上演されていたことが、各報告書や現存する舞台数で知ることができる。当館では、昭和40年（1965）に篠原歌舞伎保存会より寄贈された地芝居衣裳を所蔵しており、近年改めて資料整理を行った。本稿は資料の背景となる篠原歌舞伎についての概要を述べた上で、衣裳の詳細について紹介するものとする。

ｷｰﾜｰﾄﾞ：地芝居、篠原歌舞伎、農村歌舞伎衣裳

g　種　別：修理報告
表　題：重要文化財「絹本著色 十王図」保存修理事業報告
筆　者：学芸員　小井川 理・学芸員　橋本 遼太・半田九清堂　半田 昌規 氏・京都国立博物館　朝賀 浩 氏
要　旨：神奈川県立歴史博物館は、平成24年度から28年度にかけて所蔵する重要文化財「絹本著色十王図」の保存修理事業を実施した。作品の概要とともに、5か年をかけて実施した事業の概要、および、十王図修理における特殊性を報告する。また、十王図修理を通して見える文化財修理のあり方について提示する。

ｷｰﾜｰﾄﾞ：十王図、文化財修理

イ　個人研究活動

〈凡例〉（刊行年などは西暦で統一）

氏名（役職・専門分野等）

(ｱ)　著作

a　単著・共著・学術論文

b　書評・余録

c　資（史）料紹介

(ｲ)　学術口頭報告

(ｳ)　図録執筆・解説書執筆

(ｴ)　新聞・雑誌等への寄稿

(ｵ)　各種調査委員会等

(ｶ)　講師等

a　外部依頼講座講師等

b　当館主催講座等講師

c　当館出張講座講師

(ｷ)　ここ１年間の課題・研究テーマ

薄井 和男（館長・美術・中世）

(ｵ)　相模原市文化財保護審議会委員、逗子市文化財保護審議会委員、厚木市文化財保護審議会委員、川崎市文化財保護審議会委員、大磯町文化財保護審議会委員、平塚市文化財保護審議会委員、秦野市文化財審議会委員、時宗文化財調査委員

(ｷ)　県内所在の神社所蔵の神像調査を行った。

望月 一樹（学芸部長・歴史・近世）

(ｱ)b　「問題提起　拠点としての郡（評）家とその成立について－武蔵国橘樹郡を事例に－」（『地方史研究』68 巻 5 号、pp. 5-8、地方史研究協議会、10 月）

「二ヶ領用水－多摩川・いのちの水－」（『河川』第 870 号、pp. 27-31、公益社団法人日本河川協会、1 月）

(ｵ)　交通史学会運営委員、地方史研究協議会神奈川大会実行委員、シルク博物館運営委員、大山街道ふるさと館運営懇談会アドバイザー

(ｶ)a　ミューラボ基礎講座「二ヶ領用水の役割と関わった人たち」（於かわさき市民活動センター、6 月 30 日）

第 7 回多摩川流域歴史セミナー「多摩川下流域の中近世」（於サンピアン川崎、7 月 14 日）

高津シルバーガイドの会夏期研修会「稲毛三郎重成と川崎の城」（於高津市民館、7 月 30 日）

シルクサロン「古代神奈川における養蚕と絹」（於シルク博物館、8 月 25 日）

御幸公園梅香事業講演会「榎本家資料が語る明治時代の小向梅林」（於幸区役所、11 月 2 日、於川崎市市民ミュージアム、11 月 25 日）

第 2 回多摩川流域歴史セミナーシンポジウム「多摩川流域の中世」（於狛江市中央公民館、2 月 9 日）

市民館講座「産業都市川崎における鉄道の発展－京浜電気鉄道と南武鉄道を中心に－」（於高津市民館、2019 年 3 月 8 日

(ｷ)　池上家文書（川崎市市民ミュージアム所蔵）の内、嘉永 6 年・7 年の「御用留」を解読し、ペリー来航時における川崎沿岸地域の様相について調査研究を行った。また以前からの継続として「尺壁帖」（東京国立博物館所蔵）にある近世文人書簡の解読を行い、研究を進めた。

（考古）

千葉 毅（学芸員・先史）

(ｱ)　「各都道府県の動向　神奈川県」（『日本考古学年報 69（2016 年度版）』、pp. 186-194、日本考古学協会、5 月）

(ｲ)a 「三浦半島弥生時代のアワビ殻製品の研究」（共同発表〔ポスター発表〕、日本考古学協会第84回総会、於明治大学、5月27日）
「横浜市港北区日吉一帯における戦争遺跡をめぐる活動の現状」（首都圏形成史研究会 第108回例会 ミニシンポジウム「軍事遺跡の保存と活用―神奈川・東京・千葉の事例から―」、於神奈川県立歴史博物館、6月30日）
b 「神奈川県博物館協会の文化財防災に関する活動―総合防災計画・防災訓練―」（関東地区博物館協会 第2回研究会、於群馬県立歴史博物館、11月1日）
c 「神奈川県博物館協会の文化財防災の取り組み―防災訓練のこれまでと課題―」（全国歴史民俗系博物館協議会第7回関東ブロック集会―防災をめぐる博物館の相互連携と歴民協の課題―、於神奈川県立歴史博物館、2月15日）
「神奈川県立歴史博物館での展示―現状と課題―」（日本ミュージアム・マネージメント学会コミュニケーション・マネージメント研究部会―さあ！博物館の展示について議論しよう 平成最後の侃々諤々パートⅡ―、於神奈川県立歴史博物館、3月3日）
d 「博物館の「思い出」をアーカイブする―神奈川県博開館50周年記念プロジェクト「みんなの神奈川県博アーカイブ」―」（武田周一郎と共同発表、デジタルアーカイブ学会第3回研究大会、於京都大学、3月16日）
(ｳ) 「つなぐ」のこれまで、これから ―神奈川県博の挑戦―」（『神奈川県博開館51周年記念 つなぐ、神奈川県博―Collection to Connection―』、pp.6-8、神奈川県立歴史博物館、4月）
(ｴ) 「つなぐ、神奈川県博 ①館蔵品で個性表現」（『毎日新聞』朝刊、5月19日）
「つなぐ、神奈川県博 ⑤地道な研究で歴史像」『毎日新聞』朝刊、6月16日）
(ｶ)a 歴史講座「考古学の展示から考える」（於横浜市八聖殿郷土資料館、10月20日・31日）
講座「モノから考える―考古学―」（於日仏文化学院パリ日本人学校、12月8日）
b 連続講座「展覧会担当者が語る！ それぞれの神奈川県博―あゆみと魅力―」第1回「つなぐ、つながる、つなげる―神奈川県博と考古分野のあゆみ―」（5月19日）
博物館入門講座「学芸員の技―考古学資料をみる―」（10月7日）
c 出張講座「さむかわの遺跡？―考古学の魅力―」（寒川町立寒川一之宮小学校、6月7日）
(ｷ) 当館所蔵の考古資料に関わる情報の整理を進めた。特に当館刊行の発掘調査報告書等のウェブ公開、資料のデジタル化やデータベース整備を進めるための、基礎的調査を進めている。

(中世)
渡邊 浩貴（学芸員・歴史）
(ｱ)a 「一四世紀国境地域の山野紛争と荘園村落―東大寺領伊賀国玉滝荘の「五个一味」をめぐって」（小林一岳編『日本中世の山野紛争と秩序』、pp.103-124、同成社、4月）
「建武政権・南朝の武力編成と地域社会－武者所職員の事例から－」（悪党研究会編『南北朝「内乱」』岩田書院、pp.235-261、10月、単著・編者）
『中世益田現地調査成果概報vol.２』（pp.3-5、10-11、14-18、国立歴史民俗博物館、1月、田中大喜・村木二郎・松田睦彦と分担執筆）
「石見国長野荘俣賀氏の本拠景観と生業・紛争」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第212集、pp.57-81、12月）
「西遷御家人の本拠形成と水資源開発―備後国地毗荘山内首藤氏の事例から―」（平成30年度高梨学術奨励金基金研究成果報告書〔研究テーマ：中世東国における武士の本拠と河川に関する研究（研究代表者：落合義明）〕）『利水・治水に見る中世武士の本拠・報告集』、pp.43-57、3月）
b 研究ノート「景観にさぐる東国武士の本拠－武蔵国立川氏と多摩川の崖線－」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻209号、pp.6-7、8月）
c 「益田實氏所蔵新出中世文書の紹介」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第212集、pp.101-165、12月、田中大喜・中島圭一・中司健一・西田友広と分担執筆）
(ｲ) 「14世紀の地域社会と荘園制―伊賀国の悪党事件から―」（悪党研究会4月例会報告、於日本大学市ヶ谷キャンパス、4月14日）
「西遷御家人の本拠形成と水資源開発―備後国地毗荘山内首藤氏を事例として―」（国立歴史民俗博物館平成30年度共同研究「日本中世の地域社会における武家領主支配の研究」にかかる「平成30

年度石見国長野荘・益田荘調査成果報告会」、於国立歴史民俗博物館、3月27・28日）

(ｳ)　特別展図録『神奈川県博開館51周年記念特別展　つなぐ、神奈川県博－Collection to Connection』（神奈川県立歴史博物館、4月、解説分担執筆）
特別展図録『特別展　鎌倉ゆかりの芸能と儀礼』（神奈川県立歴史博物館、10月、解説分担執筆）
コラム「中世鶴岡八幡宮寺の「場」」（特別展図録『特別展　鎌倉ゆかりの芸能と儀礼』（神奈川県立歴史博物館、10月）
論説「中世鎌倉の成立と地下楽家中原氏」（特別展図録『特別展　鎌倉ゆかりの芸能と儀礼』、pp.132-135、神奈川県立歴史博物館、10月）

(ｴ)　「常設展からのメッセージ　山内首藤氏一族の中世」（『ボランティアニュース』第77号、pp.1-2、神奈川県立歴史博物館ボランティア会、7月）
「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼　④姿変えつつも今日まで」（『毎日新聞』朝刊、11月17日）

(ｵ)　立川市史編さん室古代・中世史部会主任調査員

(ｶ)b　特別展関連講座「中世びとにならう、手紙の書き方・折り方」（5月12日）

c　出張講座「中世武士たちの鎌倉」（寒川町立寒川小学校、6月6日）
出張講座「中世武士たちの鎌倉」（横浜市立大門小学校、6月8日）
出張講座「中世武士たちの鎌倉」（横浜市立相沢小学校、6月11日）
出張講座「中世武士たちの鎌倉」（三浦市立上宮田小学校、6月21日）
出張講座「中世武士たちの鎌倉」（鎌倉市腰越小学校、6月27日）
出張講座「中世武士たちの鎌倉」（海老名市立柏ヶ谷小学校、7月12日）

(ｷ)a　「東国武士の本拠景観と地域開発の景観復原的研究」を個人の研究テーマとし、東国武士本拠の現地調査、および中世景観の復原作業を実施した。本年度は横須賀市満願寺を拠点とした三浦氏一族佐原氏の本拠を主に取り上げ、中世考古の遺物調査を実施した。

b　国土地理協会の研究助成をうけ、金沢北条氏の称名寺領柏木御厨故地（現滋賀県水口町）において、水利灌漑調査の遡及的な景観復原調査を実施した。実踏調査による現況・圃場整備前の水利体系を復原し、区有文書の調査による近世諸段階での灌漑の変遷を調査した。

小井川 理（学芸員・美術［工芸］）

(ｱ)b　「古面をたどる　特別展『鎌倉ゆかりの芸能と儀礼』に寄せて」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻209号、pp.2-5、8月）
「重要文化財「絹本著色 十王図」保存修理事業報告」（『神奈川県立博物館研究報告－人文科学－』第45号、pp.xi-xxiv、99-128、3月、橋本遼太、半田昌規、朝賀浩との共同執筆）

(ｳ)　特別展図録『神奈川県博開館51周年記念特別展　つなぐ、神奈川県博－Collection to Connection』（神奈川県立歴史博物館、4月、解説分担執筆）
特別展図録『真明解・明治美術／増殖する新メディアー神奈川県立博物館五〇年の精華－』（神奈川県立歴史博物館、8月、解説分担執筆）
特別展図録『特別展　鎌倉ゆかりの芸能と儀礼』（神奈川県立歴史博物館、10月、論考、コラムおよび解説分担執筆）

(ｴ)　「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼　①非日常を鮮やかに」（『毎日新聞』朝刊、10月27日）
「白の装飾－誕生をめぐる『白』」（『小原流挿花』819号、pp.10-13、2019年2月）

(ｶ)a　国宝史蹟研究会第1012回研究例会「特別展講演　鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」（於神奈川県立歴史博物館、11月20日）
神奈川県文化財協会第6回見学会「特別展　鎌倉ゆかりの芸能と儀礼　について」（於神奈川県立歴史博物館、12月5日）

b　ミュージアムトーク今月の逸品「太刀　銘備前国長船住左近将監長光造　正応二年己丑六月日」（11月21日）

(ｷ)　館所蔵・保管資料（中世絵画・工芸および近代工芸）と日本美術工芸史に関する調査研究を行った。平成30年度特別展「真明解・明治美術」および「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」に関する調査研究を行った。

神野 祐太（学芸員・美術［彫刻］）

(ｱ)a　宝蔵門四天王像に関する一考察―東大寺大仏殿様四天王像の一例として―」（浅草寺什宝研究会編『浅草寺什宝目録』第一巻彫刻篇、pp.175-pp.180、金龍山浅草寺、7月）

b「神奈川県内唯一の塑像の痕跡―小田原市千代廃寺跡出土の塑像断片」（『ボランティアニュース』第79号、pp.1-pp.2、神奈川県立歴史博物館ボランティア会、3月）

(ｲ)　「神奈川県小田原市千代廃寺跡出土塑造仏像残欠について」（早稲田大学美術史学会報告、於早稲田大学、11月10日）

「千代廃寺跡出土の塑像について」（相模の古代を考える会第5回例会、於えびな市民活動センタービナレッジ、3月16日）

(ｳ)　特別展図録『神奈川県博開館51周年記念特別展　つなぐ、神奈川県博－Collection to Connection』（神奈川県立歴史博物館、4月、解説19件分担執筆）

浅草寺什宝研究会編『浅草寺什宝目録』第一巻彫刻篇（金龍山浅草寺、7月、図版解説24件分担執筆）

特別展図録『特別展　鎌倉ゆかりの芸能と儀礼』（神奈川県立歴史博物館、10月、解説7件分担執筆）

(ｴ)　「つなぐ、神奈川県博　⑥複製と実物を融合」（『毎日新聞』朝刊、6月23日）

(ｶ)a　神奈川県文化財協会第1回見学会「若手学芸員からみた県博50年―特別展「つなぐ、神奈川県博」開催までの軌跡―」（於神奈川県立歴史博物館、5月16日）

国宝史蹟研究会第1010回例会「若手学芸員からみた県博50年―特別展『つなぐ、神奈川県博』開催までの軌跡―」（於神奈川県立歴史博物館、6月17日）

稲城市「仏教に親しむ会」「仏像の見方について―東国の仏像を中心に―」（於深大寺、8月30日）

b　ミュージアムトーク今月の逸品「西方寺の仏像」（5月16日）

連続講座「展覧会担当学芸員が語る！それぞれの神奈川県博―あゆみと魅力―」第2回「神奈川県博の中世絵画と彫刻―中世彫刻担当について―」（橋本遼太と共同担当、6月2日）

c　出張講座「もっと知りたい鎌倉大仏」（横浜女学院中学校、5月30日）

出張講座「もっと知りたい鎌倉大仏」（平塚市立崇善小学校、6月14日）

出張講座「もっと知りたい鎌倉大仏」（相模原市立上鶴間小学校、6月29日）

出張講座「もっと知りたい鎌倉大仏」（横浜市立義務教育学校霧が丘学園小学部、11月6日）

(ｷ)　東国の塑像、相模川流域の仏像、神像彫刻、時宗関係彫刻について調査研究をおこなった。

橋本 遼太（学芸員・美術［絵画］）

(ｱ)a「高城寺旧蔵の≪十六羅漢図≫にみる禅の要素」（『美術フォーラム21』38号、pp.52-58、12月）

「修理報告 重要文化財「絹本著色 十王図」保存修理事業報告」（『神奈川県立博物館研究報告 -人文科学-』第45号、pp.99-128、3月、小井川理、半田昌規、朝賀浩との共同執筆）

「横浜市宝生寺所蔵仏涅槃図の表現と伝来について―鎌倉地域における円覚寺本仏涅槃図の影響力―」（『神奈川県立博物館研究報告 -人文科学-』第45号、pp.ⅰ-ⅵ、19-36、3月）

b「私的・曽我二直菴筆《竹林七賢図》の愉しみ方―館蔵屏風絵展のお知らせをかねて―」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻210 号、pp.6-7、1月）

(ｳ)　特別展図録『神奈川県博開館51周年記念特別展　つなぐ、神奈川県博－Collection to Connection』（神奈川県立歴史博物館、4月、編集、解説分担執筆）

特別陳列図録『屏風をひらけば―神奈川県立歴史博物館所蔵の屏風絵―』（神奈川県立歴史博物館、3月、執筆、ブックデザイン、DTP編集）

(ｴ)　「つなぐ、神奈川県博　③700年の歴史見た羅漢」（『毎日新聞』朝刊、6月2日）

(ｶ)a　平成30年度　横浜市指定・登録文化財展の一般向け関連講座「宝生寺の仏涅槃図を守り伝えた人びと―新発見の軸木銘文を読み解く―」（於横浜市歴史博物館、12月2日）

b　連続講座「展覧会担当学芸員が語る！それぞれの神奈川県博―あゆみと魅力―」第2回「神奈川県博の中世絵画と彫刻―中世彫刻担当について―」（神野祐太と共同担当、6月2日）

特別陳列「屏風をひらけば」関連講座「平家物語と館蔵屏風絵」（3月16日）、「耕作図と館蔵屏風絵」（3月30日）

c　出張講座「室町絵画の魅力」（フェリス女学院高等学校、11 月 15 日・20 日）

(ｷ)　館所蔵および保管の美術資料（主として中世絵画）に関する調査研究

(近世)

古宮 雅明（専門員・歴史）

(ｱ)c　「松平造酒之助江戸在勤日記 ―元治元年十一月朔日～元治二年正月十一日―」（『神奈川県立博物館研究報告―人文科学―』第 45 号、pp. 61-88、3 月）

(ｶ)a　二宮町民大学講座「幕末期～明治初期の二宮地域」於二宮町生涯学習センターラディアン、2 月 22 日）

生麦地区センター歴史講座「宝永の「砂降り」と生麦地域」（於生麦地区センター、11 月 2 日）

b　県博講座「古文書解読講座-博物館の古文書を読む」（根本佐智子と共同担当、9 月 19 日、9 月 16 日、10 月 10 日、10 月 17 日の全 4 回）

c　出張講座「バーチャル東海道」（小田原市立久野小学校、11 月 9 日）

(ｷ)　松平造酒之助江戸在勤日記の解読、およびその関係資料「松平武右衛門文書」の調査を行い、その解読作業を進めている。

根本 佐智子（非常勤学芸員・歴史）

(ｱ)a　「関八州大絵図について」（『神奈川県立博物館研究報告―人文科学―』第 45 号、pp. 53-60、3 月）

c　「松平造酒之助江戸在勤日記―元治元年十一月朔日～元治二年正月十一日―」（『神奈川県立博物館研究報告―人文科学―』第 45 号、pp. 61-88、3 月）

(ｶ)a　大山街道ふるさと館企画展「明治維新期の 多摩川との共生-治水と利水-」記念講演会「多摩川との共生～治水と利水」（於大山街道ふるさと館、7 月 15 日）

川崎市市民ミュージアム古文書講座「やさしい古文書講座―川崎の村を調べる―」①「麻生・多摩・宮前区の村」②「高津・中原区の村」③「幸・川崎区の村」（於川崎市市民ミュージアム、9 月 29 日、10 月 27 日、11 月 24 日）

b　県博講座「古文書解読講座―博物館の古文書を読む―」（古宮雅明と共同担当、9 月 19 日、9 月 26 日、10 月 10 日、10 月 17 日の全 4 回）

c　出張講座「絵図で見る江戸時代」（寒川町立寒川小学校、9 月 6 日）

(ｷ)　科学研究費の調査研究、近世多摩川における御留川についての研究。当館所蔵近世資料の調査研究、当館所蔵大型絵図のトレース作成など常設展示テーマ３の充実をはかった。

桑山 童奈（主任学芸員・美術）

(ｲ)　国際浮世絵学会第 23 回秋季大会　シンポジウム「地図、地誌から浮世絵を読み解く」「浮世絵師が描いた神奈川県域の名所-絵図と名所絵」（於國學院大學、12 月 2 日）

(ｴ)　「ニュースメディアとしての浮世絵」（『マイウェイ』№109、pp. 2-3、はまぎん産業文化振興財団、3 月）

「横浜浮世絵」（『マイウェイ』№109、pp. 4-17、はまぎん産業文化振興財団、3 月）

(ｵ)　国際浮世絵学会理事・企画委員、藤沢市藤澤浮世絵館運営委員、公益財団法人氏家浮世絵コレクション評議員

(ｶ)a　藤澤浮世絵館講座　浮世絵サマーレクチャー　特別企画「浮世絵にみる東海道、江戸の旅・明治の旅」について（於ココテラス湘南、7 月 16 日）

明治公民館講座「浮世絵で学び伝える文化と歴史」「様々な浮世絵を見る」（於神奈川県立歴史博物館、9 月 22 日）

第 5 期いせはら歴史解説アドバイザー養成講座「絵画資料の基礎知識」（於伊勢原市中央公民館、1 月 16 日）

開館記念展示「浮世絵の世界」関連講座「浮世絵とかながわ、あつぎ」（於あつぎ郷土博物館、2 月 3 日）

b　ミュージアムトーク今月の逸品「初代広重　「冨士三十六景」-富士山をのぞむ日本の名所風景」（8 月 15 日）

博物館入門講座「学芸員の目　学芸員の技」（10月7日）
c　出張講座「博物館・学芸員の仕事」（湘南白百合学園中学校、5月15日）
出張講座「浮世絵の話」（厚木市立愛甲小学校、6月15日）
出張講座「浮世絵のおはなし」（横須賀市立野比東小学校、9月4日）
(ｷ)　2019年4月から6月に開催予定の「横浜浮世絵」展に向けての準備と科学研究費の分担者となっている大小暦についての研究。

(近代)
嶋村 元宏（主任学芸員・歴史）
(ｱ)a「《別段風説書》はいかに参照されたか　―神奈川県立歴史博物館所蔵「阿部家資料」を事例として―」（風説書研究会編『オランダ別段風説書集成』、青山学院大学総合研究所叢書、pp.618-641 吉川弘文館、3月）
b　「神奈川県立歴史博物館所蔵「阿部家資料」について―備後福山藩阿部家旧蔵資史料との関係を中心に―」（『神奈川県立博物館研究報告―人文科学―』第45号、pp.37-52、3月）
(ｵ)　明治維新史学会会誌編集委員
(ｶ)a　達人と歩く町 わが町を愉しむ会 講演会「アジアのなかの日本開港」（於神奈川県立歴史博物館、9月12日）
b　今月の逸品講座2月20日（水）「ウィリアムズ女史日本旅行記念蒐集資料」
c　出張講座「日本の開国と異文化交流」（海老名市立中新田小学校、9月7日）
出張講座「日本の開国と異文化交流」（横浜市立中和田南小学校、9月21日）
出張講座「日本の開国と異文化交流」（三浦市立上宮田小学校、9月26日）
出張講座「日本の開国と異文化交流」（相模原市立湘南小学校、9月28日）
出張講座「日本の開国と異文化交流」（横浜市立相沢小学校、10月19日）
(ｷ)　歴史研究面においては、「19世紀中葉の国際秩序の変容」をメインテーマに研究を継続するとともに、今年度は特に以下の課題について研究を進めた。
2019年7月に開催を予定している「北からの開国」展準備作業の一環として関係資料に関する資料調査を行った。
科研費「開国期・危機的状況下における知識人の情報活動と意思決定過程に関する基礎的研究」にかかる研究。
公益財団法人日本海事科学振興財団・船の科学館が実施する「海の学び　ミュージアムサポート」のなかのプログラム3「海の学び調査・研究サポート」の支援を得て、「開国をテーマとする『海の学び』学習支援プログラムの開発に関する基礎的研究」のとりまとめ。
博物館学全般における研究動向の把握。

丹治 雄一（主任学芸員・歴史）
(ｱ)a「神奈川県産石材『白丁場石』から見た近代石材産業史」（地方史研究協議会第69回大会問題提起、『地方史研究』第395号、pp.25～29、10月）
(ｴ)　「岩石・石材をキーワードに地域の歴史と文化を紐解く―神奈川県立歴史博物館と神奈川県立生命の星・地球博物館による2度の共催展示と共同研究の取り組み―」（『全科協ニュース』vol.48 NO.5、全国科学博物館協議会、pp.4～6、9月）
(ｵ)　首都圏形成史研究会常任委員
(ｶ)a　MUFG（三菱UFJ フィナンシャルグループ）ELP（Extended Learning Program）講師「旧横浜正金銀行本店本館について」（於神奈川県立歴史博物館、6月2日）
関東地区代表高等学校長研究協議会講師「かながわの近代建築と近代化遺産」（於横浜ローズホテル、11月8日）
神奈川地学会巡検「ジオ歩き箱根湯本～石材・湯本白石を訪ねて」講師（於箱根町湯本周辺、3月9日）
b　旧横浜正金銀行本店本館建物見学会　①親子向け　②特別編（アーカイブ応募特典）　③特別編（アーカイブ応募特典）　④一般向け　⑤旧横浜正金銀行本店と横浜の港湾遺構をめぐる　⑥一般向け　⑦「エースのドーム」と横浜三塔をめぐる（5月5日、5月13日、5月16日、5月27日、

10 月 13 日、11 月 18 日、3 月 10 日）
博物館入門講座「当館の概要・博物館活動と学芸員の仕事・企画普及事業・館内見学」（10 月 6 日）
ミュージアムトーク今月の逸品「神奈川県庁新庁舎敷地内から出土した切石積みの壁」（10 月 17 日）
博物館体験教室「大人の工場見学　キリンビール横浜工場」（1 月 31 日）

(ｷ)　科学研究費助成事業の採択も受けて、石材産業史関係の調査に継続的に取り組み、静岡県河津町教育委員会が所蔵する「鈴木家文書」の資料調査では、同文書に横浜船渠会社が築造したドック（第一号船渠）への石材納入を示す資料が収められていることを確認した。また、神奈川県産石材を使用した現存する近代建築の現地調査も並行して実施した。

角田 拓朗（主任学芸員・美術・近代）

(ｱ)a　「明治初期洋画家の留学―五姓田義松の場合―」（『大手前大学比較研究文化叢書 14　明治初期洋画家の留学とフランスのジャポニスム』、pp. 61-98、水声社、1 月）

b　「コレクションの作法　特別展『明治 150 年記念　真明解・明治美術／増殖する新メディア　―神奈川県立博物館 50 年の精華―』に寄せて」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻 208 号、pp. 2-5、6 月）

(ｲ)　明治美術学会平成 30 年度第 3 回例会「問題提起を兼ねて　特別展『真明解・明治美術』の企画趣旨説明」（於神奈川県立歴史博物館、9 月 8 日）
美術史学会東日本大会『明治時代前期・工芸史研究への新たな視座』「明治絵画と工芸意匠の距離　大倉孫兵衛を一事例として」（於愛知県陶磁美術館、12 月 8 日）
日本ミュージアム・マネージメント学会平成 30 年度第 1 回コミュニケーション・マネージメント研究部会「事例報告　歴史民俗系博物館」（於科学技術館、12 月 2 日）
日本ミュージアム・マネージメント学会平成 30 年度第 2 回コミュニケーション・マネージメント研究部会「神奈川県立歴史博物館の取り組み事例（美術部門）」（於神奈川県立歴史博物館、3 月 3 日）

(ｳ)　特別展図録『明治 150 年記念　真明解・明治美術／増殖する新メディア　―神奈川県立博物館 50 年の精華―』（神奈川県立歴史博物館、9 月）
『作品の中の大田区―文士・画家の描いた風景―』（大田区立郷土博物館、10 月）
『二世五姓田芳柳作画　明治天皇紀附図稿本』（坂東市立資料館、10 月）

(ｴ)　「明治美術の魅力とは何か」（『季刊横濱』61、pp. 37-40、神奈川新聞社、7 月）
「真明解明治美術　①荒廃が生んだ希望」（『毎日新聞』朝刊、8 月 17 日）
「真明解明治美術　②20 歳が描いた奇跡」（『毎日新聞』朝刊、8 月 24 日）
「真明解明治美術　③鎌倉彫基礎固まる」（『毎日新聞』朝刊、9 月 8 日）
「真明解明治美術　④地図に美しさ追及」（『毎日新聞』朝刊、9 月 14 日）
「真明解明治美術　⑤美術教育 実技重視」（『毎日新聞』朝刊、9 月 21 日）
「神奈川県立歴史博物館の再開館について―非リニューアルもといプチイメチェンの顛末―」（『神奈川県博物館協会会報』90、pp. 53-55、神奈川県博物館協会、2019 年 3 月）

(ｵ)　明治美術学会監事、松戸市美術品等選定委員会委員、馬車道日曜画家展審査委員

(ｶ)a　神奈川県博物館協会第 1 回研修会「再開館に迫る！神奈川県立歴史博物館施設見学」（於神奈川県立歴史博物館、5 月 18 日）
芸術学舎「明治、このフシギな時代 2018　明治の美術、その成立と展開」（於京都造形芸術大学東京キャンパス・神奈川県立歴史博物館、7 月 10 日・8 月 7 日）
横浜市中区民生委員の会地域見学会（於神奈川県立歴史博物館、8 月 8 日）
神奈川県文化財協会平成 30 年度第 3 回見学会「特別展　明治 150 年記念　真明解・明治美術／増殖する新メディア―神奈川県立博物館 50 年の精華―　について」（於神奈川県立歴史博物館、8 月 29 日）
アートラボ特別展見学会（於神奈川県立歴史博物館、9 月 1 日）
横浜市南区街歩きの会特別展見学（於神奈川県立歴史博物館、9 月 12 日）
鹿児島市立美術館「時代と共に歩んだ明治洋画の魅力」（於鹿児島市立美術館、10 月 14 日）
全国歴史民俗系博物館協議会関東ブロック集会展示見学（於神奈川県立歴史博物館、2 月 15 日）

b　特別展入門講座「明治美術の魅力」（8月18日）
特別展関連講座「大人向け　夜の鑑賞会」（8月10日、8月31日、9月28日）
特別展関連特別演舞「明治を踊る、明治を語る」（9月24日）
ミュージアムトーク今月の逸品「鈴木其一筆　鯉図」（3月20日）
c　出張講座「近現代の日本美術と社会」（神奈川県立秦野養護学校、12月17日）
出張講座「近現代の日本美術と社会」（海老名市立柏ヶ谷小学校、12月18日）
(ｷ)　大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖を中心とした日米美術交流史の概観について研究を開始した。また、新出の在英五姓田派作品の研究を開始した。

(現代)
武田 周一郎（学芸員・歴史）
(ｱ)a「新出した大量の社寺明細帳図とその所在」（山地純との共著、『金沢文庫研究』341号、pp.46-49、10月）
「『三崎名物のマグロ料理』をめぐる価値観の変化」（コラム、小口千明との共著、小口千明・清水克志編『生活文化の地理学』、pp.52-54、古今書院、3月）
「江戸時代から明治時代の三浦丘陵における里山の変化―草地の分布と植林の展開に注目して―」（小口千明・清水克志編『生活文化の地理学』、pp.71-80、古今書院、3月）
『地図印刷技術者・岩橋章山の思想と台湾での動向に関する基礎的研究』（科学研究費助成事業研究成果報告書、神奈川県立歴史博物館、3月）
b「『平成捃拾帖』の試み」『ボランティアニュース』第78号（pp.1-2、神奈川県立歴史博物館ボランティア会、11月）
(ｲ)　地方史研究協議会大会「武蔵国鶴見寺尾郷絵図と拠点」（於横浜市開港記念会館、10月20日）
(ｳ)　特別展図録『神奈川県博開館51周年記念　つなぐ、神奈川県博―Collection to Connection―』（橋本遼太との共編、資料解説分担執筆、神奈川県立歴史博物館、4月）
図録『特別展　安達一族と鎌倉幕府―御家人が語るもうひとつの鎌倉時代史―』（コラム執筆、神奈川県立金沢文庫、7月）
(ｴ)　「つなぐ、神奈川県博　②風格の屋上ドーム」（『毎日新聞』朝刊、5月26日）
(ｵ)　首都圏形成史研究会常任委員、歴史地理学会集会委員
(ｶ)b 連続講座「展覧会担当学芸員が語る！それぞれの神奈川県博―あゆみと魅力―」第3回「分野をつなぐ―現代史と民俗―」（新井裕美と共同担当、6月16日）
c　出張講座「身近な歴史」（横須賀市立浦賀小学校、10月19日）
出張講座「身近な歴史」（横須賀市立夏島小学校、12月3日）
(ｷ)　主に館蔵現代資料に関する調査を進めるとともに、科研費や総合研究の研究課題に取り組んだ。また、地図印刷技術者の岩橋章山などについて成果をまとめた。

(民俗)
新井 裕美（学芸員）
(ｳ)　特別展図録『神奈川県博開館51周年記念　つなぐ、神奈川県博―Collection to Connection―』（解説分担執筆、神奈川県立歴史博物館、4月）
特別展図録『特別展　鎌倉ゆかりの芸能と儀礼』（解説分担執筆、神奈川県立歴史博物館、10月）
(ｴ)　「つなぐ、神奈川県博　④異文化交流史を紹介」（『毎日新聞』朝刊、6月9日）
「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼　②行道伝来 山間部にも名残」（『毎日新聞』朝刊、11月3日）
(ｵ)　大磯町国府祭町委託調査員、相模民俗学会運営委員
(ｶ)a 教員のための博物館講座「路傍の石造物からみる地域の歴史・行事・信仰―道祖神を例に―」（7月27日）
b　連続講座「展覧会担当学芸員が語る！それぞれの神奈川県博―あゆみと魅力―」第3回「分野をつなぐ―現代史と民俗―」（武田周一郎と共同担当、6月16日）
連続講座「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」第3回「県内における修験の信仰と芸能」（11月17日）
c　出張講座「昔の道具をしらべよう」（横浜市立もえぎ野小学校、1月10日）

出張講座「昔の道具をしらべよう」（相模原市立鶴の台小学校、1 月 23 日）
出張講座「昔の道具をしらべよう」（座間市立相模野小学校、1 月 31 日）
出張講座「昔の道具をしらべよう」（厚木市立南毛利小学校、1 月 29 日）
出張講座「昔の道具をしらべよう」（厚木市立上荻野小学校、2 月 7 日）

(ｷ) 平成 30 年度特別展「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」にかかる祭礼調査を実施した。また、県内の年中行事、死者供養、他界観に関する継続的な研究及び、館蔵の民俗資料の整理を行った。

三浦 麻緒（非常勤学芸員）

(ｱ)a 「篠原歌舞伎の地芝居衣裳について―付・当館所蔵衣裳一覧表―」（『神奈川県立博物館研究報告―人文科学―』第 45 号、pp. 89-98、3 月）

(ｳ)b 特別展図録『特別展　鎌倉ゆかりの芸能と儀礼』（解説分担執筆、神奈川県立歴史博物館、10 月）

(ｴ) 「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼　③県東部に集中し伝わる」（『毎日新聞』朝刊、11 月 10 日）

(ｶ)b 子ども向け体験教室「張り子のだるまを作ろう」（8 月 8 日）
連続講座「鎌倉ゆかりの信仰と儀礼」第 3 回「御霊神社の面掛行列と湯立神楽」（11 月 24 日）
子ども向け講座「展示を見てお面をつくろう」（12 月 2 日）

(ｷ) 館所蔵の民俗資料の整理。「相模原市（旧津久井郡）の農村歌舞伎」の調査研究と、特別展「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」に関連して神奈川県内の湯立神楽の調査研究を行った。

(その他)

小松 百華（臨時学芸員・教育普及・美術・近世）

(ｱ) 「海北家伝来海北派絵画関係資料試論　―京都御所造営を中心に―」（『芸術学』21 号、pp. 3-22、三田芸術学会、3 月）

(ｷ) 京都・妙心寺塔頭麟祥院所蔵の海北派作品 4 点の調査を行った。今後は海北家と稲葉家の交流について着目し、引き続き海北派の軌跡を探っていきたい。

中村 茉貴（非常勤資料整理員・美術・近現代）

(ｷ) 戦後に隆盛した美術の教育普及に関すること。蕨画塾を創設した長谷秀雄や創造美育協会がけん引した「小コレクター運動」に関連する作品および資料調査を行った。

4　資料収集・修理・保管・利用

〈凡例〉

ア 購入、　イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換、　ウ 修理、　エ 貸出、　オ 特別利用、　カ その他

(1)　考古資料

イ　原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換

(寄贈)

No.	資料名	寄贈主	寄贈月日	数量
1	有孔鍔付土器	個人（神奈川県在住）	2月19日	1件1点
			合計	1件1点

(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	壺（神奈川県立横須賀高等学校裏山遺跡）他	平成7年2月10日	－	1件3点
2	灰釉陶器碗（上浜田遺跡）他	平成30年4月12日	―	108件237点
			合計	109件240点

ウ　修理

No.	資料名	(備考)	数量
1	横浜市十王堂免遺跡採集縄文土器	林國治コレクション（CX0005977・CX0005989・CX0006167・CX0006168）	4点

エ　貸出

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	顔面把手（横浜市公田ジョウロ塚遺跡）	東京国立博物館・特別展「縄文の美―1万年の美の鼓動」	展示	平成30年7月1日～9月21日	1件1点
2	顔面把手（横浜市公田ジョウロ塚遺跡）	東京国立博物館・パリ日本文化会館（フランス）ジャポニスム2018特別展「縄文」	展示	平成30年9月3日～12月27日	1件1点
3	小林幸雄氏コレクション	横浜市鶴見区役所・横浜市末吉地区センター1Fロビー	展示	平成30年4月1日～平成31年3月31日	1件72点
				合計	3件74点

オ　特別利用

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	スタンプ形石器（2-132-0538～2-132-0637）	個人研究調査	熟覧 メモ 実測 撮影	平成30年7月7日	1件100点
2	横浜市十王堂免遺跡採集縄文土器	個人研究調査	熟覧 メモ 実測 撮影	平成30年7月17日	1件21点
				合計	2件121点

(2) 歴史資料

ア　購入

No.	資料名	概要	規格・寸法	数量
1	唐船騒略記　ほか	1853（嘉永6）年ほか	24.5×17.0cmほか	1件3点
2	嘉永六年対外関係「聞書」	1853（嘉永6）年	27.0×18.5cm	1件1点
3	亜墨利加使節対話書	1857（安政4）年	23.0×16.2cm	1件1点
4	船将より領事官江差出候舩中行状書添書横文字和解	1855（安政2）年	27.0×19.0cm	1件1点
5	昭和戦前期都市計画関係地図	南林間都市分譲地平面図（1929年頃）ほか	31.8×46.6cmほか	1件3点
6	工業・港湾川崎市写真帖	1931年発行	18.8×26.5cm	1件1点
7	大正・昭和戦前期神奈川県全図・都市図	小田原町全図（1920年）ほか	55.2×78.6 cmほか	1件6点
8	神奈川県橘樹郡大師河原村全図	1919年現在	116.2×153.9cm	1件1点
9	神奈川県橘樹郡中原村・小川家旧蔵　所有地及び耕地整理組合資料一括	中原村上小田中（神地）全図ほか	55.2×79.3cmほか	1件14点
10	2500分1　国土基本図	船ヶ台（1962年測量）ほか	79.1×109.3cmほか	1件17点
11	戦後都市図	最新横浜市街図（1929年）ほか	76.2×54.5cmほか	1件8点
12	川崎市鳥瞰図	1950年代後半発行	77.0×108.6cm	1件1点
13	川崎工業別案内区画図	1953年発行	54.3×76.4cm	1件1点
			合計	13件52点

イ　原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換

（寄贈）

No.	資料名	寄贈主	寄贈年月日	数量
1	吉田初三郎作 神奈川県鳥瞰図（複製）	富士ゼロックス神奈川（株）	平成30年4月3日	1件1点
2	本多梅吉関係資料	個人（神奈川県在住）	平成30年7月24日	11件114点
3	地形図製版印刷関係書類綴	個人（神奈川県在住）	平成30年9月7日	1件1点
4	駅弁掛け紙スクラップブック	個人（神奈川県在住）	平成31年3月5日	18件18点
5	池田清蔵関係資料	個人（神奈川県在住）	平成31年3月21日	6件69点
			合計	37件203点

ウ　修理

No.	資料名	（備考）	数量
1	桜井家文書	紙継目を修正のうえ、裏打ちを施した。	1件2点
2	富士山噴火絵図并御徒歩目付見分書上写	洗浄の上、裏打ち。巻子をマット装に改めた。	1点

エ　貸出

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	浩然随筆　二十六・二十七、三十四	北海道博物館 巡回特別展「幕末維新を生きた旅の巨人　松浦武四郎」	展示	平成30年6月16日 ～9月4日	1件3点

2	浩然随筆　二十六・二十七・三十四	三重県総合博物館 企画展「幕末維新を生きた旅の巨人　松浦武四郎」	展示	平成30年9月4日 ～12月7日	1件3点
3	建久三年九月十二日鎌倉将軍家政所下文（複製）	千葉市立郷土博物館 千葉常胤生誕900年記念特別展「千葉常胤と鎌倉幕府の成立―東国武士と武家政権―」	展示	平成30年10月1日 ～12月28日	1件1点
4	稲葉正勝像 稲葉正則像	小田原城天守閣 平成30年度小田原城天守閣特別展「小田原開府五百年～北条氏綱から続くあゆみ～」	展示	平成30年10月16日 ～12月27日	2件2点
5	源頼家袖判下文　正治二年正月廿五日	栃木県立博物館 企画展「藤原秀郷―源平と並ぶ名門武士団の成立―」	展示	平成30年10月19日 ～12月18日	1件1点
6	相州鎌倉郡津村腰越村与同国同郡片瀬村魚猟場裁許之事	藤沢市文書館 平成30年度藤沢市収蔵資料展で使用する写真パネル作成のための撮影	撮影	平成30年11月30日 ～12月21日	1件1点
7	浩然随筆　二十六・二十七、三十四	北海道立帯広美術館 巡回特別展「幕末維新を生きた旅の巨人　松浦武四郎」	展示	平成30年12月15日 ～平成31年2月11日	1件3点
				合計	8件14点

オ　特別利用

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	（永禄四年）二月二十八日「北条家朱印状」	国立歴史民俗博物館	熟覧 メモ 実測 撮影	平成30年5月 ～平成31年3月31日	1件1点
2	相州鎌倉之本絵図	個人研究調査	熟覧 メモ 実測 撮影	平成30年8月28日	1件1点
3	輸出用日本茶商標ビラ 日本茶輸出宣伝用扇子 輸出商標	個人研究調査	熟覧 メモ 撮影	平成31年1月22日	3件8点
4	亜米利加船渡来横浜之真図 ペリー献上蒸気機関車模型 御幸臨鉄道開業縦観券	下関市立博物館	熟覧 メモ 撮影	平成31年1月23日	3件3点
5	東京国立博物館所蔵　旧小田原城天守閣模型	みんなでお城を造る会・小田原城天守閣模型の詳細調査	熟覧 メモ 撮影	平成31年1月29日	1件1点
6	横浜写真アルバム	個人研究調査	熟覧 メモ 撮影	平成31年2月8日	13件13点
				合計	22件27点

(3) 美術資料

ア　購入

No.	資料名	概要	規格・寸法	数量
1	木造釈迦如来坐像	木造、金泥塗り・漆箔、玉眼 室町時代	像高 34.6 ㎝	1 件 1 点
			合計	1 件 1 点

イ　原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換

(寄託)

No.	資料名	当初寄託年月日	数量
1	重要文化財　木造他阿真教坐像	平成 17 年 5 月 24 日	1 件 1 点
2	束帯天神像　他	平成 21 年 4 月 24 日	9 件 9 点
3	祖栄筆　柳に鷺図　他	平成 21 年 8 月 1 日	27 件 36 点
4	眞葛焼（渡蟹水盤　他）	平成 22 年 3 月 1 日	28 件 37 点
5	潘閬図右都御史筆	平成 25 年 7 月 2 日	1 件 1 点
6	阿羅漢図　他	平成 25 年 12 月 1 日	2 件 3 点
7	齋藤俊吉氏旧蔵作品群	平成 27 年 6 月 18 日	1 件 63 点
8	仁阿弥道八作焼締急須	平成 27 年 6 月 26 日	1 件 9 点
9	一遍他阿真教像　他	平成 28 年 3 月 25 日	2 件 2 点
10	山崎勢威子肖像	平成 31 年 3 月 1 日	1 件 1 点
11	高橋広湖筆　松	平成 28 年 5 月 20 日	19 件 19 点
12	絵瀬戸草文輪花皿　他	平成 28 年 6 月 24 日	7 件 49 点
13	初代五姓田芳柳　果物之図	平成 29 年 3 月 1 日	1 件 1 点
14	近代絵画作品群	平成 29 年 3 月 1 日	37 件 37 点
15	闘鶏下絵(下村観山)　他	平成 29 年 5 月 1 日	11 件 14 点
16	二世五姓田芳柳　静岡製茶絵図	平成 29 年 9 月 22 日	1 件 1 点
17	伝大吉祥菩薩立像	平成 29 年 12 月 1 日	1 件 1 点
18	伝聖徳太子立像	平成 29 年 12 月 1 日	1 件 1 点
19	二河白道図　他	平成 31 年 3 月 8 日	4 件 4 点
20	祖栄筆芦葉達磨図	平成 31 年 3 月 27 日	1 件 1 点
		合計	156 件 290 点

(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	県重要文化財　紙本墨画淡彩十六羅漢図　他	昭和 44 年 3 月 1 日	－	2 件 17 点
2	県重要文化財　絹本著色　熊野権現影向図	昭和 44 年 3 月 1 日	－	1 件 1 点
3	県重要文化財　絹本著色　両界曼荼羅図　他	昭和 44 年 7 月 1 日	－	1 件 37 点
4	常滑印花文壺　他	昭和 48 年 3 月 1 日	－	1 件 12 点
5	東海道図屏風	昭和 49 年 7 月 1 日	－	1 件 1 点
6	源氏物語図屏風	昭和 50 年 3 月 10 日	－	1 件 1 点
7	絹本著色　七星如意輪曼荼羅図他	昭和 50 年 6 月 1 日	－	1 件 25 点
8	横浜浮世絵	昭和 52 年 1 月 10 日	－	1 件 473 点
9	張交屏風	昭和 52 年 7 月 15 日	－	1 件 1 点
10	県指定重要文化財　木造薬師如来坐像	昭和 56 年 2 月 25 日	－	1 件 1 点

11	大小暦コレクション	昭和59年4月1日	－	1件40点
12	双六(下村観山)	昭和59年7月1日	－	1件1点
13	鴉図（以天宗清） 他	昭和63年7月7日	－	1件2点
14	短刀(チャールズ・ワーグマン所用)	平成2年8月25日	－	1件1点
15	江島金沢八景図屏風 他	平成4年12月1日	－	1件4点
16	本牧風景 他	平成5年6月15日	－	1件2点
17	鶴岡八幡宮境内出土品の内 板草履の芯 他	平成7年3月1日	－	1件19点
18	仁清意鶏形香合 他	平成12年3月1日	－	1件3点
19	俵藤太絵巻	平成12年5月1日	－	1件5点
20	好色十二候 他(喜多川歌麿)	平成12年12月20日	－	1件12点
21	箱根権現縁起絵巻 付 納入箱	平成13年8月1日	－	1件2点
22	賀茂真淵筆 伊勢物語古意6冊他	平成28年9月20日	－	12件19点
			合計	34件679点

ウ 修理

No.	資料名	(備考)	数量
1	脇差	(赤羽刀No.1159、官報No.1156、銘「相州鎌倉住圀秀作」、江戸時代末期)	1振
2	脇差	(赤羽刀No.1996、官報No.2121、銘「相州住綱廣」、室町時代末期)	1振

エ 貸出

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	刺繍種字金剛界曼荼羅	奈良国立博物館 修理完成記念特別展「糸のみほとけ―国宝 綴織當麻曼荼羅と繍仏―」	展示	平成30年6月26日 ～9月28日	1件1点
2	江戸名所 雪（吉原の三景の中） 江戸名所 月（吉原三景の中） 江戸名所 花（吉原三景の中） 東都名所高輪廿六夜待遊興之図 東都両国すゞみ船 東都繁栄之図 河原崎座正面見物人の往来 名所江戸百景 亀戸梅屋舗 名所江戸百景 深川洲崎十万坪 名所江戸百景 大はしあたけの夕立 名所江戸百景 浅草田圃西の町詣 東都飛鳥山の図 王子道狐のよめ入 木曾海道六拾九次之内 洗馬 東都本郷月之光景 東都大伝馬街繁栄之図	那珂川町馬頭広重美術館 特別展「広重没後160年記念 大広重展－肉筆浮世絵と錦絵の世界－」	展示	平成30年6月27日 ～10月12日	15件15点

	飛鳥山花見の図				
3	鉄二十四間四方白星兜鉢（国指定重要文化財） 鉄二十八間四方白星兜（国指定重要文化財） 曽我物語絵巻　巻七 蒙古襲来絵詞　模本 頼朝公由井浜遊覧ノ図	神奈川県立金沢文庫 特別展「安達一族と鎌倉幕府 御家人が語るもうひとつの鎌倉時代史」	展示	平成30年6月29日 ～9月30日	1件7点
4	皇国一新見聞誌　伏見の戦争 幼童遊び子をとろとろ 近世史略　薩州屋敷焼撃之図 東京府京橋ヨリ呉服橋ノ遠景 東京府御東幸行烈図 徳川家十五代之将軍慶喜公謹依之慶応四辰年四月十一日且卯ノ上刻西城奉還之図 明治元戊辰年五月一五日　東台大戦争図	横浜市歴史博物館 企画展「戊辰の横浜　名もなき民の慶応四年」	展示	平成30年7月11日 ～9月15日	7件7点
5	布袋図　仲安真康筆 出山釈迦図　啓孫筆	根津美術館 企画展示「禅僧の交流―墨蹟と水墨画を楽しむ―」	展示	平成30年8月21日 ～10月21日	2件2点
6	祥啓筆　春景山水図 祥啓筆　花鳥図（神奈川県指定重要文化財） 武陽金沢八勝夜景 鎌倉金沢図屏風　六曲一双　個人蔵	神奈川県立金沢文庫 特別展「西湖憧憬―西湖梅をめぐる禅僧の交流と15世紀の東国文化」	展示	平成30年9月1日 ～11月30日	4件7点
7	伝源頼朝坐像（複製）	千葉市立郷土博物館 千葉常胤生誕900年記念特別展「千葉常胤と鎌倉幕府の成立―東国武士と武家政権―」	展示	平成30年10月1日 ～12月28日	1件1点
8	平家物語図屏風　六曲一隻 平家物語（奈良絵本）第8冊 平家物語（奈良絵本）第21冊	栃木県立博物館 企画展「藤原秀郷―源平と並ぶ名門武士団の成立―」	展示	平成30年10月19日 ～12月18日	3件3点
9	石清水八幡宮曼荼羅 熊野権現影向図　正念寺所蔵	神奈川県立金沢文庫 特別展「顕われた神々―中世の霊場と唱導―」	展示	平成30年11月1日 ～平成31年1月31日	2件2点
10	仏涅槃図　宝生寺所蔵	横浜市歴史博物館 「平成30年度横浜市指定・登録文化財展」	展示	平成30年11月14日 ～平成31年1月31日	1件1点
11	鎌倉彫牡丹文大香合 鎌倉彫菊唐草文袈裟箱 鎌倉彫屈輪文香合 鎌倉彫屈輪文香合 鎌倉彫花鳥文高卓 鎌倉彫葡萄文台子	建長寺 展覧会「禅と茶道と鎌倉彫」	展示	平成30年11月15日 ～11月22日	6件6点
12	南蛮屏風	長崎県美術館 「クアトロ・ラガッツィ　桃山	展示	平成30年11月16日 ～平成31年2月3日	1件1点

		の夢とまぼろし―杉本博司と天正少年使節が見たヨーロッパ―」			
13	農家畊作之図 今様姿　流行狂画だんまり 閨中道具八景　台子乃夜雨 いせ古市牛車楼　小瀧　ちとせ古鷄亭山笑 黒地歌留多散らし衣裳の遊女 かゐこやしなひ草　第五 風流七ツ目絵合 松葉屋内歌之助　喜瀬川 双筆五十三次　品川 江戸名所四季の眺　御殿山花見之図 無題（料理をする母娘） 江戸新吉原八朔白無垢の図	渋谷区立松濤美術館 特別展「女・おんな・オンナ～浮世絵にみる女のくらし」	展示	平成31年3月18日 ～令和元年6月7日	12件12点
14	宝珠文種子鉦架 木造真教坐像（重要文化財、蓮台寺所蔵）	京都国立博物館 特別展「国宝一遍聖絵と時宗の名宝」	展示	平成31年3月22日 ～令和元年6月30日	2件2点
				合計	58件67点

オ　特別利用

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	狩野元信　山水花鳥図屏風　六曲一隻 前島宗祐 四季耕作図屏風 六曲一隻 平家物語図屏風 六曲一隻 南蛮図屏風 六曲一双 曽我二直菴 商山四皓・竹林七賢図屏風 六曲一双 源平合戦図屏風 六曲一双 源平合戦図屏風 六曲一隻 狩野探幽 四季耕作図屏風 六曲一双 鈴木南嶺 鶴図屏風 六曲一双 岡本秋暉 花鳥図屏風 六曲一隻 木賊図屏風 六曲一双 橋本雅邦 双竜図屏風 六曲一双 二世五姓田芳柳 国府台風景図屏風 六曲一双 東海道図屏風 六曲一隻 東海道図屏風 六曲一双 東海道図絵巻貼付屏風 六曲一隻	東京文化財研究所	熟覧 メモ 実測 撮影	平成30年6月7日 ～6月8日	16件25点

2	絵暦帖（個人蔵）	個人研究調査	閲覧	平成30年6月23日	3件3点
3	牛にのった富士見西行 美人三番叟 熊谷と敦盛 子の日の小松引き 幻の若衆文を焼く 舟中髭を抜く朱達磨と舟を漕ぐ美人 近江八景　石山秋月 寺小姓と上臈 おはぐろつける遊女 夕雪（雪ころがし） 夜の燈 無題（なぞらいきんこ仙人） 縁先にて文読む二美人 信 風流大和廿四孝　えん子 風流名所鏡　御裳濯川　伊勢 今様五節句戯　孟春 九郎助稲荷の鳥居の前に立つ遊女若松と禿 藤下橋上男女	個人研究調査	閲覧	平成30年7月19日	19件19点
4	一遍上人像	個人研究調査	熟覧 メモ 撮影	平成30年9月6日	1件1点
5	源平合戦図屏風　六曲一双 源平合戦図屏風　六曲一隻 平家物語図屏風　六曲一隻 堀川夜討絵巻	海の見える杜美術館	熟覧 メモ 撮影	平成30年9月13日	4件6点
6	横浜写真諸会社諸商店之図	那須塩原市那須野が原博物館	熟覧 メモ 撮影	平成31年2月15日	10件10点
				合計	53件64点

(4)　民俗資料

イ　原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換

（寄贈）

No.	資料名	寄贈主	寄贈年月日	数量
1	神楽面　他	個人（神奈川在住）	平成31年3月29日	1件151点
2	和船模型	個人（神奈川在住）	平成31年3月29日	1件1点
3	メイドバン　他	個人（神奈川在住）	平成31年3月29日	3件10点
			合計	5件162点

（寄託）

No.	資料名	当初寄託年月日	数量
1	ダイカイ　他	平成27年5月14日	2件3点
		合計	2件3点

（借用）

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	お食初め膳　他	昭和46年10月23日	－	1件3点
2	燭台	昭和47年3月6日	－	1件1点
3	長持　他	昭和47年3月6日	－	1件2点
4	お歯黒さし　他	昭和47年3月8日	－	1件2点
5	お歯黒の道具	昭和47年3月11日	－	1件1点
6	ミノ	昭和47年7月11日	－	1件2点
7	天狗の面　他	昭和48年2月27日	－	1件3点
8	帳場格子　他	昭和48年3月2日	－	1件15点
9	結納樽	昭和48年4月1日	－	1件1点
10	お馬板、ツノダル	昭和48年8月20日	－	1件3点
11	鏡台と鏡　他	昭和49年4月26日	－	1件4点
12	張子面木型	昭和51年6月19日	－	1件7点
13	獅子頭　他	昭和54年3月1日	－	1件11点
14	婚礼用具	昭和54年3月1日	－	1件1点
15	足踏み脱穀機	平成6年4月15日	－	1件2点
16	渡辺紳一郎時計コレクション	平成28年7月1日	－	1件22点
			合計	16件80点

ウ　修理

No.	資料名	備考	数量
1	藤野町浄瑠璃人形	文七、団七、又平	3点

オ　特別利用

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	庚申塔（秦野市松原） 庚申塔掛軸（海老名市上郷）	個人研究調査	熟覧 メモ 実測 撮影	平成30年8月28日	2件2点
2	トズラドオシ ワッパサミ（トズラドオシ製作道具） コマ（トズラドオシ製作道具） ヒッカガリ（トズラドオシ製作道具） スキバリ（トズラドオシ製作道具） ＤＶＤ（トズラドオシ製作の様子）	個人研究調査	熟覧 メモ 実測 撮影	平成31年1月8日	6件6点
				合計	8件8点

(5)　写真資料

平成30年度写真撮影資料

ア　特別展図録用

(ｱ)　真明解・明治美術

(ｲ)　鎌倉ゆかりの芸能と儀礼

(ｳ) 横浜浮世絵
(ｴ) 北からの開国
(ｵ) 新版画

イ コレクション展示用
なし

ウ 特別陳列用
屏風をひらけば

(6) 資料の燻蒸等

IPM(総合的病害虫管理 Integrated Pest Management)に基づき、日常的には〝予防〟の観点から資料保存活動を進めている。年に2回、文化財害虫調査ならびに空中浮遊菌調査を実施し、文化財害虫の生息状況やカビの発生危険度の把握に努めている。

本年度は特別展開催に際し、平成30年8月9月および平成31年3月に出品予定資料の炭酸ガス燻蒸を行った。

(7) その他の資料

ア 図書

平成30年度図書資料の状況は次のとおりである。大学等の関係機関からの寄贈も多く、当館の貴重な資料として活用されている。

受入種別	購入	寄贈	計	総数	ﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ公開数
図　　書(冊)	4	432	436	20,566	4,506
図　　録(冊)	0	762	762	16,399	521
逐次刊行物(タイトル)	23	21	44	2,294	84

※逐次刊行物はタイトル数で、寄贈は新規のみの数値。

イ 写真

展示・調査研究資料として、収蔵資料を中心に撮影したフィルム119,613枚とデジタルカメラデータ28,639枚を保存し、データベース化するとともに、写真の特別利用として貸出しを行っている。

特別利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	9	12	20	15	19	17	18	21	18	20	16	28	213
点数	12	28	41	100	35	46	40	46	24	52	40	79	543

ウ 情報システム

(ｱ) システム整備の目的と背景

a 学習の支援
b 高度な知的ニーズへの対応
c 博物館活動の活性化、効率化
d 研究活動の高度化
(a) 各種アプリケーションの利用
(b) 博物館が所有する情報の活用
e 情報公開

博物館の再編整備の方向（「県立博物館整備構想に関する提言」昭和63年度）

(a) 高度情報化社会における自然・文化の情報センター
(b) 映像資料等、新しい形態の資料の収集・保存と活用の拠点
(c) 内外の博物館、学習文化施設等とのネットワークの拠点

(ｲ) システム開発と運用

a システム基本設計・詳細設計 平成 5 年度
b システム運用開始 平成 7 年度
c システム更新 平成 13、18、23、28 年度

(ｳ) 稼動しているシステム（「デジタルミュージアム」）の内容

a 展示情報システムの内容
ミュージアムライブラリーに設置された２台の来館者用パソコンで提供。一部の資料については、高精細の拡大画像も提供。従来、館内利用に限定されていた展示情報システムは、当館のWebページに掲載され、利用者が自宅や学校で閲覧可能（タイトルのうち、№2絵馬、№5水墨画、№12収蔵コレクションは除く。）

№.	タイトル	内容
1	浮世絵	博物館所蔵の約 7,000 点ある浮世絵の中から、浮世絵の歴史、神奈川を描いた浮世絵、横浜浮世絵、著名な浮世絵師たち、一枚の絵から見る江戸時代の風俗など、テーマごとに選択した 230 点の浮世絵を紹介。
2	絵馬	神奈川県でよく見ることが出来る絵馬や珍しい絵馬など 125 点を紹介。
3	関東大震災	震災時の惨状等を伝える写真資料 70 点を紹介。
4	古地図・絵地図	当館収蔵の古地図の中から 50 点を紹介。館内端末では拡大画像により、細部まで見ることが可能。
5	水墨画	平成 10 年度に開催した水墨画の特別展に出品された作品の中から代表的な作品 85 点を紹介。
6	横浜正金銀行	かつて世界三大為替銀行の一つに数えられた横浜正金銀行の写真資料 221 点を紹介。
7	眞葛焼	かつて世界に名を知られた横浜の焼き物の中から 46 点を紹介。
8	鎌倉彫	館蔵品の鎌倉彫の中から 32 点を紹介。
9	後北条氏関係文書	戦国大名北条氏の多様な文書の世界を人物などとともに 118 点を紹介。
10	東海道分間絵図	東海道の情景を描いた道中案内記(1 件 5 冊)を紹介。拡大画像により、細部まで見ることが可能。
11	県有形民俗文化財 職人の道具コレクション	神奈川県指定有形民俗文化財「神奈川の職人の道具コレクション」(17 職種 1,982 点)のうち、大山木地師、小田原物差職人、下駄職人、傘職人の道具など、338 点を紹介。
12	収蔵コレクション	収蔵データベースの一部について、概要を一覧形式で提供する。考古：206 点、中世文書 96 点、彫刻：14 点、中世絵画 80 点、浮世絵：288 点、近代歴史資料 260 点、近代絵画 156 点、民俗 306 点
※この他に、神奈川県立生命の星・地球博物館が作成・提供している「神奈川の自然」「恐竜」「酒井コレクション細密画」「図書・雑誌検索」も閲覧が可能		

b 業務システムの内容

(a) 収蔵資料管理システム：収蔵品管理機能、画像登録機能、受入管理機能、特別利用管理運用機能、各種帳票ラベル出力機能

(b) 図書文献管理システム

(ｴ) システム構成

a 概要

(a) サーバ用ＯＳ：Red Hat Enterprise Linux、Windows Server

(b) クライアント用ＯＳ：Windows8.1、macOS

b 設置機器

(a) 情報処理室・電源室

収蔵システムサーバ 1台、Webサーバ 1台、展示情報用サーバ 1台、
アップデートサーバ 1台、図書サーバ 1台、ＣＭＳサーバ 1台、作業用パソコン 2台

(b) ミュージアムライブラリー

来館者用パソコン 2台、レファレンス用パソコン 2台

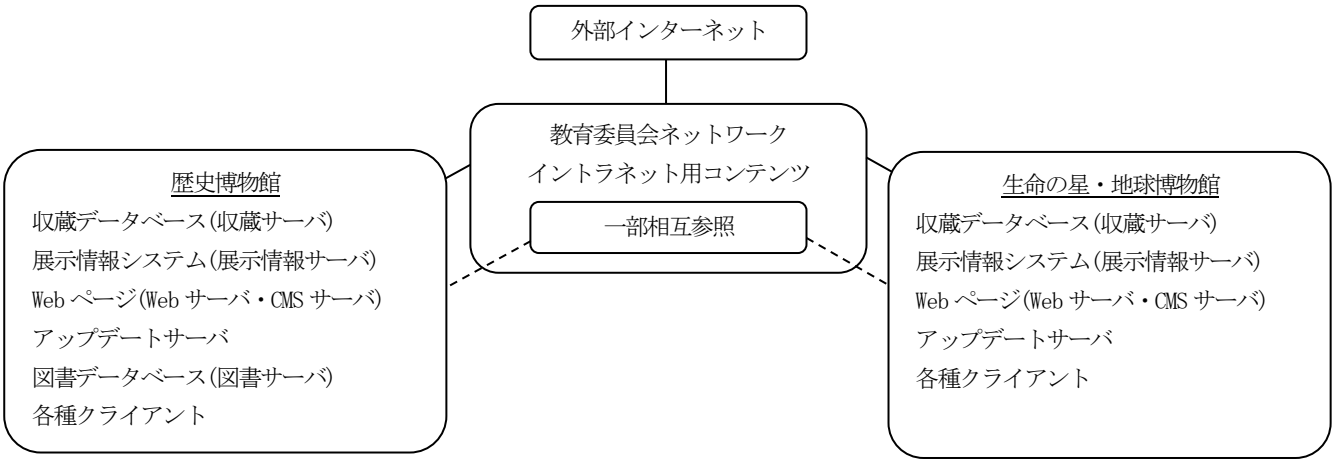
(c) 展示機材倉庫（印刷室）

画像入力用パソコン 2台

(d) 学芸部室・学芸部各資料整理室・管理課室・企画情報部室・図書資料整理室・写真室・暗室

各室作業用パソコン 計38台

(ｵ) 歴史博物館システム機器構成図



(ｶ) 歴史博物館Webページ アクセス件数

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
HP	103,623	117,090	87,995	84,015	98,938	99,020	87,742	81,491	74,503	82,860	82,131	91,360	1,090,768

参考（内数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾐｭｰｼﾞｱﾑ	1,114	1,222	1,000	1,013	864	827	997	1,008	933	1,090	968	951	11,987

５　展示・教育普及・学習支援

(1)　常設展

当館の常設展示は「文化の交流と変容」という基本テーマに基づき、「かながわの文化と歴史」について、五つの時代に分け、それぞれのテーマのもとに、人々の生活や信仰、政治や経済の変化、外来文化の影響などを、さまざまな角度からとらえ、歴史的視点で展開している。

テーマ１　さがみの古代に生きた人びと

- ・大地に生きる狩人
- ・海への進出
- ・米づくり、はじまる
- ・古墳を築く
- ・都とさがみの国

テーマ２　都市鎌倉と中世びと

- ・源頼朝と東国武士団
- ・戦国大名後北条氏
- ・掘り起こされた鎌倉
- ・唐物とその影響
- ・民衆と仏教

テーマ３　近世の街道と庶民文化

- ・宿場と関所
- ・庶民信仰と名所めぐり
- ・村の支配と生活
- ・相武の産物と江戸

テーマ４　横浜開港と近代化

- ・蒸気船が導いた新たな時代
- ・世界へ開かれたみなとＹＯＫＯＨＡＭＡ
- ・文明開化の音
- ・近代化と神奈川
- ・横浜浮世絵に見る神奈川
- ・横浜正金銀行

テーマ５　現代の神奈川と伝統文化

- ・関東大震災を越えて
- ・昭和恐慌と社会変化
- ・戦時体制と敗戦
- ・占領から講和へ
- ・高度経済成長と環境の変化
- ・メディアコミュニケーション
- ・変貌する町と村
- ・イエと暮らし
- ・くらしの中の祈り
- ・なりわいと儀礼
- ・伝承される技術と芸能

(2)　特別展

ア　「神奈川県博開館51周年記念　つなぐ、神奈川県博 ― Collection to Connection ―」

会　　期：平成30年4月28日(土)～7月1日(日)
※再開館を記念し4月28日～30日は、無料開館。

後　　援：神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、共同通信社横浜支局、時事通信社
横浜総局、ＮＨＫ横浜放送局、ＴＶＫ（テレビ神奈川）、ラジオ日本、ＦＭヨコハマ、馬車道商店街協同組合

展示資料件数：107件

入 場 者 数：15,824名（有料4,782名、無料11,042名）

担　　当：学芸員 千葉 毅、学芸員 神野 祐太、学芸員　新井 裕美、学芸員　橋本 遼太、学芸員　武田 周一郎

概　　要：神奈川県立歴史博物館は、その前身である県立博物館が昭和42（1967）年3月に開館して以来、全国でも先駆的な都道府県立の総合博物館として、人文・自然の双方で様々な活動を展開してきた。平成7（1995）年3月に県立歴史博物館として再出発してからも、「神

奈川の歴史と文化」というテーマのもと、先史時代から現代まで、あらゆる角度から神奈川を眺め、それを取り巻く世界とのつながりにも目を向け活動を続けてきた。開館から50周年を迎えた平成29（2017）年は、おりしも空調等の設備改修工事の最中であった。工事は開館51周年となる平成30年に無事完了し、当館はあらたな博物館活動の第1歩を踏み出した。

博物館の根幹である資料は、時代を越え、多くの人々のつながりを経ながら、現在まで伝えられてきたものである。そこで本展では「つなぐ」をキーワードに、当館が培ってきた多くのつながりを振り返りながら、ここから未来へとつながってゆく視点を来館者とともに考えていくことを趣旨として開催した。古きものを残すだけでなく、それらを通して新たな視点を発見できる場所としての博物館の在り方を模索し、これからも多様な価値観を発信していくことを再確認する展覧会とした。

関 連 行 事：4月29日(日) 学芸員による展示解説
4月30日(月・祝) 学芸員による展示解説
5月3日(木・祝) 学芸員による展示解説
5月4日(金・祝) 学芸員による展示解説
5月5日(土・祝) 旧横浜正金銀行本店本館　建物見学会(親子向け)
5月6日(日) 学芸員による展示解説
5月12日(土) 体験教室「中世人にならう　手紙の書き方、折り方」
(午前子ども向け、午後一般向け)
横浜本町郵便局による風景印押印イベント
5月13日(日) 学芸員による展示解説
5月19日(土) 連続講座「展覧会担当学芸員が語る！それぞれの神奈川県博―あゆみと魅力―」第1回
5月20日(日) 体験教室「東海道分間絵図をつくる」(一般向け)
学芸員による展示解説
5月26日(土) 体験教室「仏像になってみよう」(午前・午後/ともに親子向け)
5月27日(日) 旧横浜正金銀行本店本館　建物見学会(一般向け)
学芸員による展示解説
6月2日(土) 連続講座「展覧会担当学芸員が語る！それぞれの神奈川県博―あゆみと魅力―」第2回
6月3日(日) 学芸員による展示解説
6月9日(土) 体験教室「はくぶつかんで“にらめっこ”と“おえかき”」(午前・午後/ともに親子向け)
6月10日(日) 学芸員による展示解説
6月16日(土) 連続講座「展覧会担当学芸員が語る！それぞれの神奈川県博―あゆみと魅力―」第3回
6月17日(日) 学芸員による展示解説
6月23日(土) 記念鼎談「神奈川県立博物館からの出発と再編、そしてこれから―ふたりの館長と神奈川新聞記者が語る―」
6月24日(日) 学芸員による展示解説
6月30日(土) 学芸員による展示解説
7月1日(日) 学芸員による展示解説

出 品 目 録：(凡例) №、資料名、年代、所蔵・<所在地>

1　家形埴輪　古墳時代後期
2　万祝　高砂　大正時代
3　内掛　鯉の滝登り　明治時代
4　菩薩半跏像（遊戯坐像）　附 像内納入品　南宋時代
5　源頼朝袖判下文　建久3年（1192）9月12日
6　北条家朱印状（帰源院文書）　永禄4年（1561）2月28日
7　阿弥陀如来坐像　鎌倉時代
8　横浜諸会社諸商店之図
8-1　町会所　明治20年（1887）頃

8-2　石炭屋　渡邉福三郎　明治20年（1887）頃
8-3　第二國立銀行　明治20年（1887）頃
8-4　野沢屋　茂木惣兵衛　明治20年（1887）頃
8-5　丸善書廊　明治20年（1887）頃
8-6　亀屋　原善三郎　明治20年（1887）頃
8-7　陶器製造所 眞葛香山　明治20年（1887）頃
8-8　横濱正金銀行　明治20年（1887）頃
9　田邊哲人コレクション　高取釉渡蟹水盤　宮川香山（初代）・眞葛窯　大正5年（1916）
10　相州鎌倉之図　紙本・淡彩　江戸時代
11　井田磐楠像　五姓田義松筆　キャンバス・油彩　明治15年（1882）
12　東海道五十三次　保永堂版（揃）　歌川広重（初代）
12-1　丹波コレクション　蒲原　夜之雪　天保4年（1833）頃
12-2　丹波コレクション　蒲原　夜之雪　変摺　天保4年（1833）頃
12-3　丹波コレクション　藤川　棒鼻ノ図　天保4年（1833）頃
12-4　庄野　白雨　天保4年（1833）頃
13　丹波コレクション　本朝名所（藤彦版）　歌川広重（初代）　天保3年（1832）頃
13-1　相州七里ガ浜　天保3年（1832）頃
13-2　相州江ノ島岩屋之図　天保3年（1832）頃
13-3　武州金沢風景　天保9・10年（1838・39）頃
14　丹波コレクション　不二三十六景　神名川海上（佐野喜版）　歌川広重（初代）　嘉永5年（1852）
15　丹波コレクション　亜墨利加蒸気船　長四十間　巾六間　一川芳員　文久元年（1861）
16　スキー板　昭和初期以降　ドームをつなぐ
17　横浜正金銀行開業免状　明治13年（1880）2月23日
18　横浜正金銀行本支店アルバム　「竣工時の横浜正金銀行本店」　明治41年（1908）頃
19　横浜正金銀行建築要覧　明治37年（1904）
20　妻木頼黄 坐像　石膏製　大正5年（1916）頃
21　横浜大震災実況　横浜正金銀行惨状　大正12年（1923）頃
22　横浜正金銀行本店震災復旧写真　昭和戦前期
23　内外貨幣紙幣コレクション
24　神奈川県立博物館開館記念アルバム　昭和42（1967）年
25　神奈川県立博物館門標　昭和41（1966）年
26　人文系博物館整備工事北立面図　平成5（1993）年3月
人をつなぐ
27　顔面把手　縄文時代中期
28　人面付土器　弥生時代中期
29　人形埴輪　古墳時代後期
30　春景山水図　祥啓筆　室町時代
31　山水図　興悦筆　室町時代
32　花鳥図　祥啓筆　室町時代
33　花鳥図　興悦筆　室町時代
34　十六羅漢図
34-1　第九　戍博迦尊者　鎌倉時代
34-2　第十一　羅怙羅尊者　鎌倉時代
34-3　第十三　因揭陀尊者　鎌倉時代
34-4　第十四　伐那婆斯尊者　鎌倉時代
35　共有膳碗　昭和時代
36　庚申講道具　文化7年（1810）～平成18年（2006）
37　丹波コレクション　雪中海岸往来人物（川口版）　勝川春好（二代）　文政年間
38　丹波コレクション　娘子供踊り狂言揃　梅川忠兵衛（森治版）　菊川英山　文政年間
39　丹波コレクション　木曾海道六拾九次之内　弐拾九和田（錦樹堂版）　歌川広重（初代）　天保年間中期
40　丹波コレクション　雪降りの椿に雀（佐野喜版）　歌川広重（初代）　天保3～5年（1832～34）
41　丹波コレクション　今様辯天盡し　本所一ツ目（岩戸屋版）　歌川広重（初代）　文政4～5年（1821～1822）
42　丹波コレクション　見立座敷狂言（岩戸屋版）　歌川広重（初代）　文政4～5年（1821～1822）
43　丹波コレクション　東都名所（川口正蔵版）　歌川広重（初代）
43-1　両国之宵月　天保2年（1831）頃
43-2　御殿山之夕桜　天保2年（1831）頃
43-3　忍ケ岡蓮池之図　天保2年（1831）頃
43-4　新吉原朝櫻之図　天保2年（1831）頃
43-5　新吉原朝櫻之図　後摺　天保2年（1831）頃
44　丹波コレクション　猿橋　杉田の梅林（ほか）（佐野喜版）　歌川広重（初代）　天保11～13年（1840～42）
45　丹波コレクション　雲上の大輪の月に雁三羽（川口版）　歌川広重（初代）　天保3年（1832）
46　丹波コレクション　波の寄せる岩頭に立つ丹頂鶴（若林堂版）　歌川広重（初代）　天保3～5年（1832～34）
47　丹波コレクション　忠臣蔵　大序　歌川広重（初代）　天保年間中期
丹波コレクション　忠臣蔵　大序（メモ）
48　丹波コレクション　東京府中橋通街・京橋之図　芳年筆　景様年景画　明治元年（1868）
48-1　丹波コレクション　東京府中橋通街之図　芳年筆　景様年景画　其一
丹波コレクション　東京府中橋通街之図　芳年筆　景様年景画（メモ）
48-2　丹波コレクション　東京府京橋之図　芳年写筆　景様門人年景画　其二
丹波コレクション　東京府京橋之図　芳年写筆　景様門人年景画　其二（メモ）

48-3　丹波コレクション　東京府京橋之図　芳年写筆　景様門人年景画　其三
丹波コレクション　東京府京橋之図　芳年写筆　景様門 人年景画　其三（メモ）
49　横浜渡来異商住家之図　五雲亭貞秀　　文久元年（1861）9月
丹波コレクション　亜墨利加國　文久元年（1861）9月
丹波コレクション　孛漏生国男女之圖　文久元年（1861）9月
丹波コレクション　天竺暹羅國　文久元年（1861）9月
南亜墨利加國　文久元年（1861）9月
丹波コレクション　波爾杜瓦國　文久元年（1861）9月
空間をつなぐ
50　卜骨　弥生時代後期
51　卜甲　古墳時代後期
52　磁器片（貫達人氏採集）　南宋～元時代（13～14世紀）
53　鎌倉彫牡丹文大香合　木製　漆塗　室町時代
54　東海道分間絵図　遠近道印作　菱川師宣画　元禄16年（1703）
55　ジャパン・パンチ　慶応元年（1865）
56　阿部家資料　阿蘭陀別段風説書　司天台訳　江戸時代末期
57　亜米利加船渡来横浜之真図　安政2年（1855）頃
58　御開港横濱之全図　万延元年（1860）頃
59　万延元年遣米使節随行スケッチ　万延元年（1860）
60　ハーシーチョコレート　複製　平成7年（1995）
61　横浜焼カップアンドソーサーおよび収納箱　明治時代
62　田邊哲人コレクション　高浮彫孔雀ニ牡丹大花瓶　宮川香山（初代）作・眞ゟ窯　明治時代前期
63　絵瀬戸草文輪花皿　昭和時代初期
64　日英博覧会神奈川県出品協会事務報告　明治44年（1911）
65　復興記念横浜大博覧会絵葉書　昭和10年（1935）
66　日本貿易博覧会前売券ポスター　昭和23年（1948）
67　湘南電鐵沿線案内　湘南　昭和5年（1930）
68　御札　江戸時代
69　大山木地師の諸道具及び製品　昭和時代
70　相州だるま　昭和時代
71　種紙　大正3年（1914）頃
72　ウシクビ　大正～昭和時代初期
研究をつなぐ
73　貝刃　縄文時代
74　縄文式土器　深鉢　縄文時代中期
75　発掘調査記録　縄文～古墳時代
76　発掘調査機材
77　金子家文書
77-1　源頼朝袖判下文　寿永3年（1183）6月3日
77-2　関東御教書　建長2年（1250）7月25日
77-3　鶴岡八幡宮相撲奉行和与状　嘉暦元年（1326）8月20日
77-4　関東下知状　嘉暦元年（1326）10月12日
77-5　鶴岡八幡宮寺相撲職補任状　文明12年（1480）2月13日
78　四季耕作図屏風　前島宗祐筆　紙本墨画淡彩　室町時代
79　北野天神縁起絵巻　巻4　紙本著色　室町時代
80　富士山焼見分絵図および御徒目付衆見分書上写　宝永5年（1708）以降
81　五姓田義松スケッチ群　明治時代
82　五姓田義松書簡群　明治時代
83　神奈川県庁本庁舎実施設計図面　大正15年（1926）
84　川島忠之助関係資料　明治時代
85　中井芳楠関係資料　明治～昭和時代
86　千歯
チカラをつなぐ
87　印画紙乾燥機　FC『エアードライヤーJRC-55』　昭和～平成時代
88　引伸機　FUJI『A450』　昭和～平成時代
未来をつなぐ
89　伝源頼朝像　複製（原品：京都・神護寺）　昭和41年（1966）
90　達磨大師坐像　複製（原品：神奈川・寿福寺）　樹脂製　昭和52年（1977）
91　北条時頼坐像　複製（原品：神奈川・建長寺）　石膏製　昭和40年（1965）
92　薬師如来坐像　尊栄作　保木薬師堂所蔵　承久3年（1221）
93　鶴岡八幡宮古神宝類　復元模造（原品：神奈川・鶴岡八幡宮）　北村昭斎作
93-1　沃懸地杏葉螺鈿平胡録　平成3年（1991）
93-2　沃懸地杏葉螺鈿太刀　平成3年（1991）
94　丹波コレクション　青楼名君自筆集　北尾政演
94-1　てうしや　ひなつる　てう山　天明4年（1784）序
94-2　瀬川　松人　天明4年（1784）序
94-3　よつめや　歌川　なな里　天明4年（1784）序
94-4　あふぎや　滝川　花扇　天明4年（1784）序
95　旧横浜正金銀行調査部図書　明治～昭和時代
96　相模人形のカシラ　三番叟　江戸時代末期頃
97　尖頭形角器　弥生時代
98　未整理資料の入った木箱　昭和時代
99　赤羽刀　脇差　銘　相州住隆廣　1711号　室町時代
100　赤羽刀　刀　無銘　3700号　南北朝時代
101　松平造酒助江戸在勤日記　元治元年（1864）～慶応元年（1865）
102　東京オリンピック競技役員制服
102-1　ブレザー　昭和39年（1964）
102-2　ネクタイ　昭和39年（1964）
102-3　帽子　昭和39年（1964）
103　東京オリンピック郵趣サービス
103-1　寄付金つき郵便切手第1回発行　初日カバー　昭和36年（1961）10月11日付

103-2　寄付金つき郵便切手第６回発行　初日カバー　昭和39年（1964）６月23日付
103-3　国内聖火リレー記念印初日カバー［鹿児島］　昭和39年（1964）９月９日付
103-4　国内聖火リレー記念印初日カバー［東京］　昭和39年（1964）10月10日付
104　東京オリンピック聖火リレー参加記念章　昭和39年（1964）
105　かながわ・ゆめ国体／ゆめ大会関係資料
105-1　かなべえ（炬火受皿マスコット）　平成10年（1998）
105-2　炬火リレートーチ・ランプ　平成10年（1998）
105-3　かなべえ（据置型マスコット）　平成10年（1998）
105-4　のぼり　平成10年（1998）
106　横浜東宝会館関係資料
106-1　館内表示　昭和～平成時代
106-2　看板（かあちゃん）
106-3　映画「ゴジラVSキングギドラ」公開記念プレゼント　平成３年（1991）
107　如来坐像　室町時代

イ　「明治150年記念　真明解・明治美術／増殖する新（ニュー）メディア―神奈川県立博物館50年の精華―」展

会　　期：平成30年８月４日(土)～9月30日(日)
主　　催：神奈川県立歴史博物館
助　　成：公益財団法人　花王芸術・科学財団
協　　力：株式会社セリク、東海大学課程資格教育センター＋教養学部芸術学科＋松前記念館
後　　援：明治美術学会、神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、共同通信社横浜支局、時事通信社横浜総局、NHK横浜放送局、ｔｖｋ(テレビ神奈川)、ラジオ日本、FMヨコハマ
展示資料件数：210件
入 場 者 数：10,645名（有料5,594名、無料5,051名）
担　　当：主任学芸員 角田 拓朗
概　　要：明治150年を記念した特別展であるが、同時に、当館近代美術コレクション50年の歩み、さらには近代日本美術の研究の蓄積の半世紀を振り返る試みであった。明治美術は、明治100年を契機に研究が本格化し、1990年代以後、加速度的に深化してきたといえる。当館もまたその一角を担ってきたのは、近代日本の西洋への窓口として機能したのが横浜であり、その地に立地する博物館だったからという理由がある。本展では、この半世紀に収集してきた作品―ことにこの十年ほどで近代美術の本流に名を記すこととなった五姓田義松を代表とする五姓田派や、輸出工芸を支えた眞葛焼―を中心に、あわせてさほど紹介されてこなかった近代美術コレクションもあわせて、序と結そして３つの章構成で展示を行った。

近代美術研究の新たな視点としてこのたび加えることを試みたのは、第三章とした印刷というテーマである。近世に大々的に開花した浮世絵・錦絵を代表とする木版から、明治になると銅版や石版、そして今日も主流な金属平版、さらには写真もここに加え、多種多様な印刷物を集めた。その展示の主柱となったのは橘忠助氏旧蔵美術資料群であり、ここには明治期を中心とする木版画以外の多彩な版表現が含まれている。さらに既存の当館石版画コレクションを加えると、当館は近代印刷の一大コレクションを有しているといえ、その点をアピールした。以上をひとつおおきな手掛かりとして、時代の思想を伝える媒介物としての美術、すなわちメディアとしての機能を全面的に訴えることを目的として、上記の特別展名称を附した次第である。

なお、本展は博物館美術館業界内部からは多大な評価を頂戴し、会期中には『朝日新聞』ほか各新聞全国版美術欄に展覧会評が掲載され、そのほか『芸術新潮』11月号やウェブでも展覧会評が掲載されてもいる。

関 連 行 事：８月４日(土) 学芸員による展示解説
８月10日(金) 大人向け　夜の鑑賞会（２回実施）
８月11日(土・祝)夏休み子ども向けイベント 「明治タイムトラベル！」

8 月 12 日(日) 夏休み子ども向けイベント 「明治タイムトラベル！」
学芸員による展示解説
8 月 18 日(土) 特別展入門講座「明治美術の魅力」
8 月 19 日(日) 県博セミナー「明治美術とその周辺」第 1 回
8 月 25 日(土) シンポジウム「ワークショップを考える－博物館を感じるということ－」
夏休み子ども向けイベント 「明治タイムトラベル！」
学芸員による展示解説
8 月 26 日(日) 県博セミナー「明治美術とその周辺」第 2 回
夏休み子ども向けイベント 「明治タイムトラベル！」
8 月 31 日(金) 大人向け 夜の鑑賞会（2回実施）
9 月 2 日(日) 学芸員による展示解説
9 月 8 日(土) 学芸員による展示解説
9 月 9 日(日) 県博セミナー「明治美術とその周辺」 第 3 回
学芸員による展示解説
9 月 16 日(日) 県博セミナー「明治美術とその周辺」第 4 回
9 月 17 日(月・祝、無料開館日) 学芸員による展示解説全 5 回実施
9 月 23 日(日) 学芸員による展示解説
9 月 24 日(月・振休) 特別演舞「明治を踊る、明治を語る」
9 月 28 日(金) 大人向け 夜の鑑賞会（2回実施）
9 月 29 日(土) 学芸員による展示解説

出 品 目 録：(凡例) №、作者等、作品／資料名、年代、所蔵。所蔵表記のない作品は、当館所蔵。
「橘」と表記されている作品等は、当館が所蔵する橘忠助氏旧蔵美術資料群を指示し、「観山」と表記されている作品等は当館が所蔵する下村観山旧蔵資料群を指示する。またクリスチャン・ポラックコレクションは、CP と略記する。
なお、員数は、複数点ある場合にのみ、記載することとする。また、参考出品については割愛した。

序-1 横山松三郎 旧江戸城写真 明治 4 年（1871） 52 点橘
序-2 五姓田義松 老母図 明治 8 年（1875）
序-3 初代宮川香山 高浮彫牡丹に眠猫覚醒蓋付水指 明治前期 田邊哲人コレクション
序-4 鏑木清方 朝夕安居 昭和 23 年（1948）鎌倉市鏑木清方記念美術館
序-5 大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖 文久年間―明治 20 年代 7 冊 神奈川県立歴史博物館寄託
1-1 内田九一 明治天皇・昭憲皇太后肖像写真 明治 6 年（1873）
1-2 明治天皇・昭憲皇太后肖像写真 明治前期 CP
1-3 日下部金兵衛 横浜写真アルバム 明治前期
1-4 ヴィエイヤール肖像写真 明治 6 年頃（ca. 1873）CP
1-5 ヴィエイヤール旧蔵アルバム 明治 6-9 年（1873-76）CP
1-6 バビエル村写真アルバム 明治中期 CP
1-7 西田武雄編 近代日本美術家写真アルバム 撮影年：明治～昭和戦前期 橘
1-8 チャールズ・ワーグマン画、フェリーチェ・ベアト撮影 ワーグマンスケッチ写真帖 明治初頭
1-9 川上冬崖 花卉図 明治 3 年（1870） 神奈川県立近代美術館 青木文庫
1-10 中丸精十郎 虎図 明治 3 年（1870） 当館寄託
1-11 中丸精十郎 霊山図 明治 4 年（1871） 当館寄託
1-12 奥原晴湖 山水図 明治 6 年（1873） 坂東市立資料館
1-13 河鍋暁斎 鬼の念仏 明治 10 年代 坂東市立資料館
1-14 菊池容斎派 龍宮図 明治初頭 遠山記念館
1-15 柴田是真春麦・秋月 明治期 遠山記念館
1-16 チャールズ・ワーグマン 街道 明治 5 年（1872）
1-17 チャールズ・ワーグマン 宿場 明治 5 年頃（ca. 1872）
1-18 川端玉章 函嶺景巻 明治 6 年（1873） 個人
1-19 高橋由一 江の島図 明治 9-10 年（1876-77） 神奈川県立近代美術館
1-20 久保田米僊 屋上月 明治 8 年（1875）個人
1-21 田村宗立 東山暮雪図 明治前期
1-22 本多錦吉郎 中禅寺湖夜景 神奈川県立近代美術館
1-23 本多錦吉郎 相州鎌倉由井濱 明治 29 年（1896）神奈川県立近代美術館
1-24 本多錦吉郎 鎌倉小坪村海岸 明治 29 年（1896）神奈川県立金沢文庫
1-25 本多錦吉郎 鍾馗図 大正２年（1913） 神奈川県立歴史博物館寄託
1-26 横山松三郎 風景 明治 15 年頃（ca. 1882）
1-27 池田亀太郎 川鱒図 明治中期
1-28 逸名画家能面図 明治時代 キャンバス・油彩
1-29 百武兼行裸婦 明治 14 年頃（ca. 1881）
1-30 彭城貞徳 海景図 明治 33 年（1900）個人
1-31 ジョルジュ・ビゴー 人力車 明治中期 CP
1-32 ジョルジュ・ビゴー 富士山 明治中期 CP

1-33　ジョルジュ・ビゴー　門　明治18年（1885）
1-34　初代五姓田芳柳　西洋老婦人像　慶應年間―明治初頭
1-35　初代五姓田芳柳　果実之図　明治初頭　　当館寄託
1-36　初代五姓田芳柳　静岡製茶図　明治10年代10図 当館寄託
1-37　初代五姓田芳柳　恵比寿・大黒　明治22年（1889）坂東市立資料館
1-38　初代五姓田芳柳　馬図 明治9年（1876）
1-39　初代五姓田芳柳　明治天皇像　明治15年（1882）杜若文庫　神奈川県立近代美術館寄託
1-40　初代五姓田芳柳　明治天皇・昭憲皇太后肖像　明治10年代
1-41　初代五姓田芳柳二世五姓田芳柳　金閣寺 明治15年（1882）　個人
1-42　二世五姓田芳柳　国府台風景図屏風 明治15年（1882）六曲一双右隻のみ展示
1-43　五姓田義松 斎藤俊吉旧蔵作品群63点 当館寄託
1-44　五姓田義松 御室仁和寺　明治10年代
1-45　五姓田義松 清瀧 明治10年代 個人
1-46　五姓田義松 海岸風景　明治14年（1881）伊山文庫
1-47　五姓田義松 水辺 明治10年代個人
1-48　五姓田義松 藤島了穏肖像　明治19年（1886）　個人
1-49　五姓田義松 藤島幸肖像　明治19年（1886）　個人
1-50　五姓田義松 藤島了穏肖像　明治19年（1886）　個人
1-51　五姓田義松 藤島幸肖像　明治19年（1886）個人
1-52　渡辺幽香山崎勢威子像　明治10年（1877）当館寄託
1-53　初代五姓田芳柳　老母像 明治13年（1880）
1-54　初代五姓田芳柳　老母像 明治13年頃（ca.1880）
1-55　初代五姓田芳柳　渡部角藏像　明治15年（1882）
1-56　初代五姓田芳柳　三遊亭円朝像　明治10年代坂東市立資料館
1-57　渡辺幽香賀来夫妻像 明治10年代2点
1-58　二世五姓田芳柳 夫妻像 明治30年代2点　当館寄託
1-59　矢内秀嶺鶴沢作次郎肖像　明治20年代
1-60　徳永柳洲義高院殿肖像　明治30年代　個人
1-61　世五姓田芳柳 花房子爵古希祝賀画集　明治44年（1911）坂東市立資料館
1-62　五姓田派鉛筆デッサン群明治10年代後半～20年代　橘
1-63　諫山麗吉幼児 明治36年（1903）個人
1-64　逸名画家少年　明治後期
1-65　松本民治観音図　明治29年（1896）　個人
1-66　二世五姓田芳柳　阿羅漢図　明治後期当館寄託
1-67　山本芳翠富士山　明治30年代
1-68　和田英作神奈川　明治26年（1893）　個人
1-69　和田英作下村観山肖像　明治30年（1897）観山
1-70　下村観山画稿貼込帖　明治20年代前半　観山
1-71　下村観山草花写生図巻　明治39年頃（ca.1906）観山
1-72　水野年方河原 明治20年代　遠山記念館
1-73　平福百穂全国島岬四十五景 明治20年代　当館寄託
1-74　平福百穂草画帖 明治30年（1897）　当館寄託
1-75　平福百穂白梅に雀 明治30年代　当館寄託
1-76　野口小蘋松竹梅鶴図　明治30年　遠山記念館
1-77　橋本雅邦双竜図屏風　明治30年代前半
1-78　松本楓湖前九年之役図　明治30年代　坂東市立資料館
1-79　松本楓湖仁徳天皇望人煙之図　明治30年代　坂東市立資料館
1-80　下村観山西行 明治30年代後半
1-81　下村観山雨中の菖蒲図　明治40年頃（ca.1907）
1-82　鏑木清方嫁ぐ人 明治40年（1907）鎌倉市鏑木清方記念美術館
1-83　ジョン・バーレイ　京都・清水の初雪 明治24年頃（ca.1891）　個人
1-84　二世五姓田芳柳　小笠原カナカ人明治38年坂東市立資料館
1-85　二世五姓田芳柳　スケッチブック明治―大正　3冊 個人
1-86　二世五姓田芳柳　明治天皇紀附図稿本　昭和6―9年（1931-34）　4巻 茨城県・慈徳山萬蔵院
2-1　初代安本亀八　松本順生人形　明治15-16年（1882-83）　大磯町郷土資料館
2-2　引札「忠臣義士討入」明治32年頃（ca.1899）相模原市立博物館
2-3　浅草公園日本パノラマ館　日露戦争南山大激戦　明治37年（1904）　橘
2-4　浅井忠　『征従画稿』　明治28年（1895）　　橘
2-5　初代宮川香山 高浮彫桜に群鳩花瓶 明治前期　一対　田邊哲人コレクション
2-6　初代宮川香山 高浮彫四窓遊蛙獅子蓋付壺　明治前期　一対 田邊哲人コレクション
2-7　初代宮川香山 高浮彫風神雷神花瓶 明治前期　　一対　田邊哲人コレクション
2-8　初代宮川香山 鬼に白竜鷲香炉 明治前期 田邊哲人コレクション
2-9　初代宮川香山 百鬼夜行図花瓶明治中期
2-10　初代宮川香山 黄釉青竹に群雀文香炉
2-11　後藤斎宮観音菩薩半跏（遊戯坐）像　明治時代　個人
2-12　後藤斎宮古鏡文硯箱　明治時代　　個人
2-13　後藤斎宮蓮華文碁笥　明治23年（1890）　　個人
2-14　一百年間保証券　明治23年（1890）　個人
2-15　後藤運久閻魔王坐像　明治23年（1890）　個人
2-16　第三回内国勧業博覧会褒状 明治23年（1890）　個人
2-17　後藤運久西遊所録　　明治25年（1892）　3冊 個人
2-18　後藤運久龍神立像　　明治37年（1904）　個人
2-19　後藤久慶仁王像工程見本明治時代　3点　個人
2-20　後藤久慶牡丹文小箱　明治時代　　個人
2-21　海野勝珉シガレット・ケース　明治37年（1904）
2-22　久保田米僊　『閣龍世界博覧会美術品画譜』　明治26年（1893）　橘
2-23　写真アルバム（写真焼付漆製表紙）　明治後期　　3点CP

2-24　水野写真館　漆製写真立　明治24年（1891）　2点　CP
2-25　押絵「和装西洋人」　明治期　CP
2-26　アベル・ゲリノー　『Ornements Japonais』　1889年（明治22）　CP
3-1　三代歌川広重　下絵画稿集　慶應年間― 明治20年代　3冊
3-2　三代歌川広重　下絵画稿集　慶應年間―明治20年代　3冊　個人
3-3　川上冬崖ほか　東京詞　明治2年（1869）
3-4　チャールズ・ワーグマン『ジャパン・パンチ』　明治7年（1874）
3-5　明治初年銅板張交　明治前期　橘
3-6　『輿地誌略』　明治10年ほか　12冊
3-7　安井乙熊『画入東京名所案内』　明治14年
3-8　小林清親『日本名所十二景』　明治14年（1881）　杜若文庫
3-9　青木恒三郎『内国旅行日本名所図絵』　明治21―23年(1880-90)　8冊　橘
3-10　山本芳翠（原画）、合田清（刻）　磐梯山噴火真図　『東京朝日新聞』明治21年8月1日附録　個人
3-11　亀井竹二郎（原画）、徳永柳洲（画工）　東海道懐古帖　明治25年（1892）
3-12　大蔵省印刷局『大日本貨幣製図』　明治11年（1878）杜若文庫
3-13　大蔵省印刷局『国華余芳』　正倉院御物・古書之部　明治13年（1880）・14年（1881）　杜若文庫
3-14　大蔵省印刷局『朝陽閣鑑賞』（錦繍之部）明治16年（1883）　杜若文庫
3-15　玄々堂松田敦朝　熊本近傍里程細図　附九州全図長崎港図　明治10年（1877）　橘
3-16　岩橋教章ウィーン渡航並同地滞在手帳　明治6―7年（1874-75）　橘
3-17　岩橋教章『測絵図譜』　明治11年（1878）　橘
3-18　岩橋教章『測絵図譜』　明治14年（1881）　杜若文庫
3-19　博物局、地理局量地課、文会舎彫刻科 東京上野公園地実測図　明治10年（1877）　杜若文庫
3-20　地理局地誌課、中川耕山 相模武蔵二州図明治12年（1879）　橘
3-21　地理局地誌課、中川耕山 伊豆七島並小笠原群島之図　明治12年（1879）　杜若文庫
3-22　埼玉県蔵版、文会舎彫刻科 埼玉県管内全図明治13年（1880）杜若文庫
3-23　地理局地誌課、文会舎彫刻科 伊賀伊勢志摩尾張四州図明治13年（1880）杜若文庫
3-24　内務省地理局測量課、文会舎 横浜実測全図　明治14年（1881）個人
3-25　内務省地理局測量課、結城正明　大日本府県分割地図　明治14年（1881）杜若文庫
3-26　内務省地理局、岩橋章山 東京実測全図　明治20年（1887）　橘
3-27　結城正明HIPOCRATES　明治10年（1877）　神奈川県立近代美術館　青木文庫
3-28　エドアルド・キヨッソーネ、大蔵省印刷局 大久保利通肖像　明治12年（1879）杜若文庫
3-29　石嶋八重三人上戸之図　明治22年
3-30　太田節次角力遊 明治25年　横田洋一氏寄贈
3-31　矢島智三郎　会場式　明治23年　丹波コレクション
3-32　深瀬亀次郎　東京名妓明治22年　横田洋一氏寄贈
3-33　有山定次郎　美人競　上野不忍　明治25年
3-34　青野桑州飯沼慾斎肖像　『新訂草木図説　草部』口絵　杜若文庫
3-35　亀井至一高貴肖像　明治15年　杜若文庫
3-36　富田貞作皇国貴顕御肖像明治21年　横田洋一氏寄贈
3-37　藪崎芳次郎 皇国貴顕肖像　明治22年
3-38　山本芳翠（原画）、合田清（刻）　貴顕之肖像　『東京朝日新聞』明治21年7月10日　創刊号附録　杜若文庫
3-39　山本芳翠（原画）、合田清（刻）　高貴之肖像　『東京朝日新聞』明治21年9月1日附録杜若文庫
3-40　山本芳翠（原画）、合田清（刻）　嘉仁親王殿下御肖像『東京朝日新聞』明治21年11月3日附録　杜若文庫
3-41　エドアルド・キヨッソーネ、大蔵省印刷局 御軍装　明治26年　杜若文庫　町田市立国際版画美術館寄託
3-42　不詳　明治天皇像　明治37年頃横田洋一氏寄贈
3-43　黒木半之助 皇室御尊影　明治39年
3-44　生巧館　衆議院の図　『国会』明治23年12月5日附録　杜若文庫
3-45　天沼米三聖上陛下崩御
3-46　ジョルジュ・ビゴー　羽子板　明治中期　CP
3-47　ジョルジュ・ビゴー　郵便配達　銅版画集『OHAYO』　CP
3-48　ジョルジュ・ビゴー　『TOBAE』6号　CP
3-49　渡辺幽香大日本帝国古今風俗　寸陰漫稿 明治19年（1886）
3-50　渡辺幽香大日本風俗漫画明治20年（1887）個人
3-51　浅井忠・柳源吉 A Pictorial Museum of Japanese Manners & Customs 明治20年（1887）個人
3-52　ジョルジュ・ビゴー（挿絵）　『想夫恋』　明治19年（1886）1冊
3-53　尾形月耕・山本松谷（挿絵）　『The Japanese Monthes with illustrations』　明治31年（1898）橘
3-54　菅谷與吉『撰名本朝二十四功』　明治17年（1884）橘
3-55　牧金之助『絵本甲越軍記』明治20年（1887）　橘
3-56　尾関トヨ『桃太郎鬼ヶ島記』　明治23年（1890）　橘
3-57　仏文御伽草子絵本　明治22年頃（ca.1889）　CP
3-58　方寸画暦』明治42年（1909）　橘
3-59　中沢弘光（挿絵）　『不如帰画譜』明治44年（1911）橘
3-60　新小説』11年第5巻　明治39年（1906）　橘
3-61　仏商店販促用パンフレット 1910年　CP
3-62　木製印刷封筒　明治後期　6点　CP

3-63　絵葉書 明治後期　40点　宮崎惠之助コレクション（神奈川県立金沢文庫寄託）
結-1　下村観山　写生帳（日本美術史ノート）明治22年（1889）観山
結-2　牧野一平編　『日本之美術』明治21年（1888）　橘
結-3　『国華』　合冊・133号　明治22年（1889）ほか　個人
結-4　『稿本日本帝国美術略史』　明治34年
結-5　『臥遊席珍』1-5号　明治13年（1880）　橘
結-6　『美術新報』1巻1号　明治36年（1903）　橘
結-7　明治美術会　『明治二十八年秋季展覧会出品目録』　明治28年（1895）橘
結-8　高橋源吉　『高橋由一履歴』明治25年（1892）神奈川県立近代美術館　青木文庫
結-9　亀井至一・下国羆之助　『横山先生之伝』明治17年（1894）　橘
結-10　本多錦吉郎『追弔記念　洋風美術家小伝』　明治41年（1908）　橘
結-11　川上冬崖　『西画指南』　明治4年・8年（1871・1875）橘
結-12　宮本三平・狩野友信・山岡成章『図法階梯』　明治5年（1872）橘
結-13　高橋由一　『西洋画譜』　明治7年（1874）橘
結-14　松井昇　『小学西画初歩』明治13年（1880）　岡山大学
結-15　宮本三平　『小学普通画学本』　明治11・12年（1878・79）　橘
結-16　浅井忠・柳源吉『習画帖』　明治15年（1882）　橘
結-17　文部省編　『小学習画帖』明治18年（1885）岡山大学
結-18　岡村政子　『普通小学画学階梯』　明治19年（1886）　橘
結-19　本多錦吉郎『小学画手本』　明治20年（1887）　橘
結-20　植田竹次郎『臨画帖』　明治22年（1889）　岡山大学
結-21　本多錦吉郎『画学類纂』　明治23年（1890）　橘
結-22　森川曽文　『小学日本画初歩』　明治26年（1893）岡山大学
結-23　荒木寛畝　『毛筆絵手本』明治30年（1897）　岡山大学
結-24　橋本雅邦　『小学毛筆画』明治32年（1899）　岡山大学
結-25　小山正太郎『中等臨画』　明治33年（1900）　橘
結-26　故浅井忠編、都鳥英喜・渡邊審也編　『訂正浅井自在画臨本』　明治42年（1909）　橘
結-27　和田英作・板倉賛治『新体中等図画教本』明治43年（1910）　橘
結-28　新井藤次郎編『萬工画式』　明治14年（1881）　橘
結-29　新刻万物画譜』明治24年（1891）　橘
結-30　三宅克己　『水彩画手引』明治38年（1905）　橘

ウ　「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼

人間文化研究機構　博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業「列島の祈り」」

会　　期：平成30年10月27日(土)～12月9日(日)
主　　催：神奈川県立歴史博物館、文化庁
共　　催：国文学研究資料館、国立歴史民俗博物館、国際日本文化研究センター、國學院大學博物館、神奈川県立金沢文庫、名古屋大学大学院人文学研究科附属人類文化遺産テクスト学研究センター
協　　力：日本女子大学、鎌倉国宝館
後　　援：神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞横浜支局、読売新聞横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、共同通信社横浜支局、時事通信社横浜総局、NHK横浜放送局、ｔｖｋ(テレビ神奈川)、ラジオ日本、FMヨコハマ
展示資料件数：119件
入 場 者 数：9,790名（有料2,549名、無料7,241名）
担　　当：学芸員　小井川 理、学芸員　新井 裕美、非常勤学芸員　三浦 麻緒、学芸員　渡邊 浩貴
［監修・共同担当］日本女子大学　教授　古川 元也 氏
概　　要：中世に政権所在地であった鎌倉には、毎年9月18日に行われる御霊神社の面掛行列や、7月中旬に行われる山ノ内地区の神輿巡行など、宗教儀礼を中心にすえた、芸能としても興味深い祭礼が伝わっている。これらの祭礼の起源や伝播を考えると中世から近世へ、また、中央から地方へ、そして身近な地域へ、時間的・地域的な広がりを有しながら信仰が継承されていく様相がうかがえる。また、鎌倉に限らず、神奈川県域には、中世の信仰儀礼に源流を持ち、地域的な特色の中で独特の信仰空間を形成し、特徴ある民俗芸能を伝える地域が存在している。展覧会では、鎌倉の外港として栄えた金沢六浦、中世以降修験のネットワークの拠点であった愛川八菅山などに伝わる信仰遺物ーモノーと宗教テクストー史料ーにも注目し、鎌倉と、そのゆかりの地域に伝わる芸能と儀礼を紹介した。

本展で展示した資料の多くは歴史資料とも、民俗資料とも、美術作品ともわかちがたいものである。儀礼で用いられる道具は、長年、繰り返される使用の中で、破損し修理され今に至るものも多く、後世に新造されたものから直接にその源流を求めることも困難である。また、信仰や儀礼のあり方を文字で伝える資料も難解で、容易に理解できないものも多い。しかし、これらは、モノと史料が社寺や地域に守られ、信仰が継承されてきたことを雄弁に物語る資料である。展覧会を通して、信仰と儀礼にかかわる多様な資料が内包する豊かな可能性を提示することに努めた。

関 連 行 事：10 月 27 日(土) 連続講座「鎌倉ゆかりの信仰と儀礼」第 1 回
10 月 28 日(日) 学芸員による展示解説
11 月 4 日(日) 学芸員による展示解説
11 月 10 日(土) 連続講座「鎌倉ゆかりの信仰と儀礼」第 2 回
11 月 11 日(日) 記念講演会①「儀礼が生み出す中世東国の宗教世界」
学芸員による展示解説
11 月 16 日(金) 現地見学会 「鎌倉山ノ内の神輿行幸地を歩く」
11 月 17 日(土) 連続講座「鎌倉ゆかりの信仰と儀礼」第 3 回
11 月 18 日(日) 学芸員による展示解説
11 月 23 日(金・祝) 記念講演会②「円覚寺弁天堂洪鐘祭絵巻」
11 月 24 日(土) 連続講座「鎌倉ゆかりの信仰と儀礼」第 4 回
11 月 25 日(日) 学芸員による展示解説
12 月 1 日(土) 連続講座「鎌倉ゆかりの信仰と儀礼」第 5 回
12 月 2 日 (日) 子ども向けイベント「展示を見てお面を作ろう」
学芸員による展示解説

出 品 目 録：(凡例) №、資料名、年代、所蔵・＜所在地＞
＊資料名の前に付した記号のうち、◎は重要文化財、○は県指定文化財、□は市町村指定文化財を示し、本展に出品されている実物資料に表示した。末尾に「＊」があるものは写真パネル展示の資料である。

1 □鶴岡八幡宮境内図 享保十七年 (1732) 神奈川・鶴岡八 幡宮
2 伝源頼朝像 (神護寺所蔵本複製) 現代 神奈川県立歴史博物館
3 源頼朝袖判下文 ［金子家文書］ 寿永三年 (1184) 神奈川県立歴史博物館
4 関東御教書 ［金子家文書］ 建長二年 (1250) 神奈川県立歴史博物館
5 鶴岡八幡宮相撲奉行和与状 ［金子家文書］ 嘉暦元年 (1326) 神奈川県立歴史博物館
6 関東下知状 ［金子家文書］ 嘉暦元年 (1326) 神奈川県立歴史博物館
7 鶴岡八幡宮相撲職補任状 ［金子家文書］ 文明十二年 (1480) 神奈川県立歴史博物館
8 神武寺石造弥勒菩薩坐像銘文拓本 現代 神奈川県立歴史博物館
9-1 ◎舞楽面 散手 鎌倉時代 神奈川・鶴岡八幡宮
9-2 ◎舞楽面 貴徳鯉口 鎌倉時代 神奈川・鶴岡八幡宮
9-3 ◎舞楽面 貴徳番子 鎌倉時代 神奈川・鶴岡八幡宮
9-4 ◎舞楽面 二ノ舞 咲面 鎌倉時代 神奈川・鶴岡八幡宮
9-5 舞楽面 退走徳 南北朝時代 神奈川・鶴岡八幡宮
10 集古十種 楽器之部 五 江戸時代 東京国立博物館
11 鶴岡八幡宮御祭礼行列之図 江戸時代 東京国立博物館
12-1 舞楽面 還城楽 室町時代 神奈川・極楽寺
12-2 舞楽面 抜頭 室町時代 神奈川・極楽寺
13 極楽寺十三重塔供養日記 ［極楽寺文書］ 正和四年 (1315) 神奈川・極楽寺
14 天神縁起絵巻 (全六巻のうち第六巻) 室町時代 神奈川県立歴史博物館
15 稲荷神社祭礼絵巻 江戸時代 千葉・国立歴史民俗博物館
16 是害坊絵巻 室町時代 東京・慶應義塾図書館
17 □猿田彦面 宝暦三年 (1753) 神奈川・御霊神社
18 □獅子頭 明和五年 (1768) 神奈川・御霊神社
19-1 □行道面 爺 明和五年 (1768) 神奈川・御霊神社
19-2 □行道面 鬼 明和五年 (1768) 神奈川・御霊神社
19-3 □行道面 異形 明和五年 (1768) 神奈川・御霊神社
19-4 □行道面 鼻長 明和五年 (1768) 神奈川・御霊神社
19-5 □行道面 烏天狗 明和五年 (1768) 神奈川・御霊神社
19-6 □行道面 翁 明和五年 (1768) 神奈川・御霊神社
19-7 □行道面 火吹男 明和五年 (1768) 神奈川・御霊神社
19-8 □行道面 福禄 明和五年 (1768) 神奈川・御霊神社

19-9 □行道面　阿亀（おかめ）　明和五年（1768）　神奈川・御霊神社

19-10 □行道面　女（おんな・とりあげ）　明和五年（1768）　神奈川・御霊神社

20-1 □面掛行列衣装（猿田彦・男性面掛衆・阿亀・女）　明治～現代　神奈川・御霊神社

20-2 □阿亀（おかめ）の衣装（黒留袖）　現代　神奈川・御霊神社

20-3 □阿亀（おかめ）の腹部に入れるざると布団・着付具　現代　神奈川・御霊神社

20-4 □女（おんな・とりあげ）の天冠と髭・収納箱　明治四十年（1907）　神奈川・御霊神社

21 安田三郎氏撮影　御霊神社の面掛行列　昭和三十七年（1962）　神奈川・鎌倉市中央図書館　＊

22 □ 獅子頭　江戸時代　神奈川・八雲神社

23-1 山車装飾　玄武　江戸時代　神奈川・八雲神社

23-2 山車装飾　朱雀　江戸時代　神奈川・八雲神社

23-3 山車装飾　白虎　江戸時代　神奈川・八雲神社

23-4 山車装飾　青龍　江戸時代　神奈川・八雲神社

24-1 □行道面　一番面（天狗）　江戸時代　神奈川・八雲神社

24-2 □行道面　二番面（爺）　天保十一年（1840）　神奈川・八雲神社

24-3 □行道面　三番面（烏天狗）　天保十一年（1840）　神奈川・八雲神社

24-4 □行道面　四番面（猿）　天保十一年（1840）　神奈川・八雲神社

24-5 □行道面　五番面（布袋）　天保十一年（1840）　神奈川・八雲神社

24-6 □行道面　六番面（おかめ）　天保十一年（1840）　神奈川・八雲神社

24-7 □ 行道面　七番面（女：とりすけ）と天冠　天保十一年（1840）　神奈川・八雲神社

25 八雲神社の面と衣装着装の様子　昭和三十年代　神奈川・鎌倉市教育委員会　＊

26 □板絵　円覚寺弁天堂洪鐘祭行列図　天保十二年（1841）　神奈川・円覚寺

27 □洪鐘祭行列絵巻　明治三十五年（1902）　神奈川・円覚寺

28 円覚寺弁財天洪鐘祭附祭絵巻　昭和三十三年（1958）　神奈川・江島神社

29 唐人衣装　明治三十四年（1901）　神奈川・江島神社

30 チャルメラ　現代　神奈川・江の島囃子連合会

31 ⦿神仏古説話等残巻　鎌倉時代　神奈川県立金沢文庫

32 ⦿神明納受法花事　［称名寺聖教330函87］　鎌倉時代　神奈川・称名寺（神奈川県立金沢文庫管理）

33 ⦿覚禅抄　馬頭観音法　［称名寺聖教488函1-5］　元亨元年（1321）　神奈川・称名寺（神奈川県立金沢文庫管理）

34 ⦿足利持氏書状　［金沢文庫文書298/5666］　鎌倉時 代　神奈川・称名寺（神奈川県立金沢文庫管理）

35 ⦿受者交名　［金沢文庫文書5875/3060+16/385］　正和五年（1316）　神奈川・称名寺（神奈川県立金沢文庫管理）

36 ⦿三島明神修正会表白　［称名寺聖教399函1］　鎌倉時代　神奈川・称名寺（神奈川県立金沢文庫管理）

37 ⦿後夜導師　［称名寺聖教277函41］　南北朝～室町時代　神奈川・称名寺（神奈川県立金沢文庫管理）

38 ⦿六種（三島明神敬白文）　［称名寺聖教278函104］　室町時代　神奈川・称名寺（神奈川県立金沢文庫管理）

39 ⦿瀬戸修正会役者交名　［金沢文庫文書2708/5894］　応永二十七年（1420）　神奈川・称名寺（神奈川県立金沢文庫管理）

40 ⦿表白并廻向　［称名寺聖教337函114］　文和二年（1353）　神奈川・称名寺（神奈川県立金沢文庫管理）

41 ⦿文和二年瀬戸橋供養日記　［称名寺聖教399函73］　文和二年（1353）　神奈川・称名寺（神奈川県立金沢文庫管理）

42 ⦿八幡略縁起　［称名寺聖教338函44］　鎌倉時代　神奈川・称名寺（神奈川県立金沢文庫管理）

43 正一位大山積神宮　神号額　延慶四年（1311）　神奈川・瀬戸神社

44 獅子頭　鎌倉時代　神奈川・瀬戸神社

45 舞楽面　鯉口　鎌倉時代か　神奈川・瀬戸神社

46 御正体鏡板　応永三十年（1423）　神奈川・瀬戸神社

47 牛玉宝印版木　室町時代　神奈川・瀬戸神社

48 吉田神道祭器図巻　江戸時代　神奈川・瀬戸神社

49 加行太々御神楽次第　［瀬戸神社社家佐野家文書27］　安永六年（1777）　神奈川・瀬戸神社

50 聞書前後不同記　［瀬戸神社社家佐野家文書39］　正徳三年（1713）　神奈川・瀬戸神社

51 奉幣之作法　［瀬戸神社社家柳田家文書25］　江戸時代　神奈川・瀬戸神社

52 武州久良岐郡瀬戸三島大明神古例社法之事　［瀬戸神社社家佐野家文書48］　延享四年（1747）　神奈川・瀬戸神社

53 佐野大和口上書　［瀬戸神社社家佐野家文書55］　延享年間　神奈川・瀬戸神社

54 神前古例式社法　［瀬戸神社社家佐野家文書68］　寛政十年（1798）　神奈川・瀬戸神社

55 行太々神楽歌　［瀬戸神社社家佐野家文書35］　江戸時代　神奈川・瀬戸神社

56 鶴岡八幡宮太々御神楽次第　［瀬戸神社社家佐野家文書34］　江戸時代　神奈川・瀬戸神社

57 湯立神楽歌　［瀬戸神社社家佐野家文書31］　文政六年（1823）　神奈川・瀬戸神社

58 神楽用注連縄雛形紙　［瀬戸神社社家佐野家文書37］　江戸時代　神奈川・瀬戸神社

59 行太々御神楽御注連控　［瀬戸神社社家佐野家文書30］　文化六年（1809）　神奈川・瀬戸神社
60 神楽面　江戸時代　神奈川・瀬戸神社
61 海南神社例祭神楽祝詞　［瀬戸神社社家佐野家文書64］　天明五年（1785）　神奈川・瀬戸神社
62 小御神楽役配　鉈切村　［瀬戸神社社家佐野家文書33］　嘉永三年（1850）　神奈川・瀬戸神社
63 舞楽面　還城楽　鎌倉時代　神奈川・髙部屋神社
64 舞楽面　陵王　室町時代　神奈川・髙部屋神社
65 能面　癋見　江戸時代　神奈川・髙部屋神社
66 ⦿長井貞秀書状　［金沢文庫文書609］徳治二年（1307）　神奈川・称名寺（神奈川県立金沢文庫管理）
67 大山不動霊験記　安永六年（1777）　神奈川県立金沢文庫
68 ⦿舞楽曼荼羅供私記〈大山〉［称名寺聖教288函84］　鎌倉時代　神奈川・称名寺（神奈川県立金沢文庫管理）
69 □菩薩面　承安四年（1174）　神奈川・阿弥陀寺
70 鬼神面　室町時代　神奈川・大山阿夫利神社
71 ◎〇獅子頭 鎌倉～南北朝時代　神奈川・宝城坊
72 〇錦幡および唐櫃　南北朝時代　神奈川・宝城坊
73 錫杖頭　室町時代　神奈川・宝城坊
74 □鎌獅子　室町時代　神奈川・清徳寺
75 聖観音菩薩立像　鎌倉～南北朝時代　神奈川・八菅神社
76 地蔵菩薩立像　南北朝時代か　神奈川・八菅神社
77 金剛杵（独鈷杵・三鈷杵・五鈷杵）　室町時代か　神奈川・八菅神社
78 常滑壺（八菅山経塚遺跡出土）　平安時代　神奈川・八菅神社
79 常滑三筋壺（八菅山経塚遺跡出土）　平安末～鎌倉時代　神奈川・八菅神社
80 和鏡（八菅山経塚遺跡出土）　平安時代　神奈川・八菅神社
81 □合子形念持仏（八菅山経塚遺跡出土）　鎌倉時代　神奈川・愛川町教育委員会
82 □八菅山光勝寺再興勧進帳　応永二十六年（1419）　神奈川・八菅神社
83 □天文十五年神分諸次第　天文十五年（1546）　神奈川・八菅神社
84 □慶長二年神分諸次第　慶長二年（1597）　神奈川・八菅神社
85 八菅山版木絵図・版木　江戸時代　神奈川・八菅神社
86 八菅山絵図　江戸時代　神奈川・八菅神社
87 役小角・前鬼・後鬼像　室町時代　神奈川・八菅神社館
88 □碑伝　正応四年（1291）　神奈川・八菅神社
89 碑伝　天文二十一年（1552）　神奈川・八菅神社
90 □八菅山大権現棟札　天文十年（1541）　神奈川・八菅神社
91 □鰐口　光勝寺旧蔵　天文十一年（1542）　神奈川・八菅神社
92 巻数　江戸時代　神奈川・八菅神社
93 光勝寺宝印・版木　江戸時代　神奈川・八菅神社
94 日向修験石造碑伝　江戸時代　神奈川・厚木市郷土資料館
95 御祭仕法伝　明治十二年（1879）　神奈川・東陽寺
96 鹿山略記　江戸時代　神奈川・瑞泉寺
97 青木幸蔵日誌　明治三十四年（1901）　神奈川・鎌倉市中央図書館
98 法衣箱入日記　明応八年（1499）　神奈川・報国寺
99 休畊庵什物帳　中世末～近世初頭か　神奈川・報国寺
100 報国寺什物失却註文　慶長～元和年間頃か　神奈川・報国寺
101 文化度神器等焼失調書　文化十三年（1816）　神奈川・鶴岡八幡宮
102 相州鎌倉鶴岡八幡社其外諸堂社神仏像并道具類新調修復出来形帳　文政年間頃か　神奈川・鶴岡八幡宮
103 鎌倉図屏風（鎌倉金沢図屏風一双のうち）　江戸時代　個人
104 鎌倉絵図　寛政九年（1797）　神奈川県立歴史博物館
105 東海道名所図会　巻六　江戸時代　神奈川県立歴史博物館
106 古写真　鶴岡八幡宮（ベアト『VIEWS IN JAPAN』）　明治時代　神奈川・横浜開港資料館　＊
107 古写真　鶴岡八幡宮大塔（『FAR EAST』）　明治時代　神奈川・横浜開港資料館　＊
108 安田三郎氏ほか撮影　湯立神楽（鎌倉神楽）　昭和時代　神奈川・鎌倉市中央図書館　＊
109 宝物審査証　明治十三年（1880）　神奈川・浄光明寺
110 浄光明寺古記録仮綴　明治三十六年（1903）　神奈川・浄光明寺
111 浄光明寺什器帳　明治三十六年（1903）　神奈川・浄光明寺
112 寺蔵日蓮筆跡等註文　慶長九年（1604）　神奈川・本覚寺
113 本覚寺新什物帳（日慰代）　宝暦九年（1759）　神奈川・本覚寺
114 本覚寺新什物帳（日従代）　天明三年（1783）　神奈川・本覚寺
115 本覚寺新什物帳（日栄代）　寛政十二年（1800）　神奈川・本覚寺
116 本覚寺新什物帳（日尋代）　文化七年（1810）　神奈川・本覚寺
117 本覚寺新什物帳　明治七年（1874）　神奈川・本覚寺
118 称名寺聖教の保管状況　現代　神奈川・称名寺（神奈川県立金沢文庫管理）　＊
119 大須観音真福寺の所蔵資料整理・保管状況　江戸時代～現代　愛知・大須観音宝

(3) その他の展示

ア　特別陳列「屏風をひらけば―神奈川県立歴史博物館所蔵の屏風絵―」

会　　期：平成31年3月2日（土）～平成31年3月31日（日）
会　　場：特別展示室
主　　催：神奈川県立歴史博物館
展示資料件数：23件
入 場 者 数：6,701人
担　　当：学芸員　橋本 遼太
概　　要：屏風という画面形式に着目して、館蔵の屏風絵を15件展示した。修繕候補にあがっている一件を除くすべての館蔵屏風絵を展示したことになる。展示の冒頭（特別展示室第一室）には鑑賞の要点を示すパネルを設置し、また会場配布の出品目録には「鑑賞の手引き」を記載するなど、幅広い鑑賞者層を想定して展示を構成した。各作品に添えた展示解説も同様の趣向で、専門用語を用いずに屏風絵に描写されている内容のみを記すようにした。
展覧会終了後には「特別陳列「屏風をひらけば―神奈川県立歴史博物館所蔵の屏風絵―」を終えての記録」（『かながわ文化財』第115号、神奈川県文化財協会、令和元年五月）を執筆し、展覧会の意図等についての雑感を記した。
関 連 行 事：3月3日(日) 学芸員による展示解説
3月10日(日) 学芸員による展示解説
3月16日(土) 特別陳列関連講座①「平家物語と館蔵屏風絵」
3月17日(日) 学芸員による展示解説
3月24日(日) 学芸員による展示解説
3月30日(土) 特別陳列関連講座②「耕作図と館蔵屏風絵」

出 品 目 録：〈凡例〉No. 指定 名称 作者 員数 品質形状 時代 所蔵 展示期間
※指定記号：○＝重要美術品、□＝県指定文化財、■＝市指定文化財
※展示期間：前期・後期で展示替えした資料

1　四季花鳥図屏風　元信印　六曲一隻　紙本墨画金泥引室町時代　神奈川県立歴史博物館
2　四季耕作図屏風　前島宗祐筆　六曲一隻　紙本墨画淡彩室町時代　神奈川県立歴史博物館
3　四季耕作図屏風　狩野探幽筆　六曲一双　紙本墨画淡彩江戸時代　神奈川県立歴史博物館
4　商山四皓・竹林七賢図屏風　曽我二直菴筆　六曲一双江戸時代　神奈川県立歴史博物館
5　南蛮屏風　紙本金地著色　六曲一双　江戸時代　神奈川県立歴史博物館
6　平家物語図押絵貼屏風　六曲一隻　紙本著色　室町時代神奈川県立歴史博物館
7　源平合戦図屏風　六曲一隻　紙本金地著色　江戸時代神奈川県立歴史博物館　※前期
8　源平合戦図屏風　六曲一双　紙本金地著色　江戸時代神奈川県立歴史博物館　※前期
9　木賊図屏風　六曲一双　紙本金地著色　江戸時代　神奈川県立歴史博物館　※前期・後期で左右隻を入れ換えて展示
10　東海道図屏風　狩野正楽永隆筆　六曲一双　紙本著色金砂子引　江戸時代　神奈川県立歴史博物館　※後期
11　東海道図屏風　六曲一双　紙本金地著色　江戸時代　神奈川県立歴史博物館　※後期
12　鶴図屏風　南嶺筆　六曲一双　紙本金地著色　江戸時代　神奈川県立歴史博物館　※前期
13　双龍図屏風　橋本雅邦筆　六曲一双　紙本金地墨画明治時代　神奈川県立歴史博物館
14　花鳥図屏風　岡本秋暉筆　六曲一隻　紙本著色江戸時代　神奈川県立歴史博物館
15　誰が袖図屏風　四曲一双　紙本金砂子地小袖貼付明治時代　神奈川県立歴史博物館
関連ⅰ　本願寺上人親鸞伝絵 断簡　一幅　絹本著色室町時代　神奈川県立歴史博物館
関連ⅱ　騎驢人物図扇面　一幅　紙本墨画　室町時代神奈川県立歴史博物館
関連ⅲ　王哀図　石樵昌安筆　一幅　紙本墨画淡彩室町時代　神奈川県立歴史博物館
関連ⅳ　奈良絵本 平家物語　24冊のうち　紙本著色江戸時代　神奈川県立歴史博物館　※前期
関連ⅴ　堀川夜討絵巻　狩野洞雲益信筆　2巻のうち紙本著色　江戸時代　神奈川県立歴史博物館※前期
関連ⅵ　東海道分間絵図　元禄16年版　遠近道印作菱川師宣画　5冊のうち　木版墨刷　江戸時代神奈川県立歴史博物館
関連ⅶ　東海道分間絵図　宝暦2年版　遠近道印作

菱川師宣画　一巻　木版墨刷　江戸時代
神奈川県立歴史博物館

関連viii 玉蘭斎写真　五十三次勝景　一冊　錦絵　江戸時代
神奈川県立歴史博物館

イ　平成30年度かながわの遺跡展「潮風と砂の考古学」

会　　期：平成31年1月19日（土）～平成31年2月17日（日）
会　　場：特別展示室
主　　催：神奈川県教育委員会、平塚市博物館、神奈川県立歴史博物館
後　　援：神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日経新聞社横浜支局、NHK横浜放送局、TVK、共同通信社横浜支局、時事通信社横浜総局、ラジオ日本、FMヨコハマ
展示資料件数：283件
入場者数：5,651人
担　　当：神奈川県教育局生涯学習部文化遺産課中村町駐在事務所 主事 久我谷 渓太
概　　要：台地・丘陵が海岸線近くまで迫るように発達し、その一方で低地は河川の流域や臨海部にほぼ限られているという神奈川県の地形の特徴は、遺跡数や調査・研究事例数にも差を与え、台地・丘陵部と比較して低地帯に展開した遺跡はこれまであまり省みられる機会に恵まれてこなかった。
しかしながら、海面の後退によって形成された海岸平野・砂丘地帯である狭義の相模平野では、真土大塚山古墳や相模国府といった学史的にも名高い重要な遺跡が所在しており、また地元の研究者や行政担当者らによる砂丘遺跡の周知化への地道な取り組みもあった。谷戸内に展開する海に面した低地の遺跡群である鎌倉では、かつて文献史学的な研究からその港湾機能を東京湾側の六浦（横浜市金沢区）に求める見方があったが、考古学的な調査研究によって鎌倉の海浜部に港湾・葬地・生産活動空間としての“浜地”の存在が見出されてきた。このように神奈川県域の砂丘地帯に展開した遺跡には、狭い範囲の中に地域の歴史を語るうえでの鍵となる情報が数多く秘められている。
このような背景を踏まえて今回の展示では砂丘上に形成された遺跡に焦点をあて、これまでの調査研究成果を解説するとともに、丘陵・台地上の遺跡に比べれば“露出度”の少ない海浜部遺跡の出土資料に活用の機会を与え、また周知化の難しい砂丘遺跡の保存に努力した人々の姿を通して文化財の保護を啓発することを目的として実施した。
関連行事：1月20日(日) 担当者による展示解説
1月20日(日) 特別講演第2回「中世鎌倉における沿岸部の性格」※第1回は平塚会場
1月26日(土) 入門講座「担当者Kといっしょに学ぶ、砂の遺跡のあれ・これ・それ」
2月9日(土)　担当者による展示解説
2月11日(月・祝) 特別講演第3回「人はなぜ砂の上に住むことを選んだのか」
2月17日(日) 担当者による展示解説

出品目録：（凡例）No.、資料名、出土遺跡名（所在地）、年代、所蔵

1　牙製婦人像　モヨロ貝塚（北海道網走市）オホーツク文化期　東京大学考古学研究室
2　象徴牙器　モヨロ貝塚（北海道網走市）オホーツク文化期 東京大学考古学研究室
3　骨角製銛頭 モヨロ貝塚（北海道網走市）　オホーツク文化期　東京大学考古学研究室
4　骨角製釣針　モヨロ貝塚（北海道網走市）　オホーツク文化期　東京大学考古学研究室
5　骨斧 モヨロ貝塚（北海道網走市）　オホーツク文化期 東京大学考古学研究室
6　棒状骨器　モヨロ貝塚（北海道網走市）　オホーツク文化期　東京大学考古学研究室
7　貝輪　広田遺跡（鹿児島県南種子町）弥生時代末～古墳時代　國學院大學博物館
8　貝符　広田遺跡（鹿児島県南種子町）弥生時代末～古墳時代　國學院大學博物館
9　製小玉・貝製管玉　広田遺跡（鹿児島県南種子町）　弥生時代末～古墳時代　國學院大學博物館
10　『四ノ宮下郷』（Ⅰ本文・Ⅱ図版）：神田・大野遺跡発掘調査団（編集・発行）　1984年　（発行）　個人

11 「砂丘遺跡の踏査（1）」：寺田兼方(編)『湘南考古学同好会々報30』収録　1987年　(発行)　神奈川県教育委員会
12 『湘南の低地遺跡―その形成と発達―』：茅ヶ崎市教育委員会社会教育課（編集・発行）　1996年　(発行)　個人
13 縄文土器（深鉢）　若尾山遺跡（藤沢市）　縄文時代前期・黒浜式　藤沢市郷土歴史課
14 縄文土器　大源太遺跡（藤沢市）　縄文時代前期　青山学院大学考古学研究室
15 縄文土器（深鉢）　川名森久遺跡（藤沢市）　縄文時代前期・関山式　藤沢市郷土歴史課
16 縄文土器（深鉢）　川名森久遺跡（藤沢市）　縄文時代前期・諸磯ｂ式　藤沢市郷土歴史課
17 縄文土器（深鉢）　川名森久遺跡（藤沢市）　縄文時代前期　藤沢市郷土歴史課
18 土器片錘　立石遺跡（藤沢市）　縄文時代前期　藤沢市郷土歴史課
19 礫石錘　立石遺跡（藤沢市）　縄文時代前期　藤沢市郷土歴史課
20 ヤマトシジミ 立石遺跡（藤沢市）　縄文時代前期　藤沢市郷土歴史課
21 縄文土器（深鉢）　西方遺跡(茅ヶ崎市)　縄文時代前期・黒浜式　神奈川県教育委員会
22 縄文土器（深鉢）　西方遺跡(茅ヶ崎市)　縄文時代前期・黒浜式　神奈川県教育委員会
23 土器片錘　西方遺跡(茅ヶ崎市)　縄文時代前期　神奈川県教育委員会
24 礫石錘　西方遺跡（茅ヶ崎市）　縄文時代前期　神奈川県教育委員会
25 縄文土器　七堂伽藍跡（茅ヶ崎市）　縄文時代前期・黒浜式茅ヶ崎市教育委員会
26 縄文土器　北Ｂ遺跡（茅ヶ崎市）　縄文時代前期・諸磯ｂ式　茅ヶ崎市教育委員会
27 縄文土器（深鉢）　北Ｂ遺跡（茅ヶ崎市）　縄文時代中期・五領ヶ台式　茅ヶ崎市教育委員会
28 縄文土器　中通Ｃ遺跡（茅ヶ崎市）　縄文時代中期・勝坂式　茅ヶ崎市教育委員会
29 凹石　中通Ｃ遺跡（茅ヶ崎市）　縄文時代中期　茅ヶ崎市教育委員会
30 礫石錘　中通Ｃ遺跡（茅ヶ崎市）　縄文時代中期　茅ヶ崎市教育委員会
31 石皿　中通Ｃ遺跡（茅ヶ崎市）　縄文時代中期　茅ヶ崎市教育委員会
32 石棒　中通Ｃ遺跡（茅ヶ崎市）　縄文時代中期　茅ヶ崎市教育委員会
33 縄文土器　若尾山遺跡（藤沢市）　縄文時代中期・勝坂式　藤沢市郷土歴史課
34 土器片錘　若尾山遺跡（藤沢市）　縄文時代中期　藤沢市郷土歴史課
35 礫石錘　若尾山遺跡（藤沢市）　縄文時代中期　藤沢市郷土歴史課
36 縄文土器（深鉢）　構之内遺跡（平塚市）　縄文時代中期・北屋敷式　平塚市教育委員会
37 縄文土器（深鉢）　諏訪前Ａ遺跡（平塚市）　縄文時代中期・勝坂式　平塚市教育委員会
38 土器片錘　六ノ域遺跡（平塚市）　縄文時代中期　神奈川県教育委員会
39 土器片錘　山王Ａ遺跡（平塚市）　縄文時代中期　平塚市教育委員会
40 土器片錘　新町遺跡（平塚市）　縄文時代中期　平塚市教育委員会
41 浮子　構之内遺跡（平塚市）　縄文時代中期　平塚市教育委員会
42 縄文土器（深鉢）　北Ｂ遺跡(茅ヶ崎市)　縄文時代後期・堀之内式　茅ヶ崎市教育委員会
43 縄文土器（深鉢）　北Ｂ遺跡（茅ヶ崎市）　縄文時代後期・堀之内式　茅ヶ崎市教育委員会
44 縄文土器（深鉢）　北Ｂ遺跡（茅ヶ崎市）　縄文時代後期・堀之内式　茅ヶ崎市教育委員会
45 縄文土器　構之内遺跡（平塚市）　縄文時代後期・堀之内式　平塚市教育委員会
46 縄文土器（深鉢）　石神遺跡（茅ヶ崎市）　縄文時代晩期　茅ヶ崎市教育委員会
47 縄文土器（深鉢）　石神遺跡（茅ヶ崎市）　縄文時代晩期　茅ヶ崎市教育委員会
48 縄文土器（深鉢）　石神遺跡（茅ヶ崎市）　縄文時代晩期　茅ヶ崎市教育委員会
49 縄文土器　石神遺跡（茅ヶ崎市）　縄文時代晩期　茅ヶ崎市教育委員会
50 縄文土器(浅鉢)　大源太遺跡(藤沢市)　縄文時代晩期・大洞C1式　青山学院大学考古学研究室
51 縄文土器（浅鉢）　大源太遺跡（藤沢市）　縄文時代晩期・大洞Ａ式併行　青山学院大学考古学研究室
52 縄文土器（浅鉢）　大源太遺跡（藤沢市）　縄文時代晩期　青山学院大学考古学研究室
53 縄文土器　北Ｂ遺跡（茅ヶ崎市）　縄文時代晩期・清水天王山式　茅ヶ崎市教育委員会
54 縄文土器　若尾山遺跡（藤沢市）　縄文時代晩期・氷Ⅰ式系藤沢市郷土歴史課
55 縄文土器　大会原遺跡（平塚市）　縄文時代晩期・大洞Ａ式併行　神奈川県教育委員会
56 飛行機鏃　本村居村Ｂ遺跡（茅ヶ崎市）縄文時代晩期　茅ヶ崎市教育委員会
57 飛行機鏃　若尾山遺跡(藤沢市)　縄文時代晩期　藤沢市郷土歴史課
58 飛行機鏃　大源太遺跡(藤沢市)　縄文時代晩期　青山学院大学考古学研究室
59 弥生土器（深鉢）　石神遺跡(茅ヶ崎市)　弥生時代前期・水神平式系　茅ヶ崎市教育委員会

60 弥生土器　新町遺跡（平塚市）　弥生時代中期・堂山式　平塚市教育委員会
61 弥生土器（壺）　若尾山遺跡（藤沢市）　弥生時代中期・宮ノ台式　藤沢市郷土歴史課
62 弥生土器（甕）　若尾山遺跡（藤沢市）　弥生時代中期・宮ノ台式　藤沢市郷土歴史課
63 砥石　若尾山遺跡（藤沢市）　弥生時代中期　藤沢市郷土歴史課
64 磨製石斧　若尾山遺跡(藤沢市)　弥生時代中期　藤沢市郷土歴史課
65 削器　若尾山遺跡（藤沢市）　弥生時代中期　藤沢市郷土歴史課
66 礫石錘　若尾山遺跡(藤沢市)　弥生時代中期　藤沢市郷土歴史課
67 有頭石錘　若尾山遺跡(藤沢市)　弥生時代中期　藤沢市郷土歴史課
68 有孔石錘　若尾山遺跡(藤沢市)　弥生時代中期　藤沢市郷土歴史課
69 弥生土器（甕）　若尾山遺跡（藤沢市）　弥生時代中期・宮ノ台式　藤沢市郷土歴史課
70 弥生土器（壺）　若尾山遺跡（藤沢市）　弥生時代中期・宮ノ台式　藤沢市郷土歴史課
71 弥生土器（壺）　若尾山遺跡（藤沢市）　弥生時代中期・宮ノ台式　藤沢市郷土歴史課
72 弥生土器（壺）　若尾山遺跡（藤沢市）　弥生時代中期・宮ノ台式　藤沢市郷土歴史課
73 弥生土器（壺）　若尾山遺跡（藤沢市）　弥生時代中期・宮ノ台式　藤沢市郷土歴史課
74 弥生土器（甕）　若尾山遺跡（藤沢市）　弥生時代中期・宮ノ台式　藤沢市郷土歴史課
75 弥生土器（壺）　若尾山遺跡（藤沢市）　弥生時代中期・宮ノ台式　藤沢市郷土歴史課
76 弥生土器（壺）　若尾山遺跡（藤沢市）　弥生時代中期・宮ノ台式　藤沢市郷土歴史課
77 弥生土器（甕）　若尾山遺跡（藤沢市）　弥生時代中期・宮ノ台式　藤沢市郷土歴史課
78 弥生土器（壺）　若尾山遺跡（藤沢市）　弥生時代中期・宮ノ台式　藤沢市郷土歴史課
79 弥生土器（壺）　坪ノ内遺跡（平塚市）　弥生時代中期・宮ノ台式　平塚市教育委員会
80 石剣　南原Ｂ遺跡（平塚市）　弥生時代中期　平塚市教育委員会
81 磨製石斧　南原Ｂ遺跡（平塚市）　弥生時代中期　平塚市教育委員会
82 砥石　南原Ｂ遺跡（平塚市）　弥生時代中期　平塚市教育委員会
83 異形土器　大原遺跡(平塚市)　弥生時代中期・宮ノ台式　平塚市教育委員会
84 槽【県指】　池子遺跡群（逗子市）　弥生時代中期　逗子市教育委員会
85 生土器（甕）　若尾山遺跡（藤沢市）　弥生時代後期　藤沢市郷土歴史課
86 弥生土器（鉢）　若尾山遺跡（藤沢市）　弥生時代後期　藤沢市郷土歴史課
87 銅鏃　若尾山遺跡(藤沢市)　弥生時代後期　藤沢市郷土歴史課
88 銅環　若尾山遺跡(藤沢市)　弥生時代後期　藤沢市郷土歴史課
89 弥生土器（台付甕）　若尾山遺跡（藤沢市）　弥生時代後期　藤沢市郷土歴史課
90 弥生土器（壺）　四図Ａ遺跡（茅ヶ崎市）　弥生時代後期　茅ヶ崎市教育委員会
91 弥生土器（台付甕）　四図Ａ遺跡（茅ヶ崎市）　弥生時代後期　茅ヶ崎市教育委員会
92 弥生土器（台付甕）　御殿Ｅ遺跡（平塚市）　弥生時代後期　平塚市教育委員会
93 弥生土器(壺)　御殿Ｅ遺跡(平塚市)　弥生時代後期　平塚市教育委員会
94 弥生土器(甕)　御殿Ｅ遺跡(平塚市)　弥生時代後期　平塚市教育委員会
95 三角縁神獣鏡（複製）　真土大塚山古墳（平塚市）　古墳時代前期　原品・東京国立博物館
96 三角縁神獣鏡(複製)　椿井大塚山古墳(京都府木津川市)　古墳時代前期　原品・京都大学総合博物館
97 変形四獣鏡【市指】　真土大塚山古墳（平塚市）　古墳時代前期　平塚市博物館
98 銅鏃【市指】　真土大塚山古墳（平塚市）　古墳時代前期　平塚市博物館
99 銅鏃　真土大塚山古墳(平塚市)　古墳時代前期　赤星直忠博士文化財資料館
100 水晶製丸玉【市指】　真土大塚山古墳（平塚市）　古墳時代前期　平塚市博物館
101 水晶製勾玉【市指】　真土大塚山古墳（平塚市）　古墳時代前期　平塚市博物館
102 管玉・ガラス小玉【市指】真土大塚山古墳（平塚市）　古墳時代前期 平塚市博物館
103 土師器（壺）　南原Ｂ遺跡（平塚市）　古墳時代前期　平塚市教育委員会
104 土師器（壺）　南原Ｂ遺跡（平塚市）　古墳時代前期　平塚市教育委員会
105 土師器（壺）　若尾山遺跡（藤沢市）　古墳時代前期　藤沢市郷土歴史課
106 土師器（壺）　若尾山遺跡（藤沢市）　古墳時代前期　藤沢市郷土歴史課
107 手焙形土器若尾山遺跡（藤沢市）　古墳時代前期　藤沢市郷土歴史課
108 土師器（壺）　若尾山遺跡（藤沢市）　古墳時代前期　藤沢 市郷土歴史課
109 土師器（壺）　若尾山遺跡（藤沢市）　古墳時代前期　藤沢市郷土歴史課

110 土師器（甕） 大源太遺跡（藤沢市） 古墳時代前期 青山学院大学考古学研究室
111 土師器（壺） 大源太遺跡（藤沢市） 古墳時代前期 青山学院大学考古学研究室
112 土師器（鉢） 大源太遺跡（藤沢市） 古墳時代前期 青山学院大学考古学研究室
113 捩紋鏡 大源太遺跡（藤沢市） 古墳時代前期 青山学院大学考古学研究室
114 土師器（台付甕） 大源太遺跡（藤沢市） 古墳時代前期 青山学院大学考古学研究室
115 土師器（壺） 大源太遺跡（藤沢市） 古墳時代前期 青山 学院大学考古学研究室
116 土師器（甕） 大源太遺跡（藤沢市） 古墳時代前期 青山学院大学考古学研究室
117 土師器（台付甕） 大源太遺跡（藤沢市） 古墳時代前期 青山学院大学考古学研究室
118 土師器（壺） 大源太遺跡（藤沢市） 古墳時代前期 青山 学院大学考古学研究室
119 土師器（広口壺） 大源太遺跡（藤沢市） 古墳時代前期 青山学院大学考古学研究室
120 土師器（甕） 大源太遺跡（藤沢市） 古墳時代前期 青山学院大学考古学研究室
121 土師器（甕） 大源太遺跡（藤沢市） 古墳時代前期 青山学院大学考古学研究室
122 土師器（甕） 若尾山遺跡（藤沢市） 古墳時代前期 藤沢市郷土歴史課
123 土師器（壺） 若尾山遺跡（藤沢市） 古墳時代前期 藤沢市郷土歴史課
124 土師器（壺） 若尾山遺跡（藤沢市） 古墳時代前期 藤沢市郷土歴史課
125 土師器（壺） 若尾山遺跡（藤沢市） 古墳時代前期 藤沢市郷土歴史課
126 土師器（台付甕） 若尾山遺跡（藤沢市） 古墳時代前期 藤沢市郷土歴史課
127 円筒埴輪 大源太遺跡（藤沢市） 古墳時代中期 藤沢市郷土歴史課
128 須恵器（はそう） 大源太遺跡（藤沢市） 古墳時代後期 青山学院大学考古学研究室
129 土師器（坏） 大源太遺跡（藤沢市） 古墳時代後期 青山学院大学考古学研究室
130 須恵器（大甕） 藤沢市№265 遺跡（藤沢市） 古墳時代後期 藤沢市郷土歴史課
131 土師器（坏） 新町遺跡（平塚市） 古墳時代後期 平塚市教育委員会
132 須恵器（甕） 中里Ｂ遺跡（平塚市） 古墳時代後期 平塚市教育委員会
133 須恵器（蓋） 中里Ｂ遺跡（平塚市） 古墳時代後期 平塚市教育委員会
134 須恵器（坏） 中里Ｂ遺跡（平塚市） 古墳時代後期 平塚市教育委員会
135 円筒埴輪 八幡神社前遺跡（横須賀市） 古墳時代後期 横須賀市自然・人文博物館
136 土師器（高坏） 八幡神社前遺跡（横須賀市） 古墳時代後期 横須賀市教育委員会
137 砥石 八幡神社前遺跡（横須賀市） 古墳時代後期 横須賀市教育委員会
138 碇石 八幡神社前遺跡（横須賀市） 古墳時代後期 横須賀市教育委員会
139 人物埴輪【市指】 蓼原古墳（横須賀市） 古墳時代後期 横須賀市自然・人文博物館
140 人物埴輪【市指】 蓼原古墳（横須賀市） 古墳時代後期 横須賀市自然・人文博物館
141 円筒埴輪【市指】 蓼原古墳（横須賀市） 古墳時代後期 横須賀市自然・人文博物館
142 人物埴輪 蓼原古墳（横須賀市） 古墳時代後期 神奈川県立歴史博物館
143 家形埴輪 蓼原古墳（横須賀市） 古墳時代後期 神奈川県立歴史博物館
144 人物埴輪【市指】 蓼原古墳（横須賀市） 古墳時代後期 横須賀市自然・人文博物館
145 朝顔形埴輪【市指】 蓼原古墳（横須賀市） 古墳時代後期 横須賀市自然・人文博物館
146 人物埴輪【市指】 蓼原古墳（横須賀市） 古墳時代後期横須賀市自然・人文博物館
147 馬形埴輪【市指】 蓼原古墳（横須賀市） 古墳時代後期 横須賀市自然・人文博物館
148 人物埴輪【市指】 蓼原古墳（横須賀市） 古墳時代後期 横須賀市自然・人文博物館
149 人物埴輪【市指】 蓼原古墳（横須賀市） 古墳時代後期 横須賀市自然・人文博物館
150 人物埴輪【市指】 蓼原古墳（横須賀市） 古墳時代後期 横須賀市自然・人文博物館
151 土師器（甕） 勝谷遺跡（三浦市） 古墳時代前期 赤星直忠博士文化財資料館
152 土師器（高坏） 勝谷遺跡（三浦市） 古墳時代前期 赤星直忠博士文化財資料館
153 土師器（小型器台） 勝谷遺跡（三浦市） 古墳時代前期 赤星直忠博士文化財資料館
154 土師器（高坏） 勝谷遺跡（三浦市） 古墳時代前期～中期 赤星直忠博士文化財資料館
155 土師器（甕） 勝谷遺跡（三浦市） 古墳時代前期～中期 赤星直忠博士文化財資料館
156 金属管 雨崎洞穴遺跡（三浦市） 古墳時代 赤星直忠博士文化財資料館
157 鉄鏃 雨崎洞穴遺跡（三浦市） 古墳時代 赤星直忠博士文化財資料館
158 管玉 雨崎洞穴遺跡（三浦市） 古墳時代 赤星直忠博士文化財資料館
159 滑石製勾玉 雨崎洞穴遺跡（三浦市） 古墳時代 赤星直忠博士文化財資料館

160 瑪瑙製勾玉　雨崎洞穴遺跡（三浦市）　古墳時代　赤星直忠博士文化財資料館
161 水晶製切子玉　雨崎洞穴遺跡（三浦市）　古墳時代　赤星直忠博士文化財資料館
162 臼玉　雨崎洞穴遺跡（三浦市）　古墳時代　赤星直忠博士文化財資料館
163 ガラス小玉　雨崎洞穴遺跡（三浦市）　古墳時代　赤星直忠博士文化財資料館
164 井戸枠材　小荷谷遺跡（横須賀市）　平安時代　横須賀市自然・人文博物館
165 管状土錘　小荷谷遺跡（横須賀市）　弥生時代末～古墳時代前期　横須賀市自然・人文博物館
166 有頭石錘　小荷谷遺跡（横須賀市）　弥生時代末～古墳時代前期　横須賀市自然・人文博物館
167 滑石製模造品（有孔円盤）　小荷谷遺跡（横須賀市）　古墳時代　横須賀市自然・人文博物館
168 滑石製模造品（剣形）　小荷谷遺跡（横須賀市）　古墳時代　横須賀市自然・人文博物館
169 鈎形鉄製品　上ノ台遺跡（横須賀市）　弥生時代末～古墳時代前期　横須賀市自然・人文博物館
170 管状土錘　上ノ台遺跡（横須賀市）　弥生時代末～古墳時代前期　横須賀市自然・人文博物館
171 滑石製模造品（有孔円盤）　上ノ台遺跡（横須賀市）　古墳時代　横須賀市自然・人文博物館
172 滑石製子持勾玉　竹の花遺跡（湯河原町）　古墳時代　神奈川県立歴史博物館
173 臼玉　竹の花遺跡（湯河原町）　古墳時代　神奈川県立歴史博物館
174 滑石製模造品（有孔円盤）　竹の花遺跡（湯河原町）　古墳時代　神奈川県立歴史博物館
175 人面墨書土器　七堂伽藍跡（茅ヶ崎市）　奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
176 人形（複製）　七堂伽藍跡（茅ヶ崎市）　奈良・平安時代　神奈川県教育委員会
177 銭貨　七堂伽藍跡（茅ヶ崎市）　奈良・平安時代　神奈川県教育委員会
178 石製紡錘車　七堂伽藍跡（茅ヶ崎市）　奈良・平安時代 神奈川県教育委員会
179 土師器（坏）　下大曲一町畑遺跡（寒川町）　平安時代 神奈川県教育委員会
180 土師器（甕）　下大曲一町畑遺跡（寒川町）　平安時代 神奈川県教育委員会
181 土師器（甕）　下大曲一町畑遺跡（寒川町）　平安時代 神奈川県教育委員会
182 土師器（甕）　下大曲一町畑遺跡（寒川町）　平安時代 神奈川県教育委員会
183 緑釉陶器（稜花碗）　林Ｂ遺跡（平塚市）　平安時代 平塚市教育委員会
184 緑釉陶器（碗）　林Ｂ遺跡（平塚市）　平安時代 平塚市教育委員会
185 緑釉陶器（皿）　林Ｂ遺跡（平塚市）　平安時代　平塚市育委員会
186 丸瓦　乗越遺跡（横須賀市）　奈良時代　横須賀市自然・人文博物館
187 軒丸瓦　乗越遺跡（横須賀市）　奈良時代　横須賀市自然・人文博物館
188 平瓦　乗越遺跡（横須賀市）　奈良時代　横須賀市自然・人文博物館
189 須恵器（高台坏碗）　乗越遺跡（横須賀市）　奈良時代 横須賀市自然・人文博物館
190 須恵器（碗）　乗越遺跡（横須賀市）　奈良時代　横須賀市自然・人文博物館
191 須恵器（蓋）　乗越遺跡（横須賀市）　奈良時代　横須賀市自然・人文博物館
192 須恵器（高盤）　乗越遺跡（横須賀市）　奈良時代　横須賀市自然・人文博物館
193 田舟　本村居村Ｂ遺跡（茅ヶ崎市）　奈良・平安時代　茅ヶ崎市教育委員会
194 鉄鏃先　構之内遺跡（平塚市）　平安時代　平塚市教育委員会
195 鉄鎌　構之内遺跡（平塚市）　平安時代　平塚市教育委員会
196 墨書土器　本村居村Ｂ遺跡（茅ヶ崎市）　奈良・平安時代　茅ヶ崎市教育委員会
197 木簡【市指】　本村居村Ｂ遺跡（茅ヶ崎市）　奈良・平安時代　茅ヶ崎市教育委員会
198 組合式釣針　浜諸磯遺跡（三浦市）　平安時代　三浦市教育委員会
199 魚骨（カツオ）　浜諸磯遺跡（三浦市）　平安時代　三浦市教育委員会
200 管状土錘　浜諸磯遺跡（三浦市）　平安時代　三浦市教育委員会
201 土師器（甕）　三ヶ岡遺跡（葉山町）　平安時代　神奈川県教育委員会
202 鉄鎌　三ヶ岡遺跡（葉山町）　平安時代　神奈川県教育委員会
203 土師器（甕）　浜諸磯遺跡（三浦市）　平安時代　三浦市教育委員会
204 土師器（甕）　鵠沼藤ヶ谷遺跡（藤沢市）　平安時代 藤沢市郷土歴史課
205 土師器（甕）　網久保遺跡（茅ヶ崎市）　平安時代　茅ヶ崎市教育委員会
206 物埴輪　伝・采女塚古墳（鎌倉市）　古墳時代後期 横浜国立大学教育学部
207 馬形埴輪　伝・采女塚古墳（鎌倉市）　古墳時代後期 横浜国立大学教育学部
208 人骨　下馬周辺遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
209 銅製箱　下馬周辺遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会

210 鉄鏃　由比ヶ浜中世集団墓地遺跡（鎌倉市）　古墳時代終末期　鎌倉市教育委員会
211 骨鏃　由比ヶ浜中世集団墓地遺跡（鎌倉市）　古墳時代終末期　鎌倉市教育委員会
212 卜骨　由比ヶ浜中世集団墓地遺跡（鎌倉市）　古墳時代終末期　鎌倉市教育委員会
213 土師器（坏）　由比ヶ浜中世集団墓地遺跡（鎌倉市）　古墳時代終末期　鎌倉市教育委員会
214 土師器（長胴甕）　由比ヶ浜中世集団墓地遺跡（鎌倉市）　古墳時代終末期　鎌倉市教育委員会
215 墨書かわらけ　由比ヶ浜中世集団墓地遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　鎌倉市教育委員会
216 常滑焼（甕）　下馬周辺遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
217 銭貨　下馬周辺遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
218 緡（銭貨）【県指】　下馬周辺遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
219 双六駒　下馬周辺遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
220 辻具　下馬周辺遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
221 栗形　下馬周辺遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
222 笄　下馬周辺遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
223 耳かき　下馬周辺遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
224 加工動物骨　由比ヶ浜中世集団墓地遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　鎌倉市教育委員会
225 加工石材　由比ヶ浜中世集団墓地遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　鎌倉市教育委員会
226 硯　下馬周辺遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
227 鋳型　下馬周辺遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
228 かわらけ　下馬周辺遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
229 鉄鍋　下馬周辺遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
230 坩堝　下馬周辺遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
231 鉄滓 下馬周辺遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代 神奈川県教育委員会
232 羽口　下馬周辺遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
233 釣針軸部　由比ヶ浜南遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
234 鉄製釣針　由比ヶ浜南遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
235 骨錘　由比ヶ浜南遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
236 管状土錘　由比ヶ浜南遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
237 骨角製銛　由比ヶ浜中世集団墓地遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　鎌倉市教育委員会
238 獣骨（イルカ）　若宮大路周辺遺跡群（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
239 獣骨（クジラ）　由比ヶ浜南遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
240 獣骨（ウミガメ）　由比ヶ浜南遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
241 貝殻　長谷小路周辺遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　鎌倉市教育委員会
242 貝殻　原生資料（相模湾）　現代　葉山しおさい博物館
243 アワビオコシ　今小路西遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　鎌倉市教育委員会
244 青磁（鉢）　伝世資料　南宋時代（中国）　神奈川県立歴史博物館
245 青磁（碗）　若宮大路周辺遺跡群（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
246 海揚り青磁破片　鎌倉市内　鎌倉時代　神奈川県立歴史博物館
247 滑石製石鍋　若宮大路周辺遺跡群（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
248 ヤコウガイ　原生資料（沖縄県宮古島）　現代　個人
249 ヤコウガイ板状加工品　若宮大路周辺遺跡群（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会
250 ヤコウガイ　由比ヶ浜中世集団墓地遺跡（鎌倉市）　鎌倉時代　鎌倉市教育委員会
251 骨角製品　若宮大路周辺遺跡群（鎌倉市）　鎌倉時代　神奈川県教育委員会・鎌倉市教育委員会
252 縄文土器　山下居留地遺跡（横浜市）　縄文時代中・後期　神奈川県教育委員会
253 土器片錘　山下居留地遺跡（横浜市）　縄文時代中・後期　神奈川県教育委員会
254 礫石錘　稲荷山貝塚（横浜市）　縄文時代後期　神奈川県教育委員会
255 土器片錘　稲荷山貝塚（横浜市）　縄文時代後期　神奈川県教育委員会
256 骨角製釣針　稲荷山貝塚（横浜市）　縄文時代後期　神奈川県教育委員会
257 骨角製銛　稲荷山貝塚（横浜市）　縄文時代後期　神奈川県教育委員会
258 縄文土器　紅葉ヶ丘遺跡（横浜市）　縄文時代中期・曽利式　神奈川県教育委員会
259 土器片錘　紅葉ヶ丘遺跡（横浜市）　縄文時代後期　神奈川県教育委員会
260 土器片錘　伊勢山貝塚（横浜市）　縄文時代　神奈川県立歴史博物館

261 打製石斧　伊勢山貝塚（横浜市）　縄文時代　神奈川県立歴史博物館
262 手焙形土器　北仲通一丁目遺跡（横浜市）　古墳時代前期　神奈川県教育委員会
263 土師器（台付甕）　北仲通一丁目遺跡（横浜市）　弥生時代末～古墳時代前期　神奈川県教育委員会
264 管状土錘　北仲通一丁目遺跡（横浜市）　弥生時代末～古墳時代前期　神奈川県教育委員会
265 土師器（甕）　紅葉ヶ丘遺跡（横浜市）　弥生時代末～古墳時代前期　神奈川県教育委員会
266 土師器（小型高坏）　紅葉ヶ丘遺跡（横浜市）　弥生時代末～古墳時代前期　神奈川県教育委員会
267 管状土錘　山下居留地遺跡（横浜市）　古墳時代　神奈川県教育委員会
268 土師器（長胴甕）　山下居留地遺跡（横浜市）　古墳時代後期　神奈川県教育委員会
269 土師器（小型壺）　山下居留地遺跡（横浜市）　古墳時代後期　神奈川県教育委員会
270 須恵器（高坏）　山下居留地遺跡（横浜市）　古墳時代後期　神奈川県教育委員会
271 土師器（坏）　山下居留地遺跡（横浜市）　古墳時代後期　神奈川県教育委員会
272 須恵器（蓋）　山下居留地遺跡（横浜市）　古墳時代後期　神奈川県教育委員会
273 ジンボトル　山下居留地遺跡（横浜市）　19 世紀　神奈川県教育委員会
274 ワインボトル　山下居留地遺跡（横浜市）　19 世紀　神奈川県教育委員会
275 耐火煉瓦　山下居留地遺跡（横浜市）　19 世紀　神奈川県教育委員会
276 タイル　山下居留地遺跡（横浜市）　19 世紀　神奈川県教育委員会
277 クレイパイプ　山下居留地遺跡（横浜市）　19 世紀　神奈川県教育委員会
278 軟質磁器皿　北仲通一丁目遺跡（横浜市）　19 世紀　神奈川県教育委員会
279 京焼（植木鉢）　北仲通一丁目遺跡（横浜市）　19 世紀末～20 世紀初　神奈川県教育委員会
280 軒桟瓦　北仲通一丁目遺跡（横浜市）　19 世紀　神奈川県教育委員会
281 カップ　北仲通一丁目遺跡（横浜市）　19 世紀末～20 世紀初　神奈川県教育委員会
282 カップソーサー　北仲通一丁目遺跡（横浜市）　19 世紀末～20 世紀初　神奈川県教育委員会
283 ゴム製ボタン　北仲通一丁目遺跡（横浜市）　19 世紀　神奈川県教育委員会

ウ　フリーゾーン等における「馬車道を描く日曜画家展 歴代金賞作品」展示

概　　要：昭和 55(1980)年から始められ 39 回目となった「馬車道を描く日曜画家展」の歴代金賞受賞作品を、当館フリーゾーン等に展示した。なお、当館角田主任学芸員が審査員の一人として協力した。
会　　期：平成 30 年 10 月 31 日(水)～11 月 8 日(木)
会　　場：神奈川県立歴史博物館 フリーゾーン廊下、会議室
主　　催：馬車道商店街協同組合、神奈川県立歴史博物館
展示場所・点数：合計 37 点(馬車道側廊下(2 ヶ所・8 点)、会議室(29 点)

エ　フリーゾーンにおけるパネル展示

(ｱ)「かながわの近代建築」

概　　要：神奈川県内には、現在も明治・大正・昭和戦前期に建てられた数多くの近代建築が残されている。これらの近代建築の多くは、横浜における開港場や居留地に由来する建築、湘南地域に幅広く分布する避暑・避寒のための別荘建築、海軍の軍都として発展した横須賀などに見られる軍事関連の建築、箱根を中心とした観光地に建てられた旅館やホテル建築、京浜工業地帯の一角を占める横浜・川崎の臨海部の工場建築という、五つの要素に大別してとらえることができる。これは神奈川県内の近代建築の特色を表現しているだけでなく、神奈川県の近代の歩みを考える上で重要な要素でもある。
本展示では、神奈川県内に現存する近代建築のうち、当館の建物である旧横浜正金銀行本店本館や「キングの塔」と通称される神奈川県庁本庁舎をはじめとする 24 棟の建物を取り上げ、その魅力を紹介した。

会　　期：通年
会　　場：神奈川県立歴史博物館　フリーゾーン　廊下
展示資料点数：25 点（番外のマップを含む）

出 品 目 録：(いずれも写真パネル)（凡例）No. 名称 所在地 竣工年月

番外 かながわの近代建築MAP(神奈川県内の近代建築のうち60棟を地図上に示し、各建物の写真と概要データを紹介したもの)

1 旧横浜正金銀行本店本館(神奈川県立歴史博物館) 横浜市中区南仲通 1904(明治37)年7月
2 神奈川県庁舎(神奈川県庁本庁舎) 横浜市中区日本大通 1928(昭和3)年10月
3 旧新港埠頭煉瓦二号倉庫(横浜赤レンガ倉庫2号館) 横浜市中区新港 1911(明治44)年5月
4 旧三井物産横浜支店(三井物産横浜ビル) 横浜市中区日本大通1号ビル一1911(明治44)年8月、2号ビル一1927(昭和2)年
5 旧開港記念横浜会館(横浜市開港記念会館) 横浜市中区本町 1917(大正6)年6月
6 旧川崎銀行横浜支店(日本興亜馬車道ビル) 横浜市中区弁天通 1922(大正11)年
7 旧生糸検査所(横浜第2合同庁舎) 横浜市中区北仲通 1926(大正15)年2月
8 ホテルニューグランド本館 横浜市中区山下町 1927(昭和2)年11月
9 旧横浜商工奨励館(横浜情報文化センター) 横浜市中区日本大通 1929(昭和4)年4月
10 旧三井銀行横浜支店(三井住友銀行横浜支店) 横浜市中区本町 1931(昭和6)年3月
11 旧横浜英国総領事館(横浜開港資料館旧館) 横浜市中区日本大通 1931(昭和6)年
12 横浜税関本関庁舎 横浜市中区海岸通 1934(昭和9)年3月
13 横浜郵船ビル(日本郵船歴史博物館) 横浜市中区海岸通 1936(昭和11)年10月
14 旧内田家住宅(外交官の家) 横浜市中区山手町 1910(明治43)年
15 旧英国総領事公邸(横浜市イギリス館) 横浜市中区山手町 1937(昭和12)年
16 旧大倉精神文化研究所(横浜市大倉山記念館) 横浜市港北区大倉山 1932(昭和7)年4月
17 福住旅館金泉楼・萬翠楼 足柄下郡箱根町湯本 1877(明治10)・1878(明治11)年
18 富士屋ホテル本館 足柄下郡箱根町宮ノ下 1891(明治24)年
19 旧日本爆発物製造株式会社支配人執務室(旧海軍火薬廠将校クラブ、旧横浜ゴム平塚製造所記念館) 平塚市浅間町 1912(明治45)年頃
20 旧木下邸 中郡大磯町大磯 明治時代末期
21 旧近藤邸 藤沢市鵠沼東(同市内より移築) 1925(大正14)年
22 旧華頂家住宅主屋(旧華頂宮邸) 鎌倉市浄明寺 1929(昭和4)年
23 旧藤沢ゴルフ倶楽部クラブハウス(神奈川県立体育センター食堂) 藤沢市善行 1932(昭和7)年
24 旧前田家別邸(鎌倉文学館本館) 鎌倉市長谷 1936(昭和11)年8月

(イ) 「写真で見る馬車道の歴史」

概 要：馬車道。本町4丁目の交差点から吉田橋までのわずか500メートルほどの通りであるが、歌謡曲でも歌われたヨコハマを代表する道路のひとつである。幕末横浜開港とともに生まれ、港と市街地を結ぶ往来として発展し、明治4(1871)年の地図には「馬車道」の名前が記されている。輸出入の品々を運んだ荷馬車や外国人などが乗った馬車が通行していたことから「馬車道」とよばれ、多くの人たちが往来し、さまざまな商店が建ち並ぶ一方、貿易商社や金融機関が軒を並べる通りでもあった。馬車道150年の歩みを写真パネルで紹介した。

会 期：通年
会 場：神奈川県立歴史博物館 フリーゾーン 廊下
展示資料点数：11点

出 品 目 録：(いずれも写真パネル)（凡例）No. 名称(作者) 時代 所蔵・写真提供者

1 横浜一覧之真景(部分) 橋本玉蘭斎(五雲亭)貞秀 明治4年(1871) 所蔵 神奈川県立歴史博物館
2 横浜吉田橋通繁盛之図 歌川国輝(二代) 山本平吉版 明治3年(1870) 所蔵 神奈川県立歴史博物館
3 (絵葉書)横浜正金銀行 明治末 所蔵 神奈川県立歴史博物館
4 (絵葉書)明治時代の馬車道 明治末 所蔵 神奈川県立歴史博物館
5 (絵葉書)横浜震災実況 横浜正金銀行付近の惨状 大正12年(1923) 所蔵 神奈川県立歴史博物館
6 空襲で焼け野原になった馬車道 昭和20年(1945) 写真提供 アメリカ国立公文書館

7　オート三輪が走る馬車道　昭和35年(1960)　写真提供 神奈川新聞社
8　東宝会館(現リッチモンドホテル)　昭和34年(1959)　写真提供 神奈川新聞社
9　国際仮装行列の仮面ライダー　昭和48年(1973)　写真提供 神奈川新聞社
10　馬車道まつりパレード　昭和51年(1976)　写真提供 馬車道商店街協同組合
11　馬車道で歌うピンクレディー　昭和52年(1977)　写真提供 馬車道商店街協同組合

(4)　神奈川県博開館50周年記念プロジェクト

ア　プロジェクトについて

平成29年は、神奈川県立歴史博物館の前身である神奈川県立博物館の開館から50年であった。これを記念し平成29年度、平成30年度には各種事業を実施し、歴史ある公立人文系博物館としての当館の存在を広くPRし、魅力発信に努めた。

イ　プロジェクトの内容

平成29年度には、当館にまつわる思い出を募集し特設ウェブサイト上で公開する企画「みんなの神奈川県博アーカイブ」等を実施した。30年度は「みんなの神奈川県博アーカイブ」に寄せられた思い出の抜粋を地図帳「神奈川県博思い出地図帳」（A5判、24ページ）にし参加者への応募特典として刊行した。

ウ　体制

学芸部　　千葉 毅、神野 祐太、新井 裕美、橋本 遼太、武田 周一郎
企画普及課　大島 理加

(5)　教育普及・学習支援事業

広く県民の学習ニーズに応えるべく学習の機会を提供し、博物館で行う講座・講演会や各種行事などへの参加を通して、神奈川県の歴史・文化や文化財についての知識・関心を深めることを目的として実施した。

ア　講座

県民に展示内容や文化財への興味関心を持ってもらい、より深い理解を図るため、県博講座をはじめとした次の講座を実施した。

(ｱ)【県博セミナー】生涯学習課主管の県立社会教育施設公開講座。連続4回、有料(4,000円、全回申込者を優先するが、定員に達しない場合は各回毎に単独受講可能。単独受講の場合は、1回1,000円。14:00-16:00)

Ⅰ期

テーマ：「明治美術とその周辺」(定員70名　応募者49名〈単回を含む事前申込者〉)

概　要：特別展「真明解・明治美術　増殖する新メディアー神奈川県立博物館50年の精華ー」開催にあたり、関連行事として明治の美術についてそれぞれの専門的立場に基づき、多様な視点で論じた。

会　場：地下講堂

・第1回　8月19日（日）(受講者39名)
「明治美術、近世との距離」群馬県立女子大学　専任講師　三宅 秀和 氏
・第2回　8月26日（日）(受講者35名)
「美術教育の黎明＝明治」岡山大学大学院　教授　赤木 里香子 氏
・第3回　9月9日（日）(受講者33名)
「非「美術」から見る明治時代」遠山記念館 学芸課長　依田 徹 氏
・第4回　9月16日（日）(受講者31名)
「技法材料から見る明治の日本画」東京藝術大学大学院 教授　荒井 経 氏

※担当（普及担当）：主任学芸員 角田 拓朗（非常勤学芸員 豊田 倫子）

Ⅱ期
テーマ：「鎌倉時代の諸相」（定員 70 名　応募者 164 名〈単回を含む事前申込者〉）
概　要：近年の鎌倉時代史研究に関する進展成果を、4 つのトピックから語る。
会　場：地下講堂
・第 1 回　2 月 10 日(日)（受講者 70 名）
「鎌倉の仏教と鎌倉幕府」京都学園大学 特任教授　平 雅行 氏
・第 2 回　2 月 17 日（日）（受講者 63 名）
「鎌倉時代の喫茶文化」京都府茶業会議所 理事　橋本 素子 氏
・第 3 回　2 月 24 日（日）（受講者 58 名）
「国宝　称名寺聖教・金沢文庫文書の世界」上智大学 特任教授　西岡 芳文 氏
・第 4 回　3 月 3 日（日）（受講者 56 名）
「北条高時とその時代」関東学院大学 非常勤講師　永井 晋 氏
※担当（普及担当）：学芸員 渡邊 浩貴（非常勤学芸員 濵本 明海）

(ｲ)【県博講座】当館学芸員による連続講座。（無料、ただし常設展観覧券が必要、14：00～16：00）
テーマ：「古文書解読講座　―博物館の古文書を読む―」
（定員 45 名　応募 93 名　〈単回を含む事前申込者〉）
概　要：当館所蔵の古文書を解読する講座。参加者が史料についての理解を深め、史料から歴史を読み解く楽しさを実感することを目的とした。初心者向けの入門講座となる。
会　場：地下講堂
・第 1 回　9 月 19 日(水)（受講者 40 名）
「古文書を読むために　関所手形を素材に」専門員 古宮 雅明
・第 2 回　9 月 26 日(水)（受講者 36 名）
「村の支配と生活Ⅰ　年貢の資料を読む」非常勤学芸員 根本 佐智子
・第 3 回　10 月 10 日(水)（受講者 33 名）
「村の支配と生活Ⅱ　高札を読む」非常勤学芸員 根本 佐智子
・第 4 回　10 月 17 日(水)（受講者 35 名）
「富士山噴火災害資料を読む」専門員 古宮 雅明
※普及担当：臨時学芸員 小松 百華

イ　特別展等関連行事（特別展等のテーマに沿った内容の講演会等の実施。）
(ｱ) 特別展「神奈川県博開館 51 周年記念　つなぐ、神奈川県博 ― Collection to Connection ―」
a 記念鼎談　（無料、ただし特別展観覧券が必要）
「神奈川県立博物館からの出発と再編、そしてこれから―ふたりの館長と神奈川新聞記者が語る―」
開催日：6 月 23 日(土)13：30～16：15（定員 70 名　応募者 67 名　受講者 40 名）
概　要：[講演①]薄井館長「神奈川県立博物館から神奈川県立歴史博物館へ」
[講演②]平田館長「生命の星・地球博物館からみた歴史博物館」
[講演③]桐生記者「地域と博物館・学芸員」
後半は、受講者から回収した質問票に沿い、質問に答える形で鼎談を行った。
鼎談者：当館館長　薄井 和男、生命の星・地球博物館館長 平田 大二 氏、
神奈川新聞社記者 桐生 勇 氏
※担当（普及担当）：学芸員 千葉 毅（非常勤学芸員 濵本 明海）

b 連続講座（無料、ただし特別展観覧券が必要）
「展覧会学芸員が語る！それぞれの神奈川県博―あゆみと魅力―」（全 3 回）
（定員 70 名　応募 65 名〈単回を含む事前申込者〉）
・第 1 回　5 月 19 日(土)（受講者 42 名）
「つなぐ、つなげる、つながる―神奈川県博と考古分野のあゆみ―」学芸員 千葉 毅
・第 2 回　6 月 2 日(土)（受講者 45 名）
「神奈川県博の中世絵画と彫刻」学芸員 神野 祐太、橋本 遼太

・第3回　6月16日(土)（受講者35名）
「分野をつなぐ―現代史と民俗―」学芸員 新井 裕美、武田 周一郎
※担当（普及担当）：学芸員 千葉 毅（非常勤学芸員 豊田 倫子）

c 体験型イベント

(a)「中世びとにならう　手紙の書き方、折り方」（無料、ただし大人は特別展入館券が必要）
※午前　子ども向け、午後　一般向け
開催日：5月12日（土）10：00～11：30　（定員15組　応募者10組22名　受講者7組14名）
13：30～15：00　（定員15名　応募者34名　受講者16名）
概　要：展示室で文書を観察した後、中世に用いられた手紙の折り方、書き方にならい、手紙を書き、折る。
講　師：学芸員 渡邊 浩貴
※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

(b)「東海道分間絵図をつくる」（一般向け）（無料、ただし特別展入館券が必要）
開催日：5月20日（日）13：30～16：00（定員20名　応募者55名　受講者20名）
概　要：江戸時代の東海道を描いた街道絵図「東海道分間絵図」を、当時と同じ折り方、貼り方で再現した。
講　師：専門員 古宮 雅明 非常勤学芸員　根本 佐智子
※普及担当：臨時学芸員 小松 百華

(c)「仏像になってみよう」（無料、ただし特別展入館券が必要）
※各回定員５組　親子向け
開催日：5月26日（土）10：00～11：30　（応募者25名　受講者大人6名　子ども8名）
14：00～15：30　（応募者14名　受講者大人4名　子ども4名）
概　要：展示室の仏像と同じ服装をし、同じポーズをとることで、展示資料をよく観察する機会にするとともに、仏像に対する理解を深める。
講　師：学芸員 神野 祐太
※普及担当：非常勤学芸員 濵本 明海

(d)「はくぶつかんで“にらめっこ”と“おえかき”」（無料、ただし大人は特別展入館券が必要）
※定員各回10組　親子向け
開催日：6月9日（土）10：00～12:00　（応募者48名　受講者大人9名　子ども10名）
14：00～16:00　（応募者23名　受講者大人14名　子ども12名）
概　要：絵本作家いしかわこうじ氏とともに、特別展「つなぐ、神奈川県博」の展示資料を観察（にらめっこ）し表現（おえかき）する。
講　師：絵本作家　いしかわ こうじ 氏
※担当（普及担当）：学芸員 千葉 毅（非常勤学芸員 濵本 明海）

d　建物見学会　（無料、ただし特別展観覧券が必要）
国の重要文化財である当館旧館部分について、学芸員が案内・解説する企画。

(a)「旧横浜正金銀行本店本館　建物見学会」（親子向け）
開催日：5月5日(土・祝）10：30 ～12：00（定員25組　応募者77名　受講者8組20名）
講　師：主任学芸員 丹治 雄一
※普及担当：非常勤学芸員 豊田 倫子

(b)「旧横浜正金銀行本店本館　建物見学会」（一般向け）
開催日：5月27日(日）10：30 ～12：00（定員25名　応募者125名　受講者23名）
講　師：主任学芸員 丹治 雄一
※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

e　その他

「横浜本町郵便局による風景印押印イベント」（無料）

開催日：5 月 12 日（土）10：00～16：30（参加者 165 名）

協　力：横浜本町郵便局

※担当：学芸員　神野 祐太

(ｲ) 特別展「明治 150 年記念　真明解・明治美術／増殖する新（ニュー）メディア―神奈川県立博物館 50 年の精華」

a 入門講座

「明治美術の魅力」　（無料、ただし特別展観覧券が必要）

開催日：8 月 18 日（土）14：00～16：00（定員 70 名　応募者 106 名　受講者 66 名）

概　要：特別展担当学芸員が入門講座として明治美術の魅力を分かりやすく体系的に解説。

講　師：主任学芸員 角田 拓朗

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

b 体験型イベント「明治タイムトラベル！」（子ども向け　申込不要）

（※夏休み子ども向けイベント神奈川県博×東海大学課程資格教育センター・教養学部芸術学科美術課程連携プロジェクト）

開催日：8 月 11 日（土・祝）10：00～16：30（受講者 15 名）

8 月 12 日（日）　10：00～16：30（受講者 23 名）

8 月 25 日（土）　10：00～16：30（受講者 14 名）

8 月 26 日（日）　10：00～16：30（受講者 18 名）

概　要：東海大学学生スタッフによるアドバイスを受けながら、各種のワークシートを通して、明治時代の文化や美術に親しむ。

講　師：東海大学 教授 河野 孝博 氏、東海大学 准教授 篠原 聰 氏

担当（普及担当）：主任学芸員 角田 拓朗（非常勤学芸員 豊田 倫子）

c その他

(a)　特別演舞「明治を踊る、明治を語る」　（無料、ただし特別展観覧券が必要）

開催日：9 月 24 日（月・振休）14：00 ～16：00（定員 70 名　応募者 91 名　受講者 72 名）

概　要：舞踊を鑑賞して明治のお座敷を追体験。あわせて、日本画家鏑木清方の芸術世界を導き手に、明治文化を紐解く鼎談をおこなう。

講　師：日本画家・日本舞踊師範　中 千尋 氏

鎌倉市鏑木清方記念美術館　学芸員　今西 彩子 氏

主任学芸員　角田 拓朗

※普及担当：非常勤学芸員 濵本 明海

(b)「夜の鑑賞会」　（各回定員 30 名）　（無料、ただし特別展観覧券が必要）

会　場：特別展示室

開催日：8 月 10 日（金）17：15～18：15（応募者 24 名　受講者 24 名）

18：30～19：30（応募者 8 名　受講者 8 名）

8 月 31 日（金）17：15～18：15（応募者 15 名　受講者 14 名）

18：30～19：30（応募者 22 名　受講者 19 名）

9 月 28 日（金）17：15～18：15（応募者 27 名　受講者 23 名）

18：30～19：30（応募者 25 名　受講者 22 名）

概　要：閉館後の落ち着いた展示室で解説を行い、特別展への理解をより深める。

講　師：主任学芸員 角田 拓朗

※普及担当：臨時学芸員 小松 百華

(c)　シンポジウム「ワークショップを考える－博物館を感じるということ－」
（無料、ただし特別展観覧券が必要）
開催日：8 月 25 日（土）10：00～12：30（定員 70 名　応募者 29 名　受講者 40 名）
内　容：事例報告①「ワークショップの理念」岡山大学　教授 山口 健二 氏
事例報告②「ユニバーサルなワークショップ」国立民族学博物館　准教授 広瀬 浩二郎 氏
事例報告③「博物館と大学でつくるワークショップ」東海大学　准教授 篠原 聰 氏
総合討議（パネリスト）岡山大学　教授 赤木里香子 氏、山口 健二 氏、
広瀬 浩二郎 氏、篠原 聰 氏
共　催：東海大学資格課程センター
後　援：神奈川県博物館協会
協　力：東海大学松前記念館
※担当（普及担当）：主任学芸員　角田 拓朗（非常勤学芸員 豊田 倫子）

(ヶ) 特別展「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼
人間文化研究機構　博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業「列島の祈り」」
a 記念講演会　（無料、ただし特別展観覧券が必要）
(a)「儀礼が生み出す中世東国の宗教世界」
開催日：11 月 11 日（日）14：00～16：00（定員 70 名　応募者 169 名　受講者 57 名）
概　要：「儀礼」という視点で地域に伝わる資料を読み解くことで、どのような中世東国の宗教世界が見えてくるのか。最新の研究成果もふまえ、深奥で豊かな世界を紹介する。
講　師：名古屋大学 教授 阿部 泰郎 氏
※担当（普及担当）：学芸員 小井川 理（非常勤学芸員 濵本 明海）

(b)「円覚寺弁天堂洪鐘祭絵巻」
開催日：11 月 23 日（金・祝）14：00～16：00（定員 70 名　応募者 116 名　受講者 61 名）
概　要：60 年に一度の開催とも伝えらえれる円覚寺弁天堂の洪鐘祭（大鐘祭）。明治時代に行われたお祭りの様子を描く絵巻物に注目しつつ、祭礼と行列の魅力を紹介する。
講　師：武蔵大学 教授 福原 敏男 氏
※担当（普及担当）：学芸員 小井川 理（非常勤学芸員 濵本 明海）

b 連続講座　（無料、ただし特別展観覧券が必要）
「鎌倉ゆかりの信仰と儀礼」（全 5 回）（定員 70 名　応募者 106 名〈単回を含む事前申込者〉）
・第 1 回　10 月 27 日（土）（受講者 57 名）
「総論・鎌倉山ノ内の面掛行道」 日本女子大学 教授 古川 元也 氏
・第 2 回　11 月 10 日（土）（受講者 56 名）
「金沢文庫資料にみる中世の瀬戸神社 」
慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 准教授 高橋 悠介 氏
・第 3 回　11 月 17 日（土）（受講者 51 名）
「県内における修験の信仰と芸能」 学芸員 新井 裕美
・第 4 回　11 月 24 日（土）（受講者 62 名）
「御霊神社面掛行列と湯立神楽 」非常勤学芸員 三浦 麻緒
・第 5 回　12 月 1 日（土）（受講者 51 名）
「中世鎌倉の神仏事と芸能 」上智大学 教授 西岡 芳文 氏
※担当（普及担当）：学芸員 小井川 理・学芸員 新井 裕美（非常勤学芸員 豊田 倫子）

c 体験型イベント（無料、ただし大人は特別展観覧券が必要）
「展示を見てお面を作ろう」（子ども向け　定員 15 名）
開催日：12 月 2 日（日）13：30～15：30（応募者 17 名　受講者 16 名）

概　要：展覧会で展示されている面を観察し、それをもとに、参加者がお面を製作した。
講　師：非常勤学芸員 三浦 麻緒

※普及担当：臨時学芸員 小松 百華

d 現地見学会
「鎌倉山ノ内の神輿行幸地を歩く」（無料）
開催日：11 月 16 日（金）13:00～16:00（定員 20 名　応募者 69 名　受講者 19 名）
概　要：特別展「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」にちなみ、例年 7 月に行われる八雲神社例大祭でお神輿が周る道々を、実際に歩くことで土地に伝わる信仰を紐解く。
会　場：北鎌倉山ノ内地区
前半：北鎌倉駅→円覚寺門前→神輿休憩場所→明月院門前→第六尊天前→建長寺門前
後半：建長寺門前→円応寺脇（巨福呂坂洞門前）→長寿寺脇→浄智寺門前→東慶寺門前→神輿御仮屋→天王屋敷→（有志のみ参加）八雲神社
講　師：日本女子大学教授、特別展監修者　古川 元也 氏
※担当（普及担当）：学芸員 小井川 理（非常勤学芸員 市野 悦子）

(ｴ) 平成 30 年度かながわの遺跡展「潮風と砂の考古学」
a 特別講演（無料、ただし常設展の観覧券が必要）
(a)「中世鎌倉における沿岸部の性格」
開催日：1 月 20 日(日)14：00～16：00（定員 70 名　応募者 94 名　受講者 57 名）
概　要：海辺の遺跡の調査研究について、最新の研究成果を届ける全 3 回の講座の内 2 回目。
講　師：浄光明寺執事 什宝物調査整理係 古田土 俊一 氏

(b)「人はなぜ砂の上に住むことを選んだのか」
開催日：2 月 11 日(月・祝)14：00～16：00（定員 70 名　応募者 69 名　受講者 56 名）
概　要：海辺の遺跡の調査研究について、最新の研究成果を届ける全 3 回の講座の内 3 回目。
講　師：東京文化財研究所音声映像記録研究室長 石村 智 氏

b 入門講座（無料、ただし常設展の観覧券が必要）
「担当者 k といっしょに学ぶ、砂の遺跡のあれ・これ・それ」
開催日：1 月 26 日（土）14:00～16:00（定員 70 名　応募者 48 名　受講者 43 名）
概　要：遺跡展担当が入門講座として平成 30 年度かながわの遺跡展「潮風と砂の考古学」の展示内容を解説。
講　師：神奈川県教育局生涯学習部文化遺産課中村町駐在所 主事 久我谷 渓太

(ｵ) 特別陳列「屏風をひらけば―神奈川県立歴史博物館所蔵の屏風絵―」
a 関連講座（無料、ただし常設展の観覧券が必要）
(a)「平家物語と館蔵屏風絵」
開催日：3 月 16 日（土）13：30～15：00（定員 70 名　応募者 65 名　受講者 55 名）
概　要：平安時代末期の平家一門の興亡を語る『平家物語』は、語り物として琵琶法師によって語られ、さらに謡曲としても広く愛好されてきた。江戸時代には、これらの文学作品を題材に源平合戦図屏風が多く描かれた。数々のエピソードを屏風の大画面にどのように配置し仕上げるか、展示中の館蔵品を中心に講演した。
講　師：学芸員 橋本 遼太

※普及担当：臨時学芸員 小松 百華

(b)「耕作図と館蔵屏風絵」
開催日：3 月 30 日（土）13：30～15：00（定員 70 名　応募者 57 名　受講者 54 名）
概　要：田植えから収穫までの耕作の様子を、季節の循環にのせて描く四季耕作図。展示中の 2 点の耕作図（前島宗祐筆と狩野探幽筆）は、同じ耕作図という画題でありながら図様や表現

は大きく異なる。これらの違いの理由を考えながら、耕作図の受容や画家の特徴について講演した。

講　師：学芸員 橋本 遼太

※普及担当：臨時学芸員 小松 百華

ウ　学芸員による展示解説

特別展・特別陳列等の担当学芸員による展示解説。自由参加を原則とする。

展覧会名	開催日	時間	会場	解説者	受講者（名）
「神奈川県博51周年記念　つなぐ、神奈川県博ーCollection to Connectionー」	4月29日（日）	13:30～14:15	展示室	千葉 毅・神野 祐太・新井裕美・武田 周一郎	78
	4月30日(月・祝)			新井 裕美・橋本 遼太	119
	5月3日（木・祝）			神野 祐太・武田 周一郎	30
	5月4日（金・祝）			千葉 毅・武田 周一郎	47
	5月6日（日）			橋本 遼太	29
	5月13日（日）			千葉 毅・神野 祐太	19
	5月20日（日）			橋本 遼太	23
	5月27日（日）			千葉 毅・神野 祐太・武田周一郎	26
	6月3日（日）			橋本 遼太	20
	6月10日（日）			千葉 毅	18
	6月17日（日）			新井 裕美・橋本 遼太	22
	6月24日（日）			千葉 毅・武田 周一郎	47
	6月30日（土）			新井 裕美	32
	7月1日（日）			橋本 遼太	46
「明治150年記念　真明解・明治美術　増殖する新(ニュー)メディアー神奈川県立博物館50年の精華ー」	8月4日（土）	13:30～14:15	展示室	角田 拓朗	48
	8月11日（土）				34
	8月25日（土）				52
	9月2日（日）				25
	9月8日（土）				19
	9月9日（日）	10:30～11:00			12
	9月17日(月･祝)	10:30～11:00	会議室		47
	9月17日(月･祝)	11:30～12:00			54
	9月17日(月･祝)	13:30～14:00			60
	9月17日(月･祝)	14:30～15:00			31
	9月17日(月･祝)	15:30～16:00			39
	9月23日（日）	13:30～14:00	展示室		42
	9月29日（土）	14:15～14:45			31
「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」	10月28日（日）	13:30～14:15	展示室	小井川 理　他3名	36
	11月4日（日）				32
	11月11日（日）				26
	11月18日（日）				15
	11月25日（日）				36
	12月2日（日）				29
平成30年度かながわの遺跡展「潮風と砂の考古学」	1月20日（日）	13:30～14:15	展示室	久我谷 渓太（文化遺産課）	48
	2月9日（日）				18
	2月17日（日）				32

「屏風をひらけば―神奈川県立歴史博物館所蔵の屏風絵―」	3月3日（日）	11:00～12:00	展示室	橋本 遼太	22
	3月10日（日）				26
	3月17日（日）				24
	3月24日（日）				22

エ　ミュージアムトーク「今月の逸品」

常設展展示資料より毎月逸品をピックアップし、学芸員が解説を行う。

（申込不要、無料、ただし常設展観覧券が必要、毎月第三水曜日 14:00-15:00）

開催月	逸品テーマ	開催日	解説者	受講者（名）
5月	「西方寺の仏像」	5月16日（水）	神野 祐太	22
6月	「神奈川県鳥瞰図」	6月20日（水）	武田 周一郎	23
7月	「スタンプ形石器と礫斧」	7月18日（水）	千葉 毅	24
8月	「初代広重「冨士三十六景」 ―富士山をのぞむ日本の名所風景―」	8月15日（水）	桑山 童奈	31
9月	「聖徳太子絵伝断簡」	9月19日（水）	橋本 遼太	18
10月	「神奈川県庁新庁舎敷地内から出土した近代横浜の記憶」	10月17日（水）	丹治 雄一	12
11月	「太刀　銘備前国長船住左近将監長光造　正応二年己丑六月日」	11月21日（水）	小井川 理	23
12月	「改正日本輿地路程全図」と「自神奈川至小田原東海道図」	12月19日（水）	古宮 雅明	32
1月	「双体道祖神」	1月16日（水）	新井 裕美	16
2月	「ウィリアムズ女史日本旅行記念蒐集資料」	2月20日（水）	嶋村 元宏	16
3月	鈴木其一「鯉図」	3月20日（水）	角田 拓朗	15

オ　その他の行事

(ｱ)　建物見学会

a 「建物見学会特別編」（各回定員10名）

開催日：5月13日(日) 10：30 ～12：00（応募者12名　受講者6名）

5月16日(水) 10：30 ～12：00（応募者8名　受講者5名）

概　要：前年度実績の50周年事業「みんなの神奈川県博アーカイブ」参加者への応募特典として、建物見学会を特別に実施した。

講　師：主任学芸員 丹治 雄一

※普及担当：主査 大島 理加

b 「横浜正金銀行本店と横浜の港湾遺構をめぐる」（無料、ただし常設展観覧券が必要）

開催日：10月13日(土)　13：30～16：00（定員25名　応募者34名　受講者22名）

概　要：当館建物と、日本に現存する商船用石造りドックとしては最も古い「旧横浜船渠第2号ドック」（現ドックヤードガーデン）や新港埠頭関連遺構などをめぐる見学会。

行　程：当館→旧横浜新港埠頭煉瓦一号上屋・二号上屋（赤レンガ倉庫）→新港埠頭石積岸壁→汽車道（旧大岡橋梁・港二号橋梁・港一号橋梁・旧新港連絡線鉄道線路護岸）→一号ドッグ

（旧横浜船渠株式会社第一号船渠）→二号ドッグ（旧横浜船渠株式会社第二号船渠）
講　師：主任学芸員 丹治 雄一

※普及担当：非常勤学芸員 市野悦子

c 「旧横浜正金銀行本店本館見学会」（各回定員 25 名）（無料、ただし常設展観覧券が必要）
開催日：11 月 18 日(日) ①10：30～12：00（応募者 27 名　受講者 22 名）
②14：00～15：30（応募者 26 名　受講者 25 名）
概　要：国の重要文化財である当館旧館部分について、学芸員が案内、解説する企画。
講　師：主任学芸員　丹治 雄一

※普及担当：臨時学芸員 小松 百華

d 「横浜正金銀行本店『エースのドーム』と横浜三塔周辺をめぐる」（無料、ただし常設展観覧券が必要）
開催日：3 月 10 日（日）13:30～16:00（定員 25 名　応募者 39 名　受講者 22 名）
概　要：“三塔の日”にちなみ、「エースのドーム」と名付けた当館建物と横浜三塔周辺をめぐる見学会」
行　程：当館→旧横浜新港埠頭煉瓦一号倉庫・二号倉庫（赤レンガ倉庫）→横浜税関本関庁舎（クイーンの塔）→神奈川県庁本庁舎（キングの塔）→旧開港記念横浜会館（ジャックの塔）
講　師：主任学芸員 丹治 雄一

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

e 博物館入門講座(応募者 91 名・受講者第 1 日目 64 名、第 2 日目 61 名・定員 70 名)
普段見ることのできない博物館の様々な活動や学芸員の仕事について紹介するとともに、当館の展示についても学ぶ。当講座の受講が当館ボランティア応募の条件となる。
・第 1 回　10 月 6 日(土) 11:00～15:50
講義名：当館の概要・博物館活動と学芸員の仕事・企画普及事業・館内見学
・第 2 回　10 月 7 日(日) 11:00～15:50
講義名：「学芸員の目」(1)(2)・ワークショップ「学芸員の目を学ぶ」・「学芸員の技」

(ｲ) ミュージアムコンサート
a 「浦賀ウインドオーケストラによる吹奏楽演奏会」（無料、ただし常設展観覧券が必要）
日　時：6 月 24 日(日) 14:45～15:45
演奏者：浦賀ウインドオーケストラ
参加者：69 名（定員 70 名）
概　要：気軽に音楽を楽しんでもらうことを通して、当館について知ってもらう契機となるよう、当日受付でのコンサートを実施。
会　場：神奈川県立歴史博物館　講堂

※担当：非常勤学芸員 市野 悦子

b 「クラシック・ヨコハマ 2018 ミュージアムコンサート in 神奈川県立歴史博物館　vol.1」（無料）
日　時：10 月 31 日(水) 12:00～12:45
演奏者：松本 理沙 氏、須々木 由子 氏、尾形 一樹 氏、渡辺 定路 氏（横浜市民広間演奏会）
参加者：300 名
概　要：「クラシック・ヨコハマ 2018」の一環として、サックス四重奏コンサートを実施。
会　場：神奈川県立歴史博物館　馬車道口玄関

※担当：非常勤学芸員 市野 悦子

c 「クラシック・ヨコハマ 2018 ミュージアムコンサート in 神奈川県立歴史博物館　vol.2」（無料、ただし常設展観覧券が必要）
日　時：1 月 12 日(土) 14:00～15:00

演奏者：大平 治世 氏(Fl)、吉野 駿 氏(Vn)、鶴 友見 氏(Vla)、饗庭 萌子 氏(Vc)（MMCJ 修了生）
参加者：66 名(定員 70 名)
概　要：「クラシック・ヨコハマ 2018」の一環として、フルート室内楽四重奏コンサートを実施。
会　場：神奈川県立歴史博物館　講堂

※担当：非常勤学芸員 市野 悦子

(ｳ) 博物館体験教室

a 「張り子のだるまを作ろう」（子ども向け）（各回定員 15 名）（無料）
開催日：8 月 8 日（水）10:00～12:00（応募者 17 名　受講者 15 名）
14:00～16:00（応募者 19 名　受講者 14 名）
概　要：粘土型に紙を張りつけて成形する張り子の技法を用いてだるまを作る。あわせて受講者(子ども)に対し、だるまと張り子の作例の紹介及び解説を行った。
講　師：非常勤学芸員 三浦 麻緒

※普及担当：非常勤学芸員 濵本 明海

b 「日本の伝統技術を学ぶ－組紐体験－」（無料、ただし常設展観覧券及び材料費実費が必要）
開催日：10 月 20 日(土) 10：30 ～15：00（定員 25 名　応募者 48 名　受講者 21 名）
概　要：「クテ打」という技法の組紐体験を昨年に続き今年度も行った。今回は基本の組み方（三種）に加えて応用編の組み方（二種類）にも挑戦し、文化財への興味、関心を深め、更に発展性のあるプログラムとした。
講　師：西岡甲房組紐師 西岡 千鶴 氏

※普及担当：非常勤学芸員 豊田 倫子

c 「大人の工場見学　―キリンビール横浜工場―」（各回定員 40 名）
開催日：1 月 31 日（木）10:00～12:40（応募者 25 名　受講者 24 名）
14:00～16:40（応募者 20 名　受講者 17 名）
概　要：ビールの歴史を講義で学んだ後に、最新のビール製造工程を見学。日本ビール産業史等に関わる講義と工場見学を併せて行うことで、より近代産業史への理解を深める。
講　師：キリンビール横浜工場　山本 武司 氏、主任学芸員　丹治 雄一

※普及担当：非常勤学芸員 市野 悦子

(ｴ) その他

「横浜本町郵便局による風景印押印イベント」（無料）
開催日：11 月 3 日(土・祝) 10：00～16：30
3 月 21 日(木・祝) 10：00～16：30
協　力：横浜本町郵便局

※担当：学芸員　神野 祐太

カ　子ども・青少年向け教育普及事業

(ｱ) 「学んで楽しむ はくぶつかん」（自由参加）
内　　容：展示資料から出題したワークシートを配布。参加者には回答と記念品を配布。
開催期間：9 月 1 日(土)～翌年 3 月 31 日(日)開催日数（無料開館日を除く）166 日間
参 加 者：377 名

※担当：非常勤学芸員　市野 悦子

(ｲ) ミュージアム・ミッション 2018
内　　容：2003 年に「ミュージアム・クイズラリーよこはま」として始まり、2016 年に「ミュージアム・ミッション」に名称を変え、2018 年で実施 16 回を数える、夏期の子ども向け事業。

主に関内・山手・みなとみらい地区に近接する博物館等の施設を、クイズ等の課題(ミッション)をクリアしながら巡る事で、特に子どもに対し、博物館に親しむ機会を創出することをねらいとしたもの。

開催期間：7月21日(土)～8月31日(金)

開催館園：（10館）JICA横浜 海外移住資料館、ニュースパーク（日本新聞博物館）、放送ライブラリー、横浜都市発展記念館、横浜ユーラシア文化館、横浜開港資料館、シルク博物館、大佛次郎記念館、神奈川近代文学館、当館

協力館園：野毛山動物園

対　　象：中学生以下の子ども（ただし行事への参加は誰でも可）

参 加 者：全体1,503名(自由参加)

関連行事：どきどき！野毛山動物園裏側見学ツアー

内　　容：ミュージアム・ミッション2018の参加者プレゼントとして、野毛山動物園のバックヤード見学を行った。

見学施設：野毛山動物園

参加資格：①中学生以下の子どもとその保護者　②ミッションを５つ以上クリアした者

参 加 費：無料

日　　時：10月21日(日)11:00～12:00（応募者親子18名　参加者親子８名）
14:00～15:00（応募者親子10名　参加者親子８名）

※担当：非常勤学芸員 濵本 明海

キ　学校連携事業の状況

(ｱ)　展示見学学習等、小中高等学校及び特別支援学校の当館利用状況

	県　内									
	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		県内合計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4月										
5月	0	0	33	1,074	7	148	0	0	40	1,222
6月	1	165	12	424	1	9	1	11	15	609
7月	0	0	8	44	1	5	0	0	9	49
8月	0	0	3	10	5	23	0	0	8	33
9月	1	6	4	119	0	0	1	18	6	143
10月	5	275	1	21	2	26	0	0	8	322
11月	18	1,682	4	247	1	7	1	9	24	1,945
12月	1	88	5	323	1	1	0	0	7	412
1月	3	231	10	561	1	4	0	0	14	796
2月	4	274	11	499	0	0	0	0	15	773
3月	1	12	1	6	0	0	0	0	2	18
合計	34	2,733	92	3,328	19	223	3	38	148	6,322

	県　外									
	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		県外合計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4月										
5月	2	96	33	506	18	409	0	0	53	1,011
6月	1	20	10	182	5	56	0	0	16	258
7月	0	0	2	4	0	0	0	0	2	4
8月	0	0	1	7	1	14	0	0	2	21
9月	3	49	10	186	0	0	0	0	13	235
10月	4	171	3	263	4	19	0	0	11	453
11月	0	0	12	584	5	33	1	6	18	623
12月	0	0	4	77	4	114	0	0	8	191
1月	0	0	10	216	1	4	0	0	11	220
2月	0	0	14	672	1	50	0	0	15	722
3月	0	0	4	204	0	0	0	0	4	204
合計	10	336	103	2,901	39	699	1	6	153	3,942

	平成30年度総計		平成28年度総計		平成27年度総計		平成26年度総計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4月			44	1,331	34	994	28	1,186
5月	93	2,233	88	2,710	96	2,875	96	2,693
6月	31	867			40	1,120	32	1,110
7月	11	53			26	416	16	519
8月	10	54			5	23	9	139
9月	19	378			16	375	21	747
10月	19	775	休　館		35	1,882	18	534
11月	42	2,568			35	2,019	44	2,284
12月	15	603			13	783	11	316
1月	25	1,016			29	1,333	15	580
2月	30	1,495			34	1,448	34	1.198
3月	6	222			26	431	20	453
合計	301	10,264	132	4,041	389	13,649	344	11,819

※平成29年度は休館

総数 10,264 人

総数 10,264 人

(イ)　当館の利用目的（事前連絡 118 校による統計）　（単位：校数）

	利用目的	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
県内	教科学習(社会科等)	10 (32%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	10
	総合的な学習の時間	1 (3%)	7 (21%)	0 (0%)	0 (0%)	8
	学校行事(遠足等)	20 (65%)	27 (79%)	5(100%)	1(100%)	53
	小　計	31(100%)	34(100%)	5(100%)	1(100%)	71
県外	教科学習(社会科等)	0 (0%)	0 (0%)	1 (20%)	0 (0%)	1
	総合的な学習の時間	0 (0%)	0 (%)	0 (0%)	0 (0%)	0
	学校行事(遠足等)	8(100%)	34(100%)	4 (80%)	0 (0%)	46
	小　計	8(100%)	34(100%)	5(100%)	0 (0%)	47
	合　計	39	68	10	1	118

※義務教育学校、中等教育学校は課程により分類

(ウ)　学校の博物館利用の状況　（単位：校数）

校種	事前準備			博物館活用			利用形態		付帯施設利用		
	事前連絡校	下見来館	電話打合せ	ボランティア解説	ワークシート活用	特別依頼	全員一斉	グループ	駐車場	講堂・会議室	その他
小学校	39	27	12	12	9	3	35	4	6	18	2
中学校	68	26	42	11	0	6	12	56	1	5	21
高等学校	10	4	6	2	0	1	5	5	0	1	1
特別支援学校	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
合計	118	58	60	25	9	10	53	65	7	24	24

※「ワークシート活用」＝館提供のワークシートを活用して見学。
※「特別依頼」＝学芸員による館の概要説明や建物の解説など。
※ 付帯施設利用の「その他」＝ライブラリの利用、エントランスでのチェックポイント設置など。

(エ)　ボランティア、学芸員等による解説依頼へのテーマ別対応状況　（単位：延べ校数）

依頼テーマ	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
テーマ1 さがみの古代に生きた人びと	2	0	1	0
テーマ2 都市鎌倉と中世びと	6	2	1	0
テーマ3 近世の街道と庶民文化	0	0	1	0
テーマ4 横浜開港と近代化	8	9	0	0
テーマ5 現代の神奈川と伝統文化	3	1	1	0
特別展示・その他 （含む専門解説）	3	4	1	0

(オ)　インターンシップ(就業体験・職場訪問等)への対応状況

インターンシップは、生徒が学校に在学している期間中に、「勤労体験」「職業体験」活動を通じて、生徒が自主的に望ましい勤労観、職業観及び職業に関する知識や技術に触れ自己の個性を理解して、進路選択ができる能力及び態度を身につけることを目的とする。

当館のインターンシップは、高校生を対象に複数日にわたり、博物館の役割や学芸員の仕事について紹介し、また、実際に資料を扱うことで、博物館の仕事をより具体的に知ることを目的とする就業体験的なものと、中学生・高校生を対象に「博物館の役割・仕事」「博物館で働く人」といったテーマで座学と見学、インタビューを中心とした職場訪問的なものを実施している。

a　高校生のインターンシップ

就業体験的なもの(複数日にわたり博物館の業務・学芸員の仕事についての概要説明、施設の見学、就業体験等を実施)

○　横浜南稜高等学校　橋本高等学校　麻溝台高等学校　白鵬女子高等学校　　合計４校　５名

日　時：8月7日（火)～10日(金）9：00～17：00

内　容：8月7日（火）　ガイダンス、館内見学、講義、企画普及業務補助

8月8日（水）　企画普及業務（博物館体験教室）補助

8月9日（木）　学芸員業務（収蔵資料整理業務）体験

8月10日（金）　企画普及業務補助、情報資料課業務補助、４日間の振り返り

b　中学生・高校生の職場訪問、職場見学

博物館の業務・学芸員の仕事についての概要説明を行い、施設見学、インタビューを実施。

日　時	：5月15日（火）	横須賀市立浦賀中学校	2年生 18名
	5月22日（火）	平塚市立金旭中学校	2年生 30名
	8月24日（金）～25日(土)	相模原中等教育学校	4年生 1名
	1月23日（水）	横浜市立汐見台中学校	2年生 4名

(カ)　「小・中学生の歴史学習に関連した展示資料」「歴史学習に対応した主な展示資料」の作成

再開館に伴う展示資料の入れ替えと学習指導要領の改訂に伴い、従来の「歴史博物館の展示(常設)目録 ー学習指導要領・教科書との対照表ー」の趣旨を踏まえ、小・中学生向けの「小・中学生の歴史学習に関連した展示資料」と、小学校及び中学校教員向けの「歴史学習に対応した主な展示資料」を作成した。県内の一部地域の社会科研究会や下見に来館した教員へ配付するなど、展示の内容を紹介する資料として活用した。併せてホームページにも掲載した。

(キ)　『常設展示品キャプション』の更新

再開館を受け、「常設展示品キャプション集」を改訂した。展示替えに伴う館内の情報共有をより早く行えるよう、展示替え情報をボランティア等関係者に配付した。

(ク)　ワークシートの作成と活用

小学生の見学用に「けんぱく見学シート」と題するワークシートを作成した。「3・4 年生版」、「6年生版」の2種類を作成し、試験的に来館校で利用したところ、児童が目標を持って見学するうえで効果的であったため、ホームページに掲載し、平成31年度より正式に活用することとした。

(ケ)　教員対象の研修の実施

a　「教員のための博物館講座」の開催

日　時：7月27日(金）10：00～16：00

受講者：29名

内　容：講義Ⅰ『年中行事と人生儀礼からみる庶民のくらし』

講義Ⅱ『開国　ーペリー来航から横浜開港ー』

講　師：主任学芸員 嶋村 元宏、学芸員 新井 裕美

b　社会体験研修の実施

日　時：7月25日（水）・26日（木）　9：00～17：45

参加者：2名

(ｺ)　出張講座

休館中の学校連携の一環として開始した、当館学芸員が講師となり県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に出張して講義をする「出張講座」を再開館後も継続して実施した。

日付	学校名	講座名	概要	講師名	対象学年・単位 授業時限数 受講者数
5月15日 （火）	湘南白百合学園中学校	博物館・学芸員の仕事	博物館という施設とそこで資料に関わるさまざまな仕事をしている学芸員について、自身の体験に基づきわかりやすく解説した。	主任学芸員 桑山 童奈	2学年・学年 1時限 185名
5月30日 （水）	横浜女学院中学校	もっと知りたい鎌倉大仏	神奈川の仏像、特に鎌倉大仏（高徳院阿弥陀如来坐像）について、そのかたちの意味や服装について、実際に鎌倉大仏の真似をしながら学んだ。	学芸員 神野 祐太	2学年・学年 1時限 105名
6月7日 （木）	寒川町立一之宮小学校	考古学の魅力	考古学とは何か。どのような楽しさがあるのかを、身近な遺跡や遺物などを通して紹介した。	学芸員 千葉 毅	6学年・クラス 2時限 58名
6月8日 （金）	横浜市立大門小学校	中世武士たちの鎌倉	鎌倉時代の「武士」についての常識・非常識について、教科書にも取り上げられるような資料（画像等）を使いながら、わかりやすく解説した。	学芸員 渡邊 浩貴	6学年・クラス 3時限 116名
6月6日 （水）	寒川町立寒川小学校	中世武士たちの鎌倉	鎌倉時代の「武士」についての常識・非常識について、教科書にも取り上げられるような資料（画像等）を使いながら、わかりやすく解説した。	学芸員 渡邊 浩貴	6学年・クラス 2時限 85名
6月11日 （月）	横浜市立相沢小学校	中世武士たちの鎌倉	鎌倉時代の「武士」についての常識・非常識について、教科書にも取り上げられるような資料 （画像等）を使いながら、わかりやすく解説した。	学芸員 渡邊 浩貴	6学年・クラス 2時限 63名
6月14日 （木）	平塚市立崇善小学校	もっと知りたい鎌倉大仏	神奈川の仏像、特に鎌倉大仏（高徳院阿弥陀如来坐像）について、そのかたちの意味や服装について、実際に鎌倉大仏の真似をしながら学んだ。	学芸員 神野 祐太	6学年・学年 1時限 120名
6月15日 （金）	厚木市立愛甲小学校	江戸時代の花、浮世絵の話	江戸時代の美術、浮世絵について、その歴史、木版画の技術、題材、歌麿、北斎、広重など浮世絵師の魅力などを解説した。	主任学芸員 桑山 童奈	6学年・クラス 3時限 87名
6月21日 （木）	三浦市立上宮田小学校	中世武士たちの鎌倉	鎌倉時代の「武士」についての常識・非常識について、教科書にも取り上げられるような資料（画像等）を使いながら、わかりやすく解説した。	学芸員 渡邊 浩貴	6学年・クラス 2時限 43名

6月27日 （水）	鎌倉市立腰越小学校	中世武士たちの鎌倉	鎌倉時代の「武士」についての常識・非常識について、教科書にも取り上げられるような資料（画像等）を使いながら、わかりやすく解説した。	学芸員 渡邊 浩貴	6学年・クラス 2時限 64名
6月29日 （金）	相模原市立上鶴間小学校	もっと知りたい鎌倉大仏	神奈川の仏像、特に鎌倉大仏（高徳院阿弥陀如来坐像）について、そのかたちの意味や服装について、実際に鎌倉大仏の真似をしながら学んだ。	学芸員 神野 祐太	6学年・学年 1時限 88名
7月12日 （木）	海老名市立柏ヶ谷小学校	中世武士たちの鎌倉	鎌倉時代の「武士」についての常識・非常識について、教科書にも取り上げられるような資料（画像等）を使いながら、わかりやすく解説した。	学芸員 渡邊 浩貴	6学年・クラス 3時限 82名
7月13日 （金）	小田原市立芦子小学校	中世の美術（絵画）	室町時代の山水や花鳥の絵に、室町文化のすがたを探り、何がどのように描かれているのか。誰が描き、どういった人々が鑑賞したのか。ともに考えながら、室町文化への理解を深める講座を実施した。	学芸員 橋本 遼太	6学年・学年 1時限 75名
9月4日 （火）	横須賀市野比東小学校	江戸時代の花、浮世絵の話	江戸時代の美術、浮世絵について、その歴史、木版画の技術、題材、歌麿、北斎、広重など浮世絵師の魅力などを解説した。	主任学芸員 桑山 童奈	6学年・クラス 2時限 69名
9月6日 （木）	寒川町立寒川小学校	絵図で見る江戸時代	パワーポイントで当館所蔵の日本図・関東図・武蔵国相模国絵図などを見ながら、江戸時代の特徴について話した。また、学校のある地域が描かれた絵図を見ながら、現在も残っている寺社や江戸時代に作られた石仏なども紹介し、江戸時代から続く地域の歴史について考えた。	非常勤学芸員 根本 佐智子	6学年・クラス 2時限 85名
9月7日 （金）	海老名市立中新田小学校	日本の開国と異文化交流	ペリー来航、横浜開港など、日本の開国過程や、幕末・明治期における異文化交流の諸相について、アクティブ・ラーニング形式で講義を行った。	主任学芸員 嶋村 元宏	6学年・学年 3時限 83名
9月21日 （金）	横浜市立中和田南小学校	日本の開国と異文化交流	ペリー来航、横浜開港など、日本の開国過程や、幕末・明治期における異文化交流の諸相について、アクティブ・ラーニング形式で講義を行った。	主任学芸員 嶋村 元宏	6学年・クラス 2時限 59名
9月26日 （水）	三浦市立上宮田小学校	日本の開国と異文化交流	ペリー来航、横浜開港など、日本の開国過程や、幕末・明治期における異文化交流の諸相について、アクティブ・ラーニング形式で講義を行った。	主任学芸員 嶋村 元宏	6学年・学年 1時限 43名
9月28日 （金）	相模原市立湘南小学校	日本の開国と異文化交流	ペリー来航、横浜開港など、日本の開国過程や、幕末・明治期における異文化交流の諸相について、アクティブ・ラーニング形式で講義を行った。	主任学芸員 嶋村 元宏	6学年・学年 1時限 2名

10月19日 (金)	横浜市立相沢小学校	日本の開国と異文化交流	ペリー来航、横浜開港など、日本の開国過程や、幕末・明治期における異文化交流の諸相について、アクティブ・ラーニング形式で講義を行った。	主任学芸員 嶋村 元宏	6学年・クラス 2時限 64名
10月19日 (金)	横須賀市立浦賀小学校	身近な歴史	地図や空中写真を用いて学校周辺における景観の変化について紹介した。	学芸員 武田 周一郎	6学年・クラス 2時限 64名
11月6日 (火)	横浜市立義務教育学校霧が丘学園	もっと知りたい鎌倉大仏	神奈川の仏像、特に鎌倉大仏（高徳院阿弥陀如来坐像）について、そのかたちの意味や服装について、実際に鎌倉大仏の真似をしながら学ぶ授業を行った。	学芸員 神野 祐太	6学年・クラス 3時限 109名
11月9日 (金)	小田原市立久野小学校	江戸時代の東海道	江戸時代（元禄3年・1690年）に作られた東海道の絵地図（「東海道分間絵図」）をパソコン上に再現し、江戸時代の東海道や旅の様子を学んだ。	専門員 古宮 雅明	6学年・クラス 2時限 52名
11月13日 (火)	横須賀市立明浜小学校	日本の開国と異文化交流	ペリー来航、横浜開港など、日本の開国過程や、幕末・明治期における異文化交流の諸相について、アクティブ・ラーニング形式で講義を行った。	主任学芸員 嶋村 元宏	6学年・クラス 3時限 113名
11月15日 (木)	フェリス女学院高等学校	中世の美術(絵画)	室町時代の山水や花鳥の絵に室町文化のすがたを探り、何がどのように描かれているのか。誰が描き、どういった人々が鑑賞したのか。ともに考えながら、室町文化への理解を深める講座を実施した。	学芸員 橋本 遼太	2学年・クラス 1時限 24名
11月20日 (火)	フェリス女学院高等学校	中世の美術(絵画)	室町時代の山水や花鳥の絵に室町文化のすがたを探り、何がどのように描かれているのか。誰が描き、どういった人々が鑑賞したのか。ともに考えながら、室町文化への理解を深める講座を実施した。	学芸員 橋本 遼太	2学年・クラス 1時限 12名
11月27日 (火)	横浜市立並木中学校	日本の開国と異文化交流	ペリー来航、横浜開港など、日本の開国過程や、幕末・明治期における異文化交流の諸相について、アクティブ・ラーニング形式で講義を行った。	主任学芸員 嶋村　元宏	2学年・クラス 3時限 84名
12月3日 (月)	横須賀市立夏島小学校	身近な歴史	地図や空中写真を用いて学校周辺における景観の変化について紹介した。	学芸員 武田 周一郎	6学年・クラス 3時限 81名
12月17日 (月)	神奈川県立秦野養護学校	近現代の日本美術と社会	画像をうつしながら、クイズ形式で明治から昭和までの美術と社会のつながりを授業した。絵巻物のレプリカを使用し、絵の面白さ、印刷技術の展開を詳しく解説した。	主任学芸員 角田 拓朗	小4～中3・全学年(1クラス)・1時限 4名

12月18日 (火)	海老名市立柏ヶ谷小学校	近現代の日本美術と社会	画像をうつしながら、クイズ形式で授業をした。明治横浜の輸出と美術から、大阪万博と美術まで、教科書に寄り添いながら、より深く美術と社会のつながりへの理解を促した。	主任学芸員 角田 拓朗	6学年･クラス 3時限 82名
1月10日 (木)	横浜市立もえぎ野小学校	昔の道具を調べよう	現在の生活と比較しながら、高度経済成長期以前の生活を調べ、使用していた道具や生活の変化を考える講座を実施した。	学芸員 新井 裕美 非常勤学芸員 三浦 麻緒	3学年･クラス 3時限 104名
1月23日 (水)	相模原市立鶴の台小学校	昔の道具を調べよう	現在の生活と比較しながら、高度経済成長期以前の生活を調べ、使用していた道具や生活の変化を考える講座を実施した。	学芸員 新井 裕美 非常勤学芸員 三浦 麻緒	3学年･クラス 3時限 102名
1月29日 (火)	厚木市立南毛利小学校	昔の道具を調べよう	現在の生活と比較しながら、高度経済成長期以前の生活を調べ、使用していた道具や生活の変化を考える講座を実施した。	学芸員 新井 裕美	3学年･クラス 2時限 120名
1月31日 (木)	座間市立相模野小学校	昔の道具を調べよう	現在の生活と比較しながら、高度経済成長期以前の生活を調べ、使用していた道具や生活の変化を考える講座を実施した。	学芸員 新井 裕美	3学年･クラス 3時限 78名
2月7日 (木)	厚木市立上荻野小学校	昔の道具を調べよう	現在の生活と比較しながら、高度経済成長期以前の生活を調べ、使用していた道具や生活の変化を考える講座を実施した。	学芸員 新井 裕美	3学年･クラス 3時限 77名
合 計					73時限 2,682名

(6) ミュージアムライブラリー

県民の学習活動を支援する場として、1階フリーゾーンにミュージアムライブラリーを設置している。図書、情報システム端末（デジタルミュージアム用）などがあり、展示を中心とした神奈川の歴史や文化について学ぶことが出来る。

職員が1名以上常駐し、質問等を受け付けるなど、生涯学習の場として広く利用されるように運営している。（図書、情報システムの内容についてはそれぞれの項目に記載）

平成30年度の利用者総数は、14,282名で、フリーゾーンを含めた入館者に対する比率は11.8%である。

ア 閲覧用座席数

16席、来館者用情報システム端末：2台

イ 利用者数

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
小学生	53	64	20	100	320	83	53	112	48	61	86	76	1,076
中学生	5	315	83	6	35	25	18	51	32	74	39	9	692
高校生	7	32	6	3	28	3	2	3	4	10	10	2	110
大学生	15	18	7	18	11	24	1	10	9	1	4	10	128
一般成人	734	770	601	516	829	711	460	837	449	417	548	562	7,434
65歳以上	412	560	481	265	272	457	372	624	264	327	369	371	4,774

生徒引率	0	0	0	0	38	0	0	30	0	0	0	0	68
合計	1,226	1,759	1,198	908	1,533	1,303	906	1,667	806	890	1,056	1,030	14,282
開館日数（日）	3	27	26	23	27	28	22	26	21	22	23	26	274
1日平均	408.7	65.1	46.1	39.5	56.8	46.5	41.5	64.1	38.4	40.5	45.9	39.6	52.1

ウ　利用形態

（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
図書閲覧		180	568	361	296	405	464	305	459	221	275	352	333	4,219
情報システム端末		15	60	15	18	15	15	18	20	14	20	17	13	240
各種照会※		42	145	236	121	117	126	155	232	154	131	155	174	1,788
コピーサービス	（件数）	3	29	30	18	36	31	28	34	19	14	23	21	286
	（枚数）	40	281	238	193	242	250	233	247	80	157	159	182	2,302

※写真資料の特別利用手続、ポスター掲出・チラシ配架依頼、周辺施設の所在地に関する照会などへの対応

(7)　普及印刷物

ア　図録

・特別展図録「神奈川県博 開館51周年記念 つなぐ、神奈川県博ーCollection to Connection」平成30年4 月26 日発行
・特別展図録「明治150年記念 真明解 明治美術 増殖する新（ニュー）メディアー神奈川県立博物館50年の精華ー」平成30 年8 月3 日発行
・特別展図録「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」平成30 年10 月26 日発行
・特別陳列図録「平成30年度 特別陳列 屏風をひらけばー神奈川県立歴史博物館所蔵の屏風絵ー」平成31年3月2日発行

イ　広報印刷物

・特別展「神奈川県博 開館51周年記念 つなぐ、神奈川県博ーCollection to Connection」ポスター・チラシ
・特別展「明治150年記念 真明解 明治美術 増殖する新（ニュー）メディアー神奈川県立博物館50年の精華ー」ポスター・チラシ・リーフレット
・特別展「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」ポスター・チラシ
・特別陳列「平成30年度 特別陳列 屏風をひらけばー神奈川県立歴史博物館所蔵の屏風絵ー」ポスター・チラシ
・「催し物のご案内（2019年4 月～2020年3 月）」

ウ　神奈川県立歴史博物館だより

『神奈川県立歴史博物館だより』VOL.24　No.1　通巻208号　平成30年6月20日　(2,000部)
『神奈川県立歴史博物館だより』VOL.24　No.2　通巻209号　平成30年8月28日　(2,000部)
『神奈川県立歴史博物館だより』VOL.24　No.3　通巻210号　平成31年1月28日　(2,000部)

(8)　ボランティアの活動

平成9年度から登録を開始した博物館ボランティアは、平成29年度実施の応募者選考の結果、平成30年4月から新たに12名が活動を開始し、既登録者77名と併せて89名となった。内訳は、展示解説ボランティアが79名、行事補助ボランティアが10名である。

なお平成14年度から活動期間を5年間としているが、平成24～27年度登録者（第16～19期生）については休館期間分を延長し、7年間の活動期間となる。平成31年3月31日で任期満了となった第16期生は17名だが、うち活動終了者は9名、残りの8名には、人員不足を補うため来年度1年間の活動延長を依頼し、了承を得た。

ア　活動状況及び実績

展示解説ボランティアは、常設展展示解説のほか、特別展開催中には1日2回の定時解説(11時、15時)

を行っている。行事補助ボランティアは、子ども向け行事等の指導補助をはじめ、受付や案内など、学習支援事業の補助を行っている。ボランティア会は、幹事会(各曜日班から２名の幹事を選出)を組織し、月１回、館側の担当者と様々な調整や、情報の交換を行なっている。また、年３回『ボランティアニュース』を編集・発行しているほか、自主的に館外研修を企画・実施している。

(ｱ)　活動日数及び人数

月	活動日数(日)	延べ活動人数(人)
4	(休館中)	(休館中)
5	27	294
6	26	282
7	23	236
8	27	326
9	28	327
10	23	271
11	26	298
12	17	209
1	21	220
2	23	247
3	26	292
合計	267	3,002

(ｲ)　年代別・男女別人数等

年代	男	女	計
20	0	1	1
30	1	1	2
40	0	1	1
50	1	7	8
60	28	23	51
70	20	6	26
合計	50	39	89
平均年齢	67.7	61.8	65.1

(ｳ)　曜日別ボランティア数(展示解説ボランティアのみ)
火曜班：14名、水曜班：13名、木曜班：13名、金曜班：13名、土曜班：13名、日曜班：13名
計79名

(ｴ)　行事補助ボランティア　10名

イ　博物館入門講座(応募者91名・受講者第1日目64名、第2日目61名・定員70名)
普段見ることのできない博物館の様々な活動や学芸員の仕事について紹介するとともに、当館の展示についても学ぶ。当講座の受講が当館ボランティア応募の条件となる。
・第1回　10月6日(土) 11:00～15:50
講義名：当館の概要・博物館活動と学芸員の仕事・企画普及事業・館内見学
・第2回　10月7日(日) 11:00～15:50
講義名：「学芸員の目」(1)(2)・ワークショップ「学芸員の目を学ぶ」・「学芸員の技」

ウ　専門研修

新規採用ボランティアを対象として展示解説に必要な当館の常設展示に関する知識や、資料の保存、教育普及活動について、その内容を知ってもらうために実施する。なお今年度は、平成30年度新規ボランティア及び令和元年度新規ボランティアそれぞれに対して実施した。

(ｱ)平成30年度新規採用対象（20期）

・日時：平成30年5月27日、6月3日・10日・17日・24日、7月1日・8日、各日曜日10:00～15:00
（6月3日のみ16:00まで）

(ｲ)令和元年新規採用対象（21期）

・日時：平成31年2月2日・9日・16日・23日、3月2日・9日・16日、各土曜日10:00～15:00
(2月2日のみ16:00まで)

エ　その他の研修

(ｱ)　特別展研修

特別展の展示解説に資する研修として、解説に必要な図録や資料を配布するとともに、展示された資料について、担当学芸員から解説の実地研修を行った。

(ｲ)　フォローアップ研修

常設展示解説のフォローアップとして、個々のテーマで研修講座を実施した

実施日	テ　ー　マ
7月14日(土)	近世歴史の新しい展示について
12月15日(土)	テーマ１の更新したパネルの解説等
2月9日(土)	山内首藤氏の中世(パネルの解説を含む)

(9)　博物館実習生の受け入れ

「神奈川県立歴史博物館博物館実習生受け入れ要領」に基づき、見学実習と実務実習を受け入れた。

ア　見学実習

当館の概要(歴史・施設・組織・展示や事業概要など)について説明した後、展示室、バックヤード等の見学を行う。

【受け入れ実績】

	来館日	大学名	人数
1	6月17日（日）	日本大学通信教育部	12名
2	9月11日（火）	龍谷大学	42名
3	11月10日（土）	青山学院大学	24名
	合　　計		78名

イ　実務実習

博物館運営に関わる業務及び教育普及事業についてと、学芸部の資料の取り扱いや整理の方法などについて学ぶ7日間とした。

・応　募　数：11大学15名
・受　入　数：10大学13名
・実 受 入 数：10大学13名
・実受入大学名：神奈川大学・関東学院大学・京都造形芸術大学・実践女子大学・成城大学・清泉女子大学・東海大学・日本大学・明治大学・立正大学

【講義内容】

(ｱ)　9月4日（火）

ガイダンス、館内見学、概要説明、バックヤード見学、図書資料・ライブラリー、教育普及活動の概要、ボランティア活動

(ｲ)　9 月 5 日（水）
広報活動について/情報処理室見学（印刷物、WEB 関連）、学校連携事業、教育普及活動の実践①②、システムと写真資料、写場見学・撮影体験

(ｳ)　9 月 6 日（木）
資料保存①、民俗資料及びその取り扱いについて

(ｴ)　9 月 7 日（金）
美術資料及びその取り扱いについて、特別展見学、美術梱包見学

(ｵ)　9 月 11 日（火）
歴史資料及びその取り扱いについて

(ｶ)　9 月 12 日（水）
考古資料及びその取り扱いについて、資料保存②

(ｷ)　9 月 13 日（木）
教育普及活動の実践③④

６　資料

(1)　条例・規則

ア　神奈川県立の博物館条例

〔昭和41年10月7日 条例第43号〕

最終改正　平成28年10月21日条例第77号

(趣旨)

第1条　この条例は、神奈川県立の博物館の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条　博物館法(昭和26年法律第 285号)に基づき、次のとおり神奈川県立の博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

名　　称	位　　置	目　　的
神奈川県立歴史博物館	横浜市中区南仲通5丁目60番地	神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。
神奈川県立生命の星・地球博物館	小田原市入生田499番地	地球及び生命の営みに関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。

(職員)

第3条　博物館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付)

第4条　博物館に展示している博物館資料を観覧する者（以下「観覧者」という。）は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している博物館資料の観覧については、この限りでない。

2　前項本文の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会（以下「教育委員会」という。）がその都度定めることができる。

3　教育委員会は、第1項本文及び前項に規定する観覧料を納めた者に観覧券を交付するものとする。

4　観覧者（別表備考2に規定する者を除く。）は、入館する際に、前項に規定する観覧券又はこれに代わるものとして教育委員会が認めたものを提出し、又は提示しなければならない。

(観覧料の減免)

第5条　前条第1項本文及び第2項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生（学校教育法（昭和22年法律第26号。別表備考において「法」という。）第1条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。）並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第6条　既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第7条　博物館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第8条　教育委員会は、博物館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、博物館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第9条　この条例に定めるもののほか、博物館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附　則

この条例は、公布の日から起算して6月をこえない範囲内で教育委員会規則で定める日から施行する。（昭和41年11月18日教育委員会規則第8号で、同41年11月21日から施行。ただし、第4条から第9条までの規定の施行期日にあつては昭和42年3月22日とし、第10条の規定の施行期日にあつては昭和42年4月1日とする。）

（略）

附　則（平成28年10月21日条例第77号）

この条例は、平成28年12月1日から施行する。

別表（第4条関係）（抄）

区　　分		個　　人	20人以上の団体
神奈川県立歴史博物館	20歳以上65歳未満の者（学生及び高校生を除く。）	1人につき　300円	1人につき　250円
	20歳未満の者（高校生を除く。）	同　200円	同　150円
	学生（65歳以上の者を除く。）		
	65歳以上の者	同　100円	同　100円
	高　校　生		

備考　1　学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。

2　学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

イ　神奈川県立の博物館組織規則

（昭和41年11月18日教育委員会規則第10号）

最終改正　平成18年3月31日教育委員会規則第13号

（趣旨）

第1条　この規則は、神奈川県立の博物館の組織に関し必要な事項を定めるものとする。

（部等の設置）

第2条　神奈川県立の博物館に、次の部及び課を置く。

管理課

企画情報部

企画普及課

情報資料課

学芸部

（管理課の事務）

第3条　管理課においては、次の事務を分掌する。

(1) 公印に関すること。

(2) 文書の収受、発送、保存、閲覧等に関すること。

(3) 個人情報の開示、訂正、利用停止等に関すること。

(4) 人事に関すること。

(5) 財産の管理及び館内の秩序の維持に関すること。

(6) 予算の経理に関すること。

(7) 観覧料の徴収に関すること。

(8) 物品の調達及び処分に関すること。

(9) 寄贈品の受納並びに寄託品の受納及び返納に関すること。

(10) その他他部課の主管に属しないこと。

第4条　削除

（企画普及課の事務）

第5条　企画普及課においては、次の事務を分掌する。

(1) 博物館活動の企画及び調整に関すること。

(2) 博物館活動の普及及び広報に関すること。

(3) 博物館活動に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関すること。

(4) 他の博物館その他教育、学術又は文化に関する施設、団体等との連絡、協力及び情報の交換に関すること。

(情報資料課の事務)
第6条　神奈川県立歴史博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。
(1) 人文科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
(2) 博物館情報システムの運用に関すること。
2　神奈川県立生命の星・地球博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。
(1) 自然科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
(2) 博物館情報システムの総合的企画及び調整並びに運用に関すること。
(学芸部の事務)
第7条　学芸部においては、次の事務を分掌する。
(1) 博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説及び指導に関すること。
(2) 博物館資料の専門的及び技術的な調査研究に関すること。
(委任)
第8条　この規則の施行に関し必要な事項は、神奈川県教育委員会教育長が定める。
附　則
この規則は、昭和41年11月21日から施行する。
(略)
附　則(平成18年3月31日教育委員会規則第13号)
この規則は、平成18年4月1日から施行する。

ウ　神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

(昭和41年11月18日 教育委員会規則第9号)

最終改正　平成28年11月29日教育委員会規則第23号
(趣旨)
第1条　この規則は、神奈川県立の博物館の利用等に関し必要な事項を定めるものとする。
(権限の委任)
第2条　次に掲げる神奈川県教育委員会の権限は、神奈川県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に委任する。
(1) 神奈川県立の博物館条例(昭和41年神奈川県条例第43号。以下「条例」という。)第4条第2項の規定により観覧料を定めること。
(2) 条例第4条第3項の規定により観覧券を交付すること。
(3) 条例第4条第4項の規定により観覧券に代わるものを認めること。
(4) 条例第5条の規定により観覧料を減免すること。
(5) 条例第6条ただし書の規定により観覧料の還付を認めること。
(6) 条例第7条の規定により利用を承認すること。
(7) 条例第8条の規定により利用を制限すること。
(休館日等)
第3条　神奈川県立歴史博物館及び神奈川県立生命の星・地球博物館(以下「博物館」という。)の休館日は、次のとおりとする。
(1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「国民の祝日等」という。)に当たるときを除く。)
(2) 国民の祝日等の翌日(土曜日、日曜日又は国民の祝日等に当たるときを除く。)
(3) 12月28日から翌年の1月4日まで
(4) その他教育長が定める日
2　前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、臨時に博物館を開館することができる。
(開館時間等)
第4条　開館時間は、次のとおりとする。

名　　称	開　　館　　時　　間
神奈川県立歴史博物館	午前9時30分から午後5時まで。ただし、午後4時30分以降は、入館することができない。
神奈川県立生命の星・地球博物館	午前9時から午後4時30分まで。ただし、午後4時以降は、入館することができない。

2　前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(観覧券の様式)
第5条　条例第4条第3項に規定する観覧券は、神奈川県立歴史博物館にあっては第1号様式とし、神奈川県立生命の星・地球博物館にあつては第2号様式とする。
(観覧料の減免申請)
第6条　観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ、観覧料減免申請書を教育長に提出し、観覧料減免承認書の交付を受けなければならない。
(観覧料の還付申請)
第7条　観覧料の還付を受けようとする者は、観覧料還付申請書に観覧券を添えて教育長に提出し、観覧料還付承認書の交付を受けなければならない。
(資料の特別利用)
第8条　条例第7条の規定により博物館資料の特別利用の承認を受けようとする者は、特別利用承認申請書を教育長に提出し、特別利用承認書の交付を受けなければならない。
(利用の方法)
第9条　博物館を利用する者は、博物館の管理上必要な事項を守り、職員の指示に従わなければならない。
(資料の館外貸出し)
第10条　次に掲げるものは、教育長の承認を受けて博物館資料の館外貸出しを受けることができる。
(1)　国立の博物館、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣の指定した博物館に相当する施設
(2)　社会教育法（昭和24年法律第207号）第21条に規定する公民館
(3)　国立の図書館及び図書館法（昭和25年法律第118号）第2条第1項に規定する図書館
(4)　学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校
(5)　その他教育長が適当と認めるもの
2　前項の規定による承認を受けようとするものは、館外貸出承認申請書を教育長に提出し、館外貸出承認書の交付を受けなければならない。
(館外貸出しの期間)
第11条　博物館資料の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、教育長は、特に必要があると認めるときは、これを延長することができる。
2　前項の館外貸出しの期間は、博物館が当該博物館資料を引き渡した日から起算してその返還を受ける日までの日数により算定するものとする。
3　教育長は、館務の都合により必要があるときは、博物館資料の館外貸出しの期間中であつても、当該博物館資料の返還を求めることができる。
(館外貸出しをした資料の利用方法)
第12条　博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所で、利用してはならない。
(資料滅失等の届出)
第13条　博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちに資料滅失（損傷）届出書を教育長に提出しなければならない。
(寄託を受けた資料の利用の制限)
第14条　寄託を受けた博物館資料の館外展示及び館外貸出しは、寄託者の承諾がある場合のほかは、行なうことができない。
(委任)
第15条　この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附　則

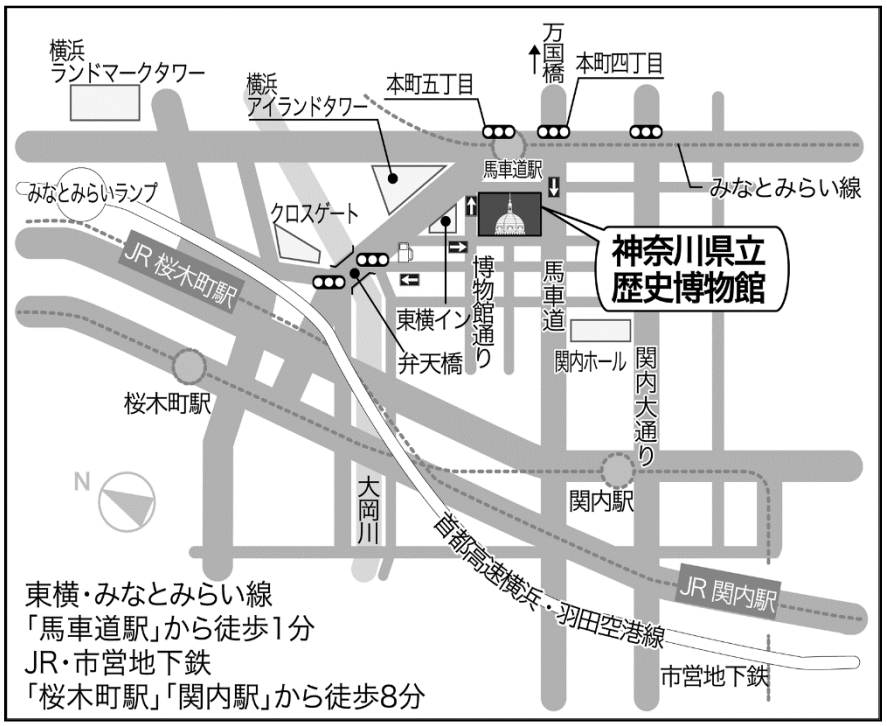
この規則は、昭和41年11月21日から施行する。ただし、第2条から第9条までの規定は、昭和42年3月22日から施行する。
(略)

附　則（平成28年11月29日教育委員会規則第23号）

この規則は、平成28年12月1日から施行する。第1号様式（第5条関係）（用紙　縦7センチメートル　横18センチメートル）第2号様式（第5条関係）（用紙　縦8.5センチメートル　横5.8センチメートル）

(2) 利用案内

1 名　　称 ： 神奈川県立歴史博物館 (Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History)
2 所 在 地 ： 横浜市中区南仲通5-60　　〒231-0006
3 電　　話 ： 045-201-0926(代表)
4 ＦＡＸ ： 045-201-7364
5 ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ ： http://ch.kanagawa-museum.jp/
6 交　　通 ： 東横・みなとみらい線「馬車道」駅5番出口より徒歩1分、
JR京浜東北・根岸線、横浜市営地下鉄ブルーライン「桜木町」駅または「関内」駅より徒歩8分
7 休 館 日 ： 月曜日(ただし、祝日の場合は開館)、資料整理休館日、年末年始
8 観 覧 料 ： ○常設展
・20歳以上(学生を除く)：300円(250円)　(　)内は20名以上の団体
・20歳未満及び学生：200円(150円)
・高校生及び65歳以上：100円(100円)
・中学生以下及び障害者手帳をお持ちの方は無料
○特別展
・常設展とは別料金となり、金額は展示ごとに別途定める。
○コレクション展
・無料
9 団体見学 ： 事前にご連絡ください。
10 地　　図



神奈川県立歴史博物館年報　平成 30 年度

2019 年 8 月 23 日

編集・発行　〒231-0006
横浜市中区南仲通 5-60
神奈川県立歴史博物館

本書の無断転載を禁ず

ISSN 1346-6127

Kanagawa Kenritsu Rekishi Hakubutsu-kan

Nen-po

Annual Report of the Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

(2018.4～2019.3)

Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

Naka-ku,Yokohama,Kanagawa,JAPAN